

埼玉県立近代美術館年報

令和5年度



ANNUAL REPORT 2023 — THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

■目次

| | | | |
|---------------------------|----|---------------------|----|
| 施設 | 2 | 図書資料の収集と公開 | 69 |
| 美術館誌 | 3 | 椅子の美術館 | 69 |
| 企画展 | 4 | トピックス | |
| 横尾龍彦 瞑想の彼方 | 4 | [1] さいたま国際芸術祭との連携 | 70 |
| イン・ビトウィーン | 10 | [2] 埼玉りそな銀行の協賛連携事業 | 70 |
| アブソリュート・チェアーズ | 17 | [3] 第13回ミュージアムフォーラム | 71 |
| アーティスト・プロジェクト #2.07 | 23 | [4] SMFとの連携 | 71 |
| MOMAS コレクション | 25 | 埼玉県立近代美術館フレンド | 72 |
| MOMAS コレクション[5/13 - 8/27] | 25 | 貸館事業 | 73 |
| MOMAS コレクション[9/2 - 11/26] | 29 | 入館者数一覧 | 75 |
| MOMAS コレクション[12/2 - 2/25] | 33 | 名簿 | 76 |
| MOMAS コレクション[3/2 - 6/2] | 36 | | |
| サンデー・トーク | 41 | | |
| 収集事業 | 42 | | |
| 新収蔵作品一覧 | 43 | | |
| 美術資料貸出等一覧 | | | |
| 美術作品の館外貸出 | 50 | | |
| 特別利用 | 51 | | |
| 教育・普及事業 | 53 | | |
| ミュージアム・レクチャー | 53 | | |
| ミュージアム・シアター | 54 | | |
| 一般団体対応 | 55 | | |
| ファミリー鑑賞会 | 56 | | |
| 子どもためのプログラム | | | |
| MOMAS のとびら | 57 | | |
| 夏休みの特別プログラム | 58 | | |
| ミュージアム・コラボレーション | 58 | | |
| 企画展ワークシートの作成 | 59 | | |
| 学校との連携 | | | |
| 教員美術講座 | 60 | | |
| ミュージアム・キャラバン事業 | 61 | | |
| 公募展 | 62 | | |
| その他の学校連携 | 63 | | |
| 博物館実習 | 64 | | |
| 美術館ボランティア | | | |
| 美術館サポーター | 64 | | |
| 教育普及サポート・スタッフ | 65 | | |
| MOMAS 彫刻ボランティア | 65 | | |
| 広聴・広報・刊行物 | 66 | | |

■ 施設

| | |
|------|---------------------------------------|
| 敷地面積 | 35,177 m ² |
| 建築面積 | 2,238 m ² |
| 延床面積 | 8,577 m ² |
| 展示壁長 | 1,440m |
| 建築高さ | 17.8m |
| 構 造 | 地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、 一部鉄骨鉄筋コンクリート造 |
| 工 期 | 昭和55年3月28日～昭和57年2月27日 |
| 設 計 | 株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 |
| 開 館 | 昭和57年11月3日 |

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央には4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられている。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間として様々なイベントにも使われる。

2階の展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中での人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の1985-86年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

■ 美術館誌

5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に変更され、感染症対策による行動制限が不要となったことから、展示室入場者数の制限等を撤廃した。

これにより、新型コロナウイルス感染症感染拡大前の状況に戻り、感染症対応のための制限等を考慮せずに事業を推進することが可能になった。

令和5（2023）年

- 2月25日 企画展「戸谷成雄 彫刻」を開催（～5月14日）。
- 4月8日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備（以降原則毎月第2日曜日）。
- 5月5日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」に書面審査を依頼。
- 5月8日 新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に変更となる。展示室入場制限等を撤廃。
- 5月13日 「MOMASコレクション[5/13 - 8/27]」を開催（～8月27日）。
- 6月3日 ポリスコンサートを北浦和公園にて開催予定も、大雨により中止。
- 6月30日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 7月15日 企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」を開催（～9月24日）。
- 7月15日 「埼玉りそな銀行フリーデー」を実施（MOMASコレクション観覧料無料）（～8月27日）。
- 7月15日 夏休みMOMASステーション設置（～8月29日）。
- 8月4日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 8月24日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 8月31日 博物館法による博物館登録申請。
- 9月2日 「MOMASコレクション[9/2 - 11/26]」を開催（～11月26日）。
- 9月22日 「埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」を開催。
- 10月7日 さいたま国際芸術祭2023開幕（～12月10日）。当館は割引クーポンの配布、スタンプラリー等連携事業を実施。
- 10月14日 企画展「イン・ビトウィーン」を開催（～1月28日）。
- 10月14日 アーティスト・プロジェクト #2.07「永井天陽 遠回りの近景」開催（～1月28日）。
- 11月6日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」に書面審査を依頼。
- 11月19日 公募プログラム「みつめて、かんじて、たべてみて！—作品のみかた・味わいかた」表彰式・試食イベント開催（応募作品を館内1階ギャラリーにて展示（11月14日～1月28日））。

- 12月2日 「MOMASコレクション[12/2 - 2/25]」を開催（～2月25日）。
- 12月17日 第13回ミュージアムフォーラム開催。

令和6（2024）年

- 1月27日 「埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」に持ち回りによる審査を依頼（～2月6日）。
- 2月9日 「埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 2月8日 「ミュージアム・キャラバン」を三郷市立前谷小学校にて開催。講師として美術家の青木聖吾氏を派遣。
- 2月15日 博物館法改正に伴う登録博物館への再登録について博物館登録原簿に登録完了。
- 2月15日 「ミュージアム・キャラバン」を戸田市立美谷本小学校にて開催。講師として現代美術家の大村雪乃氏を派遣。
- 2月17日 企画展「アブソリュート・チェアーズ」を開催（～5月12日）。
- 2月20日 「ファミリー鑑賞会」開催。新型コロナウイルス感染症対策による休止を経て、令和元年11月7日以来4年3カ月ぶりに開催。
- 2月22日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 3月2日 「MOMASコレクション[3/2 - 6/2]」を開催（～6月2日）。
- 3月15日 「第2回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 3月16日 「ミュージアム・レクチャー 日本の表装文化 古美術から現代絵画まで」を開催。
- 3月17日 「ミュージアム・シアター 女性たちの映像表現 第1回」を開催。
- 3月24日 「ミュージアム・シアター 女性たちの映像表現 第2回」を開催。

■ 企画展

令和5年度は、「戸谷成雄 彫刻」(2023年2月25日～5月14日)、「横尾龍彦 瞑想の彼方」(7月15日～9月24日)、「イン・ビトウィーン」(10月14日～2024年1月28日)、「アブソリュート・チェアーズ」(2月17日～5月12日)の4本の企画展を開催した。

「横尾龍彦 瞑想の彼方」は、晩年に秩父市にアトリエを構えた画家・横尾龍彦の足跡をたどる国内初の大規模な回顧展となった。横尾にゆかりのある北九州市立美術館、神奈川県立近代美術館、当館が協力して調査を進め、横尾の活動の全体像を描き出した。

「イン・ビトウィーン」は、当館のコレクションを活用する展覧会として企画された。近年収蔵作家となった早瀬龍江、ジョナス・メカス、林芳史の足跡を辿るとともに、ゲスト・アーティストに現在活躍中の潘逸舟を迎え、国境やジェンダー、虚実など様々な「境界の狭間」を展覧会全体のテーマとした。それによって、物故である3名の収蔵作家についても、今日的な視点を交えて紹介することができた。

「アブソリュート・チェアーズ」は、開館以来デザイナーズ・チェアを収集し、「椅子の美術館」として知られる当館が、現代美術のなかの椅子の表現に着目し、新たな視点から椅子の機能や含意を読み解く企画展である。当館館長の建島哲が発案し、長らく構想を練っていた本展が、巡回先の愛知県美術館との協働により、実現するかたちとなった。

また、平成28年度から実施している、学芸員が現在活躍中のアーティストを自由に推薦する展示プログラム「アーティスト・プロジェクト#2.0」は、令和5年度から企画展事業費により開催することとなった。令和5年度は、埼玉県飯能市出身の彫刻家・永井天陽を紹介する「永井天陽 遠回りの近景」(2023年10月14日～2024年1月28日)を開催した。永井はカラフルなアクリル材や剥製、既製品など異素材を重ね合わせ、多重の認識を引き起こすような作品を制作している。今回の展示では、展示室Dに加え、センターホールやエントランスでも建築空間と呼応したインスタレーションが展開された。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類へ移行したため、長らく休止していた担当学芸員によるギャラリートークを「横尾龍彦 瞑想の彼方」から再開した。各企画展では、その他にも多様な関連イベントを実施した。

なお、「イン・ビトウィーン」およびアーティスト・プロジェクト#2.07「永井天陽 遠回りの近景」は、「さいたま国際芸術祭2023」(2023年10月7日～12月10日)の連携プロジェクトとして開催した。

■ 横尾龍彦 瞑想の彼方

Yokoo Tatsuhiko Beyond the Realm of Meditation

■ 会期：2023年7月15日(土)～9月24日(日)

■ 主催：埼玉県立近代美術館

■ 協賛：株式会社イトーキ

■ 特別協力：公益財団法人日動美術財団

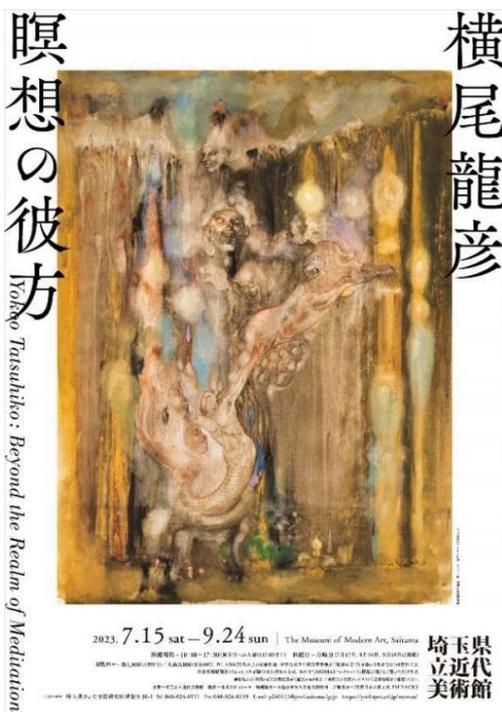
■ 広報協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK 5

■ 観覧料：一般1,000円(800円)、大高生800円(640円)

■ 入場者数：7,868人

■ 広報印刷物：ポスター兼ちらしA2(4つ折り) / デザイン：山下雅士(sleepwalk)

■ 担当学芸員：菊地真央、平野到、吉岡知子



A2 ポスター兼ちらし

■ 開催趣旨

横尾龍彦(1928-2015)は、日本とドイツを往来しながら活動し、独自の画境を深めた画家です。1960年代後半、キリスト教や神話を題材にした幻想画を発表、澁澤龍彦や種村季弘に高く評価されます。1980年以降には、禅やルドルフ・シュタイナーの霊学に影響を受けて東西思想の融合を志向し、力強い筆勢と飛沫が特徴的な抽象画を描くようになります。やがて、制作前に瞑想し無心の状態になることで、無作為に描くスタイルを確立。自意識を超えた世界の美を追求し続けました。本展では、日本の美術館で初めての回顧展として、秩父市のアトリエに遺された作品を中心に、横尾の初期から晩年までの作品・資料をご紹介します。

■ 図録

- ・規格：B5判(縦258mm×横190mm×厚19mm)、192頁
- ・編集：小松健一郎、山下理恵(北九州市立美術館)、橋口由依、西澤晴美(神奈川県立近代美術館)、菊地真央、平野到(埼玉県立近代美術館)

- ・デザイン：山下雅士 (sleepwalk)
- ・印刷・製本：光村印刷株式会社
- ・発行：埼玉県立近代美術館
- ・価格：2,000 円 (消費税込)

・内容：境域を踏み超える。(水沢勉、彼方より吹く風—横尾龍彦の内的世界 (小松健一郎) / 図版と章解説、コラム：第1章 北九州からヨーロッパ、東京へ、コラム・若松とのつながり (小松健一郎)、第2章 悪魔とエロスの幻想、コラム・挿絵の仕事 (橋口由依)、第3章 内なる青を見つめて、コラム・種村季弘とドイツ移住 (小松健一郎)、第4章 東と西のはざまで、特別コラム・「SMILE」と「にらみ」 横尾先生のこと／サレジオのころ (藤木隆男)、コラム・聖像制作 (菊地真央)、第5章 水が描く、風が描く、土が描く、コラム・秩父アトリエ (菊地真央) / 回想の横尾龍彦 (酒井忠康)、インタビュー：横尾嘉子 (橋口由依編集)、横尾龍彦の技法 (橋口由依)、「メディアーション芸術」の開示—横尾龍彦の晩年における活動について (菊地真央)、横尾龍彦年譜 (小松健一郎編集)、横尾龍彦関連文献一覧 (小松健一郎編集)、掲載作品および資料一覧、写真・画像提供

■ 関連事業

- ・特別対談 鎌田東二氏 (京都大学名誉教授) × 水沢勉氏 (神奈川県立近代美術館長)

日時：9月10日 (日) 15:00~16:30 (開場 14:30)

場所：2階講堂

参加者数：97人

- ・担当学芸員によるギャラリートーク

日時：7月15日 (土)、8月6日 (日)

各日とも 15:00 から 30 分程度

場所：2階展示室

参加者数：26人 (7月15日)、27名 (8月6日)

■ 広報記録

<新聞>

- ・「秩父にアトリエ 横尾龍彦回顧展」『読売新聞』2023年7月16日 埼玉版
- ・「美の履歴書 810 浮かぶ顔、顔 何を語る 「七つの燈台」 横尾龍彦」『朝日新聞』2023年8月22日
- ・「無意識の世界に美を求め 横尾龍彦 瞑想の彼方 県立近代美術館」『埼玉新聞』2023年9月5日
- ・「無の境地で描いた世界」『東京新聞』2023年9月10日 埼玉版
- ・告知：『毎日新聞』2023年6月23日、2023年6月30日、2023年8月25日、2023年9月1日、2023年9月8日 / 『埼玉よみうり』2023年6月23日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・志賀信夫「横尾龍彦 悪魔的幻想から瞑想的抽象へ」『EXTRAART』file. 37、2023年6月30日
- ・告知：『武州路』7月号、2023年6月20日 / 『美じょん新報』285号、2023年6月20日 / 『クッキーズ、とねじん』2023年6月26日 / 『たまログ』7月号、2023年7月1日 / 『定年時代』7月号、2023年7月3日 / 『埼玉往来』6・7月号、2023年7月15日 / 『彩の国だより』8月号、2023年8月1日 / 『ARIFIT』2023年8月18日

<テレビ・ラジオ>

- ・FM NACK5 『朝情報★埼玉』2023年7月14日
- ・NHK 教育 『日曜美術館アートシーン』2023年9月10日

<Web>

- ・「秩父にアトリエ構えた横尾龍彦さんの回顧展、県立近代美術館で」『読売新聞(Web)』2023年7月16日
- ・井戸沼紀美「埼玉県立近代美術館「横尾龍彦 瞑想の彼方」～9月24日」『ときの忘れもの』2023年8月2日
- ・告知：『ファッションプレス』2023年6月8日 / 『インターネットミュージアム』2023年6月13日 / 『アートアジェンダ』2023年6月18日 / 『展覧会・博物館・美術館・記念館』2023年6月19日 / 『ShareArt』2023年6月24日 / 『美術展ナビ』2023年6月27日 / 『Acore おおみや』2023年6月29日 / 『Sfumart』2023年7月11日 / 『Tokyo Art Beat』2023年7月15日 / 『ArtSticker』2023年7月18日 / 『県教委だより』2023年7月21日 / 『Web 美術手帖』2023年7月31日 / 『KATYCOM』2023年8月2日 / 『びあニュース』2023年8月22日



第2章 悪魔とエロスの幻想 展示風景

■ 担当後記

- ◆横尾龍彦は、少年時代を北九州市で過ごし、1970年代の後半には神奈川県逗子市に住んで鎌倉の文化人と交流し、晩年には埼玉県秩父市にアトリエを構えた。本展は、北九州市立美術館、神奈川県立近代美術館、当館というゆかりのある美術館で開催される大規模な回顧展となった。
- ◆当初、横尾が活動の拠点としたドイツでの調査も念頭に置かれていたが、2020年より続く新型コロナウイルスの影響と、予算上の問題で断念することになった。結果として、秩父市内のアトリエの作品、全国の美術館や国内の個人コレクターが所蔵する作品を丹念に調査することが出来た。横尾の作品は、年代によって作風が大きく変わるが、無意識を重視した制作方法などすべての作風に共通する要素も浮かがる。横尾の多彩な画風、そして横尾が制作において生涯一貫して重視した要素、いずれも明快に示すことができるように、各年代の作品をほぼ同程度の点数で、バランスよく紹介することを心がけた。ただし東京美術学校を卒業した直後、活動の最初期といえる1950年代の作品は確認できなかった。今回の調査で大きな成果となったのは、絵画作品のみならず、横尾が継続的に続けていた聖像の制作活動について概要を明らかに出来たことである。国内各地で、今も横尾の制作した聖像が礼拝、祈りの対象となっている。その一方で、すでに閉鎖された礼拝堂

などもあり、調査は大変貴重な機会となった。

◆作品調査、図録編集、各館の展示作業等について、各館の担当学芸員及び副担当の学芸員がバランスよく分担することができた。加えて、度重なるアトリエ調査にご協力くださった横尾嘉子氏、快くご出品や調査に応じてくださったご所蔵者や関係者の皆様のおかげで、横尾の画業をたどる初の展覧会として充実した内容となり、図録も完売となった。本展にご協力くださった皆様に改めて心より御礼申し上げたい。

(菊地真央)



第3章 内なる青を見つめて 展示風景



第5章 水が描く、土が描く、風が描く 展示風景

■出品リスト

- ・ 出品番号と展示の順番は必ずしも一致しません。
- ・ 資料の出品番号にはMを付しています。
- ・ 本展出品にあたり便宜上つけた作品名には*を付しています。

第1章 北九州からヨーロッパ、東京へ Chapter 1 From Kitakyushu to Europe and Tokyo

| 出品番号 | 作品名 | 制作年 | 技法材質 | 所蔵 |
|-------|--|----------|----------|----------|
| I-1 | 男の顔* | 1960年 | ガッシュ・紙 | 塩月律子氏蔵 |
| I-2 | 火野葦平の死顔 | 1960年 | リトグラフ・紙 | 北九州市立文学館 |
| I-3 | 人* | 1960年頃 | リトグラフ・紙 | 個人蔵 |
| I-4 | 三人像* | 1960年頃 | リトグラフ・紙 | 個人蔵 |
| I-5 | 二人の顔* | 1960年頃 | リトグラフ・紙 | 個人蔵 |
| I-6 | 教会 | 1965年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-7 | ラ・ボム | 1965年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-8 | 水と霊 | 1966年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-9 | 隠された真珠 | 1966年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-10 | 聖女 | 1966年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-11 | エゼキエルの幻視 | 1966年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-12 | 赤い実 | 1966年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-13 | 不死鳥 | 1967年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-14 | 沼の話 | 1967年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-15 | 引き出されたカオス | 1968年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-16 | 海 | 1960年代後半 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-17 | 魔教 | 1960年代後半 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-18 | 香煙 | 1960年代後半 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| I-19 | 謝肉祭 | 1960年代前半 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| I-M-1 | 「Tatsuhiko Yokoo」展リーフレット ギャラリー・ビュルデック | 1965年 | | 個人蔵 |
| I-M-2 | 「横尾龍彦展」リーフレット 青木画廊 | 1966年 | | 個人蔵 |
| I-M-3 | 「横尾龍彦」展リーフレット 青木画廊 | 1969年 | | 個人蔵 |
| I-M-4 | 「横尾龍彦」展パンフレット 青木画廊 | 1969年 | | 北九州市立美術館 |
| I-M-5 | 青木画廊での青木外司と横尾 | 1960年代後半 | | 個人蔵 |
| I-M-6 | 「横尾龍彦展」リーフレット 小倉井筒屋画廊 | 1964年 | | 個人蔵 |

第2章 悪魔とエロスの幻想 Chapter 2 Visions of The Devil and Eros

| 出品番号 | 作品名 | 制作年 | 技法材質 | 所蔵 |
|---------|-------------------------------------|------------|----------------|-------------------|
| II-1 | 夜と昼 | 1970年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-2 | 秘儀 | 1970年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-3 | 超人 | 1970年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-4 | 七つの燈台 | 1970年頃 | ガッシュ・紙 | 福岡県立美術館 |
| II-5 | 幽谷 | 1971年 | 油彩・カンヴァス | 北九州市立美術館 |
| II-6 | 黝い玉座 | 1972年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-7 | 流星の時 | 1973年 | ガッシュ・紙 | 神奈川県立近代美術館 |
| II-8 | 錬金術師 | 1973年頃 | ガッシュ・紙 | 神奈川県立近代美術館 |
| II-9 | 愚者の旅 | 1975年 | 油彩・カンヴァス | 北九州市立美術館 |
| II-10 | 不思議の国 | 1975年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| II-11-1 | 版画集『悪の華』 1. 高翔 | 1975年 | エッチング、アクアチント・紙 | 個人蔵 |
| II-11-2 | 版画集『悪の華』 3. 地獄のドンジュアン | 1975年 | エッチング、アクアチント・紙 | 個人蔵 |
| II-11-4 | 版画集『悪の華』 9. 魔王連禱 | 1975年 | エッチング、アクアチント・紙 | 個人蔵 |
| II-12 | 毒薬 | 1975年頃 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-13 | 奇異な火 | 1970年代後半 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-14 | 生命の水 | 1970年代後半 | 油彩・カンヴァスボード | 個人蔵 |
| II-15 | 獣の名は666なり | 1970年代 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-16 | 聖杯* | 1980年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-17 | 青い響き | 1980年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-18 | 復活 | 1980年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| II-19 | 岸辺の沈黙 | 1985年頃 | ガッシュ・紙 | 個人蔵（神奈川県立近代美術館寄託） |
| II-M-1 | モーリス・ド・グララン『詩集 サントオル』 窪田般彌訳 南柯書局 | 1975年 | | 個人蔵 |
| II-M-2 | テヴェレ川風景 | 1971-1972年 | | 個人蔵 |
| II-M-3 | フォカスの記念柱とサンティ・ルカ・エ・マルティーナ教会 | 1971-1972年 | | 個人蔵 |

| | | | |
|---------|--|--------|----------|
| II-M-4 | 「APOCALYPSE 黙示録、七つの封印 横尾龍彦展」 リーフレット 永井画廊 | 1977年 | 個人蔵 |
| II-M-5 | 井上光晴『黒と褐色と灰褐色』潮出版 初版 | 1974年 | 個人蔵 |
| II-M-6 | 高柳重信『青彌撒』深夜叢書社 初版 | 1974年 | 個人蔵 |
| II-M-7 | 須永朝彦『就眠儀式 須永朝彦吸血鬼小説集』西澤書店 初版 | 1974年 | 個人蔵 |
| II-M-8 | 青山光雄『詩集 月下の門』深夜叢書社 初版 | 1993年 | 個人蔵 |
| II-M-9 | 挿絵原画（井上光晴「[連載] 気温一〇度 第87回」 『毎日新聞』1979年8月8日夕刊に掲載） | 1979年 | 個人蔵 |
| II-M-10 | 挿絵原画（井上光晴「[連載] 気温一〇度 第164回」 『毎日新聞』1979年11月10日夕刊に掲載） | 1979年 | 個人蔵 |
| II-M-11 | 挿絵原画《木の精》（井上光晴「[連載] 企業ラブ 第10回」 『週刊ポスト』1977年3月11日号に掲載） | 1977年 | 榎本香葉子氏蔵 |
| II-M-12 | 井上光晴『丸山蘭水楼の遊女たち』新潮社 初版 | 1976年 | 個人蔵 |
| II-M-13 | 《十牛図 第一図 尋牛》プリント | 1988年 | 個人蔵 |
| II-M-14 | 《十牛図 第五図 牧牛》プリント | 1988年 | 個人蔵 |
| II-M-15 | 『みづゑ』第794号 美術出版社 | 1971年 | 個人蔵 |
| II-M-16 | 『横尾龍彦画集 幻の宮』芸術生活社 | 1973年 | 北九州市立美術館 |
| II-M-17 | 「横尾龍彦「真珠の狩人」展」リーフレット ギャラリーミキモト | 1975年 | 個人蔵 |
| II-M-18 | 「横尾龍彦「真珠の狩人」展」ポスター ギャラリーミキモト | 1975年 | 個人蔵 |
| II-M-19 | 挿絵原画（井上光晴「[連載] 日本改造法案大綱 第1回」 『潮』第220号、1977年9月に掲載） | 1977年 | 個人蔵 |
| II-M-20 | 挿絵原画（井上光晴「[連載] 日本改造法案大綱 第4回」 『潮』第223号、1977年12月に掲載） | 1977年 | 個人蔵 |
| II-M-21 | 乙竹宏『メルヘンの部屋11 誕生石』 （『世界の詩とメルヘン11 大地の詩』より）世界文化社 | 1978年頃 | 個人蔵 |
| II-M-22 | H. M. エノミヤ・ラサール 『Der Ochs und sein Hirte: Zen-Augenblicke』ケーゼル出版社 | 1990年 | 個人蔵 |

第3章 内なる青を見つめて Chapter 3 Looking into the Blue Within

| 出品番号 | 作品名 | 制作年 | 技法材質 | 所蔵 |
|---------|------------------------------|----------|----------|------------|
| III-1 | 黙示録より | 1976年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-2 | 黙示録 ゴグとマゴグ | 1977年 | 油彩・カンヴァス | 北九州市立美術館 |
| III-3 | 大地の歌 | 1979年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-4 | 滴る天の雫 | 1980年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-5 | Vision II | 1981年 | 油彩・板 | 個人蔵 |
| III-6 | 朝焼け | 1983年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-7 | 黎明 | 1983年 | 油彩・カンヴァス | 神奈川県立近代美術館 |
| III-8 | 風景 | 1984年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-9 | プレリュード | 1984年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-10 | 春の風 | 1985年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-11 | アルケミスト | 1985年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-12 | 黄金の珠 | 1985年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-13 | 水の柱 | 1985年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-14 | 封印は解かれた | 1985年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-15 | 不可知の雲 | 1985年頃 | 油彩・板 | 個人蔵 |
| III-16 | 天の戦闘 | 1986年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-17 | 仙境 | 1987年 | 油彩・カンヴァス | 個人蔵 |
| III-M-1 | オスナブリュックのシューレンバルク邸での制作風景 | 1980年 | | 個人蔵 |
| III-M-2 | オスナブリュックのアトリエ | 1980年代前半 | | 個人蔵 |
| III-M-3 | オスナブリュックのアトリエでの制作風景 | 1980年代前半 | | 個人蔵 |
| III-M-4 | オスナブリュックのアーベントギャラリーでの個展会場 | 1980年 | | 個人蔵 |
| III-M-5 | オスナブリュックでの種村季弘と横尾 | 1977年 | | 個人蔵 |
| III-M-6 | 『横尾龍彦作品集 1975-1985 青の時代』横尾龍彦 | 2006年 | | 個人蔵 |

第4章 東と西のはざままで Chapter 4 Between East and West

| 出品番号 | 作品名 | 制作年 | 技法材質 | 所蔵 |
|------|-------|-------|----------------|------------|
| IV-1 | 臥龍 | 1988年 | 油彩・カンヴァス | 神奈川県立近代美術館 |
| IV-2 | 枯木龍吟2 | 1988年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-3 | 聖布2 | 1989年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| IV-4 | 無題 | 1989年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| IV-5 | 円相 | 1989年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| IV-6 | 風 | 1989年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |

| | | | | |
|---------|--|----------|----------------|----------|
| IV-7 | アウロラ | 1991年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-8 | 無題 | 1992年 | ガッシュ・紙 | 個人蔵 |
| IV-9 | 天体音響 | 1992年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-10 | 円相 | 1992年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-11 | 風の沈黙 | 1993年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-12 | 一路涅槃門 | 1995年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-13 | 華 | 1995年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-14 | 舞踏する混沌 | 1996年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-15 | 像* | 1996年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-16 | 天のふち駒/昇龍 | 1999年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| IV-17 | 聖母子像 | 1987年 | 木 | 東京サレジオ学園 |
| IV-M-1 | キュルテンの家 | 1980年代後半 | | 個人蔵 |
| IV-M-2 | キュルテンの日本間 | 1980年代後半 | | 個人蔵 |
| IV-M-3 | キュルテンのアトリエ | 1980年代後半 | | 個人蔵 |
| IV-M-4 | 「TATSUHIKO YOKOO „Wanderer zwischen West und Ost.“ 展図録 ギャラリー・ルートヴィヒ・ラング | 1988年 | | 北九州市立美術館 |
| IV-M-5 | ギャラリー・ルートヴィヒ・ラングでの個展会場 | 1988年 | | 個人蔵 |
| IV-M-6 | ギャラリー・ルートヴィヒ・ラングでの個展会場 | 1988年 | | 個人蔵 |
| IV-M-7 | 「一東から西へ、そして再び東へ—横尾龍彦展」リーフレット ギャラリー・ミキモト | 1989年 | | 個人蔵 |
| IV-M-8 | 『icon』Vol. 17 スーパーアイコン出版 | 1989年 | | 個人蔵 |
| IV-M-9 | ナザレ修道女会移転管理委員会 『祈りの館—ナザレ修道院の建築空間』聖公会出版 | 1993年 | | 個人蔵 |
| IV-M-10 | 『新建築住宅特集』第102号 新建築社 | 1994年 | | 北九州市立美術館 |
| IV-M-11 | 北田英治『サレジオ』TOTO出版 | 1996年 | | 個人蔵 |

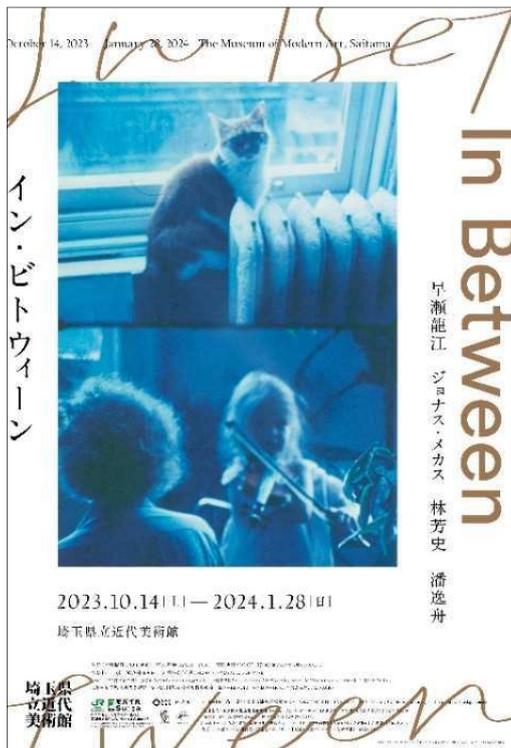
第5章 水が描く、風が描く、土が描く Chapter 5 Drawn By The Water, Drawn By The Wind, Drawn By The Earth

| 出品番号 | 作品名 | 制作年 | 技法材質 | 所蔵 |
|-------|---|-----------------------------|----------------|------------|
| V-1 | わだつみ | 1998年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-2 | 王の乗り物 | 1998年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-3 | 火山 | 2000年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-4 | 風 | 2001年 | ミクストメディア・カンヴァス | 北九州市立美術館 |
| V-5 | 樹 | 2001年 | ミクストメディア・カンヴァス | 北九州市立美術館 |
| V-6 | アポカリプス | 2001年 | ミクストメディア・カンヴァス | 神奈川県立近代美術館 |
| V-7 | 青い風 | 2003年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-8 | 風の舞踏 | 2003年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-9 | 雨を降らす龍 | 2003年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-10 | 宇宙の響き | 2003年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-11 | 不可知の雲 | 2004年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-12 | アポカリプス | 2004年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-13 | 白い雲 | 2005年 | ミクストメディア・カンヴァス | 世田谷美術館 |
| V-14 | キリストは死者の国へ行った | 2007年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-15 | 宇宙音響 I | 2010年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-16 | 宇宙音響 II | 2010年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-17 | 風神 | 2012年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-18 | 堅琴の調べ | 2012年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-19 | 飛翔 | 2013年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-20 | 本質的自然 | 2013年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-21 | 海 | 2014年 | ミクストメディア・カンヴァス | 個人蔵 |
| V-M-1 | 制作パフォーマンス記録映像 北九州市立美術館 (3分29秒) / シャルロッテンブルク宮殿、ベルリン (3分38秒) / ソニーセンター、ベルリン (3分18秒) | 2001年 / 2004年 / 2005年 | | 個人蔵 |
| V-M-2 | ベルリンのソニーセンターでの個展会場 | 2005年 | | 個人蔵 |
| V-M-3 | ベルリンのソニーセンターでのパフォーマンス風景 | 2005年 | | 個人蔵 |
| V-M-4 | 東京自由大学リーフレット | 1999年 | | 個人蔵 |
| V-M-5 | 東京自由大学 NewsLetter 創刊号 | 1999年 | | 個人蔵 |
| V-M-6 | メッツドルフのアトリエ外観 | 2013年頃 | | 個人蔵 |
| V-M-7 | 『横尾龍彦 1980-1998』春秋社 | 1998年 | | 埼玉県立近代美術館 |
| V-M-8 | 「藝術シンポジウムと藝術パフォーマンス」記録集 北九州市立美術館 | 2001年 | | 個人蔵 |

■ イン・ビトウィーン

In Between

- **会期**：2023年10月14日（土）～2024年1月28日（日）
- **主催**：埼玉県立近代美術館、さいたま国際芸術祭実行委員会
- **協力**：RE:VOIR
- **広報協力**：JR 東日本大宮支社、FM NACK5
- **観覧料**：一般 1000円（800円）、大高生 800円（640円）
- **入場者数**：8,500人
- **広報印刷物**：ポスターB2、ちらしA4（2つ折り）／デザイン：川村格夫（ten pieces）
- **担当学芸員**：嶋原悠、篠原優、佐藤あゆか



B2 ポスター

■ 開催趣旨

本展は近年当館の収蔵作家となった早瀬龍江（1905-1991）、ジョナス・メカス（1922-2019）、林芳史（1943-2001）に、ゲスト・アーティストとして潘逸舟（1987年生まれ）を加えた4名の作家に焦点を当て、作品や関連資料、関連作家の作品を交えながら紹介します。

日常と非日常、虚構と現実、過去と現在、国境、ジェンダーなど、世界には目に見える、あるいは目に見えない多くの境界があります。境界の存在は、向こう側を曇らせてしまうこともあれば、他方では自分の居場所を守るための拠りどころになることもあるでしょう。過去から現在まで、多くの作家がこうした境界の多様なあり方に着目し、作品を通してそれを浮かび上がらせようとしてきました。また、境界に立つ当事者としての自身のアイデンティティに向き合い、制作を続ける作家も少なくありません。

本展はこのような視点から、日常的な営みを起点に、絵画、版画、ドローイング、映像などそれぞれのメディアを用いた試みを重ね、他者との境界やアイデンティティについて思索を深める各作家の足跡を紹

介します。さまざまな境界線のあわいに立ち、往還する作家たちの眼差しと手探りは、現在に生きる私たちの視野を豊かに広げてくれることでしょう。

■ 図録

- ・規格：A5 変形版（21.0×14.6cm）、112頁
- ・編集：嶋原悠、篠原優、佐藤あゆか（埼玉県立近代美術館）
- ・デザイン：川村格夫（ten pieces）
- ・印刷・製本：関東図書株式会社
- ・発行：埼玉県立近代美術館
- ・価格：1,100円（消費税込）
- ・内容：
【図版】林芳史／潘逸舟、潘逸舟「イン・ビトウィーン」／早瀬龍江／ジョナス・メカス／嶋原悠「「イン・ビトウィーン」展覧会のためのイントロダクション」
【資料編】作家年譜・主要文献目録／関連作家略歴／出品リスト

■ 関連事業

・アーティスト・トーク

潘逸舟（出品作家）× 長島有里枝（アーティスト）

日時：10月14日（土） 15:00～16:30（開場は14:30）

場所：2階講堂

定員：80人（当日先着順）

参加費：無料

参加者数：60人

・ジョナス・メカス映像作品上映会&トーク

①第1回

日時：11月12日（日）13:30～15:40（開場は13:00）

プログラム：「いまだ失われざる楽園、あるいはウーナ3歳の年」

「富士山への道すがら、私が見たものは…」（16mmフィルムによる上映）

配給：メカス日本日記の会

映写：コガタ社

参加者数：45名

②第2回

日時：12月24日（日）13:30～15:15

プログラム：「アンディ・ウォーホルの授賞式」「カシス」「サーカス・ノート」「楽園のこちら側」「Cinema is Not 100 Years Old」

「ザ・テーブル」（デジタルによる上映）

配給：RE:VOIR、メカス日本日記の会

参加者数：81名

③ゲストによるトーク

日時：12月24日（日）15:30～

ゲスト：清原惟（映画監督・映像作家）× 井戸沼紀美（「肌蹴る光線」主宰）

参加者数：65名

①～③共通

場所：2階講堂

定員：60名（事前申込制、先着順）

参加費：無料

・ワークショップ「見つめる窓」

展覧会を鑑賞し、自分だけの窓を制作、北浦和公園内で展示・鑑賞した。

講師：潘逸舟（出品作家）

日時：12月3日（日）、12月10日（日）各13：30～15：30

定員：10名

対象：小学校中学年以上（両日参加できる方）

参加者数：12月3日…9名、12月10日…6名

・担当学芸員によるギャラリートーク

日時：1月13日（土）15：00～

担当：鳴原悠、篠原優、佐藤あゆか

場所：2階展示室

参加者数：30人

■ 広報記録

<新聞>

・平林由梨「不可視の「境界」見つけて 4作家紹介「イン・ビトウィーン」展 埼玉県立近代美術」『毎日新聞』2023年11月27日（夕刊）

・「飯能ゆかりの作家—早瀬龍江の作品—埼玉県立近代美術館に展示 シュルレアリスムの画家、白木正一の妻」『文化新聞』2023年12月6日

・出田阿生「「境界」を生きる4者4様 県立近代美術館 年代異なる国内外の作家」『東京新聞』（埼玉版）2023年12月17日

・告知：『新美術新聞』2023年8月15日／『朝日新聞』2023年10月17日（夕刊）／『東京新聞』2023年10月18日／『読売新聞』2023年11月20日（夕刊）／『毎日新聞』2023年10月27日、2023年12月1日、2023年12月8日、2023年12月15日、2024年1月12日／『埼玉新聞』2023年12月5日

<雑誌、ミニコミ誌等>

・「地域通信」『地域創造レター』12月号、2023年11月25日

・告知：『彩の国だより』10月号、2023年10月1日／『美術の窓』11月号、2023年10月20日／『武州路』11月号、2023年10月20日／『月刊アートコレクターズ』12月号、2023年11月25日／『武州路』12月号、2023年11月20日／『教育美術』2023年12月1日／『定年時代』12月号、2023年12月4日／『美術展びあ2024』2023年12月18日／『美術の杜』63号、2023年12月20日／『武州路』1月号、2023年12月20日

<テレビ、ラジオ>

・FM NACK5「朝情報★埼玉」2023年10月25日

・「アイ大宮東ビジョン」2024年1月

<Web>

・「“境界”をめぐる展覧会「イン・ビトウィーン」埼玉県立近代美術館で、ジョナス・メカスや潘逸舟などを紹介」『ファッションプレス』2023年9月28日

・KAZUMI NISHIMURA「今週末に見たいアートイベントTOP5」『ART news Japan』2023年10月20日

・藤原えりみ「水先案内人のおすすめ」『びあニュース』2023年11月4日

・【レポート】「イン・ビトウィーン」埼玉県立近代美術館『Acore おおみや』2023年11月5日

・SEIJI（小太刀正史）「今どきのアート 埼玉県立近代美術館で開催中の展覧会「イン・ビトウィーン In Between」は見ごたえあり！」『シテリビングWEB』2023年11月8日

・井戸沼紀美「埼玉県立近代美術館「イン・ビトウィーン」10月14日～2024年1月28日」『ときの忘れもの』2023年11月26日

・Naomi「アート作品を見るとは？「さいたま国際芸術祭2023」がもたらす視点の変化」『タイムアウト東京』2023年11月29日

・パントリーカ「【さいたま国際芸術祭2023/連携プロジェクト】「イン・ビトウィーン」@埼玉県立近代美術館」『リビング埼玉WEB』2023年12月6日

・鳴原悠「林芳史について—企画展「イン・ビトウィーン」によせて」『ときの忘れもの』2024年1月12日

・告知：『インターネット・ミュージアム』／『アート・アジェンダ』／『Sfumart』／『びあニュース』／『展覧会・博物館・美術館・記念館』2023年9月29日／『美術展ナビ』2023年10月10日／『Tokyo Art Beat』2023年10月14日／『Acore おおみや』2023年10月21日／「オススメ展覧会」『artscape』2023年10月15日／『Padograph』2023年10月18日／『KAMADO』2023年11月15日／「カルチャー・トピックス」『me and you』2023年12月号／『美術手帖』2023年12月15日

■ 担当後記

◆本展覧会は、当館のコレクションを活用する企画として構想され、近年新たにまとまった点数が収蔵された林芳史、早瀬龍江、ジョナス・メカスという3名の収蔵作家に、ゲスト・アーティストとして潘逸舟を加え、今日的な視点から各作家の活動の軌跡を紹介する機会としたと考えた。当館収蔵品を核にしながらか一部借用作品を交えて展示を構成し、年代もジャンルも異なる彼らの活動を捉える視点として「イン・ビトウィーン」というキーワードを設定した。なお、本タイトルは、メカスによる同題の映像作品から着想を得ている。

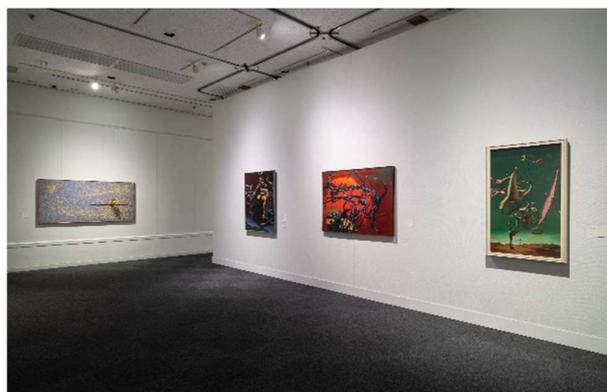
◆本展に出品された収蔵作家の3名（林、早瀬、メカス）は、これまでMOMASコレクション等で折に触れて展示してきたが、当館が各個人に焦点を当ててその活動を紹介するのは、本展がはじめての機会となった。映像作家として国内外での上映や展示機会の多いジョナス・メカスを除き、林芳史や早瀬龍江は重要な活動をしていながらも多くの人に知られているとは言い難く、調査の蓄積も未だ少ない。そのため、本展覧会は、各作家の活動を丁寧にとどめる基礎調査に基づいた展示構成を行うこととし、準備にあたっては、担当学芸員3名で作品や周辺資料の調査や関係者への聞き取り等を通して、各作家の略歴事項や基礎情報についての整理を行い、展示や図録へと反映することをめざした。

◆本展では、社会と個の関係の中で生じる戸惑いやアイデンティティの揺らぎに関心を持ち、国内外で映像やインスタレーションを発表しているアーティスト・潘逸舟（1987年生まれ）にゲスト・アーティストとして出品を依頼した。展覧会の趣旨や他の3名の出品作家の活動を踏まえ、潘には、コロナ禍の中国で経験した隔離生活を題材にした新作を中心とする映像インスタレーションを出品していただいた。潘

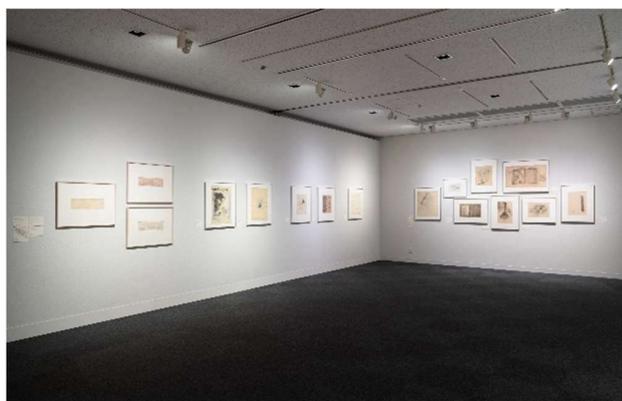
の展示は、過去に生きた3作家の視点を今日の鑑賞者に接続しながら、ある境界の間に生きるということについて、鑑賞者に想像を喚起させるものであったのではないかと考える。

◆本展はさいたま国際芸術祭との連携事業として実施したことにより、展示会場内でジョナス・メカスの3本の映像作品を上映することができた。映像作品の配給元である RE:VOIR には、映像・図版の提供や展示の助言等、展覧会への大きな協力をいただいたことも付記しておきたい。

◆会期中は、担当学芸員によるギャラリートークのほか、アーティスト・トーク、ワークショップ、ジョナス・メカスの映像作品の上映会とゲスト・トークといった充実したイベントを実施した。多種多様なイベントの開催を通して、幅広い層の参加を促すことができたと思われる。
(鳴原悠)



早瀬龍工 展示風景 (撮影：加藤健)



林芳史 展示風景 (撮影：加藤健)



ジョナス・メカス 展示風景 (撮影：加藤健)



潘逸舟 展示風景 (撮影：加藤健)

■出品リスト

| 1. 林芳史 HAYASHI Yoshifumi | | | | | |
|--------------------------|-----|------------------------------------|-----------|------------------|--|
| 出品番号 | 作家名 | 作品名 | 制作年 | 技法素材 | 所蔵先 |
| 1-1 | 林芳史 | Line<Topos> | 1974年 | エッチング、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-2 | 林芳史 | Line<Topos> | 1974年 | エッチング、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-3 | 林芳史 | Line<Topos> | 1974年 | エッチング、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-4 | 林芳史 | Concerning Identity and Difference | 1975年 | コンテ、彩色、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-5 | 林芳史 | Concerning Identity and Difference | 1975年 | 彩色、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-6 | 林芳史 | Work | 1975年 | コンテ、水彩、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-7 | 林芳史 | Drawing on Print | 1975年 | リトグラフ、鉛筆、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-8 | 林芳史 | Drawing on Print | 1975年 | 銅版、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-9 | 林芳史 | Pencil | 1975年 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-10 | 林芳史 | Work | 1975年 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-11 | 林芳史 | Work | 1975年 | フロッタージュ、コンテ、鉛筆、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-12 | 林芳史 | 習作 | 1975年頃 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-13 | 林芳史 | 習作 | 1975年頃 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-14 | 林芳史 | 習作 | 1975年頃 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-15 | 林芳史 | 習作 | 1975年頃 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-16 | 林芳史 | 習作 | 1975年頃 | フロッタージュ、コンテ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-17 | 林芳史 | Work | 1976年 | 水彩、コラージュ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-18 | 林芳史 | 劇画スケッチ | 1978年 | 墨、彩色、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-19 | 林芳史 | 習作 | 1978-80年頃 | 墨、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-20 | 林芳史 | Work | 1975年頃 | リトグラフ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-21 | 林芳史 | X | 1976年 | リトグラフ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-22 | 林芳史 | Work | 1977年頃 | リトグラフ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-23 | 林芳史 | The Plane Surface as an Object | 1978年頃 | リトグラフ、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-24 | 林芳史 | Work | 1980年頃 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-25 | 林芳史 | Work | 1980年頃 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-26 | 林芳史 | Work | 1980年頃 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-27 | 林芳史 | Work | 1980年頃 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-28 | 林芳史 | Work | 1980年 | 彩色、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-29 | 林芳史 | Work | 1979年 | 墨、鉛筆、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-30 | 林芳史 | Work | 1979年 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-31 | 林芳史 | Work | 1979年頃 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-32 | 林芳史 | Work | 1980年頃 | 彩色、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-33 | 林芳史 | 習作 | 1980年代 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-34 | 林芳史 | 習作 | 1980年代 | 彩色、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-35 | 林芳史 | 習作 | 1980年代 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-36 | 林芳史 | 習作 | 1980年代 | 墨、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-37 | 林芳史 | 習作 | 1980年代 | 墨、水彩、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-38 | 林芳史 | Work | 1980年頃 | 墨、箔、和紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-39 | 林芳史 | 筆触 | 1981年 | 銅版、紙 | 現代版画センターエディション 埼玉県立近代美術館 平成29年度有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |

| | | | | | |
|-------|------------------------------|--|-------------------------|-------------------|--|
| 1-40 | 林芳史 | 習作 | 1981年頃 | 墨、水彩、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-41 | 林芳史 | DISSIPATION 2 | 1982年頃 | 銅版、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-42 | 李禹煥 | 線より | 1980年 | 顔料、カンヴァス | 埼玉県立近代美術館 |
| 1-43 | 関根伸夫 | おちるリンゴ | 1975年 | シルクスクリーン、紙 | 現代版画センターエディション 埼玉県立近代美術館 平成29年度有限会社ワタヌキ/と きの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 1-44 | 関根伸夫 | プロジェクト・クレムリン | 1977年 | エッチング、紙 | 現代版画センターエディション 埼玉県立近代美術館 平成29年度有限会社ワタヌキ/と きの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 1-45 | 郭仁植 | Work 85 | 1985年 | 墨、和紙、カンヴァス | Gallery Q |
| 1-46 | 伊丹潤 | Work | 1984年 | 墨、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成6年度寄贈 |
| 1-47 | 鈴木慶則 | Untitled 水絵ウォーターエッジシリーズ | 1988年 | アクリル、麻紙、パネル | 個人蔵 |
| 1-48 | 飯田昭二 | 紙・墨 | 1989年頃 | 墨、紙 | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 林卓志氏寄贈 |
| 1-R1 | | 『高麗』第4号 | 1964年11月 | | 個人蔵 |
| 1-R2 | | 『美術情宣』創刊号 | 1973年8月 | | 個人蔵 |
| 1-R3 | | 『さぐる』第1号 | 1978-79年頃 | | 個人蔵 |
| 1-R4 | | 『さぐる』第2号 | 1979-80年頃 | | 個人蔵 |
| 1-R5 | | 初期作品制作過程 | 1975年頃 | 写真 | 個人蔵 |
| 1-R6 | | 個展会場風景 | 1970年代 | 写真 | 個人蔵 |
| 1-R7 | 撮影：安齊重男 | 個展「問または無知 へのへのもへの」 (白樺画廊) | 1976年 12月13日 | 写真 | 個人蔵 |
| 1-R8 | | 展覧会DM | | | 個人蔵 |
| 1-R9 | 林芳史 | 漫画原画、資料等 | 年代不詳 (1960年 代~70年代頃) | ペン、墨、コラージュ、 紙他 | 個人蔵 |
| 1-R10 | 林芳史 | 挿絵原画 | 年代不詳 | ペン、紙 | 個人蔵 |
| 1-R11 | | 『季刊 プレセ・ワコア』第3号 | 1992年12月 | | 個人蔵 |
| 1-R12 | | 「日仏作家五人展」リーフレット | 1981年 | | 個人蔵 |
| 1-R13 | | 「Abstractions- Japans」リーフレット | 1983年 | | 個人蔵 |
| 1-R14 | | 「交叉と距離 伊丹潤+林芳史」リーフレット | 1995年 | | 個人蔵 |
| 1-R15 | 林芳史 | 『雪舟の龍』 | 2000年 | | 個人蔵 |
| 1-R16 | | 制作ノート | 年代不詳 | | 個人蔵 |
| 1-R17 | 編集：林芳史・安芸幸生 | 『環境と美術』 | 1980年 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 1-R18 | 編集：関根伸夫・ 林芳史 レイアウト：林芳史 | 『位相絵画 関根伸夫』 | 1987年 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 1-R19 | | 「三周年記念展 郭仁植展」リーフレット | 1980年 | | 個人蔵 |
| 1-R20 | | 『郭仁植 〈追悼文集一徳ぶ〉』 | 1989年 | | 個人蔵 |
| 1-R21 | | 「あぶりだしによる…鈴木慶則展」 リーフレット | 1978年 | | 個人蔵 |
| 1-R22 | | 「鈴木慶則展」DM | 1985年 | | 個人蔵 |
| 1-R23 | | 林芳史筆 鈴木慶則宛 葉書 | 2000年 7月29日 (消印) | | 個人蔵 |
| 1-R24 | | 林芳史筆 鈴木慶則宛 葉書 | 2000年 10月21日 | | 個人蔵 |
| 1-R25 | | 飯田昭二筆 林芳史宛 書簡 | 年代不詳 (1991年以降) | | 個人蔵 |
| 1-R26 | | 飯田昭二筆 林芳史宛 葉書 | 1995年 1月22日 (消印) | | 個人蔵 |
| | | 『美術情宣』第4号 | 1975年5月 | | 個人蔵 |
| | | 『伊丹潤』 | 1985年 | | 個人蔵 |
| | 責任編集、装幀：林芳史 | 『SEKINE / A MESSAGE FROM ENVIRONMENT ART STUDIO 関根伸夫』 | 1987年 | | 埼玉県立近代美術館 |

2. 潘逸舟 HAN Ishu

| 出品番号 | 作家名 | 作品名 | 制作年 | 技法素材 | 所蔵先 |
|------|-----|--|-------|--------------------------|-----|
| 2-1 | 潘逸舟 | 家を見つめる窓 | 2023年 | 3チャンネル・ビデオ | 作家蔵 |
| 2-2 | 潘逸舟 | ひび割れ | 2023年 | シングルチャンネル・ビ デオ/2分33秒 | 作家蔵 |
| 2-3 | 潘逸舟 | 2022年1-2月 上海ホテル ベッド、スイッチ、不明、2つのスイッチ | 2022年 | フロッタージュ、木炭、 紙 | 作家蔵 |
| 2-4 | 潘逸舟 | 一木の紐 | 2012年 | シングルチャンネル・ビ デオ/5分54秒 | 作家蔵 |
| 2-5 | 潘逸舟 | 波を掃除する人 | 2019年 | シングルチャンネル・ビ デオ/18分31秒 | 作家蔵 |

3. 早瀬龍江 HAYASE Tatsue

| 出品番号 | 作家名 | 作品名 | 制作年 | 技法素材 | 所蔵先 |
|------|------|-------|----------|----------|---------|
| 3-1 | 早瀬龍江 | 絶望の果て | 1930年代後半 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-2 | 早瀬龍江 | 營 | 1940年 | 油彩、カンヴァス | 郡山市立美術館 |

| | | | | | |
|-------|--------------------------------|------------------------|------------|--------------------|-----------------------------|
| 3-3 | 早瀬龍江 | 静物 (B) | 1941年 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-4 | 早瀬龍江 | パンのある静物 | 制作年不詳 | 油彩、ボード | 埼玉県立近代美術館 平成30年度 木崎信尚氏寄贈 |
| 3-5 | 早瀬龍江 | 水の中 | 1948年 | 油彩、カンヴァス | 富岡市立美術館・福沢一郎 記念美術館 |
| 3-6 | 早瀬龍江 | 詩人K氏像 | 1949年 | 油彩、カンヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-7 | 早瀬龍江 | 限りなき憧憬 | 1951年 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-8 | 早瀬龍江 | 戯れ | 1952年 | 油彩、カンヴァス | 富岡市立美術館・福沢一郎 記念美術館 |
| 3-9 | 早瀬龍江 | 失題 | 1953年 | 油彩、カンヴァス | 富岡市立美術館・福沢一郎 記念美術館 |
| 3-10 | 早瀬龍江 | 非可逆的睡眠 | 1953年 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-11 | 早瀬龍江 | 悦楽 | 1953年 | 油彩、カンヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-12 | 早瀬龍江 | 願望 | 1953年 | 油彩、カンヴァス | 埼玉県立近代美術館 平成30年度 木崎信尚氏寄贈 |
| 3-13 | 早瀬龍江 | 妖火 | 1954年 | 油彩、ボタン、糸、カン ヴァス | 埼玉県立近代美術館 令和3年度 久富久美香氏寄贈 |
| 3-14 | 早瀬龍江 | 堆積苦悩 | 1955年 | 油彩、カンヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-15 | 早瀬龍江 | 知性の盲点 | 1955年 | 油彩、カンヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-16 | 早瀬龍江 | 作品名不詳 | 1955-58年頃 | インク、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成30年度 木崎信尚氏寄贈 |
| 3-17 | 早瀬龍江 | 禁断の遊戯 | 1956年 | 油彩、カンヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-18 | 早瀬龍江 | 屋上 | 1956年 | 油彩、カンヴァス | 埼玉県立近代美術館 平成30年度 木崎信尚氏寄贈 |
| 3-19 | 早瀬龍江 | 作品名不詳 | 1956年 | 油彩、カンヴァス | 埼玉県立近代美術館 平成30年度 木崎信尚氏寄贈 |
| 3-20 | 早瀬龍江 | 失題 | 1956年 | 油彩、カンヴァス | 富岡市立美術館・福沢一郎 記念美術館 |
| 3-21 | 早瀬龍江 | 絶望の人間 | 1958年 | 油彩、カンヴァス | 郡山市立美術館 |
| 3-22 | 早瀬龍江 | 非我 | 1958年 | 油彩、エナメル、ビー 玉、合板 | 飯能市立博物館 |
| 3-23 | 早瀬龍江 | 枯葉 | 1965年 | 油彩、カンヴァスボード | 飯能市立博物館 |
| 3-24 | 早瀬龍江 | 作品 | 1972年 | 油彩、蛍光塗料、カン ヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-25 | 早瀬龍江 | 太古 | 1975年 | 油彩、カンヴァス | 埼玉県立近代美術館 平成30年度 木崎信尚氏寄贈 |
| 3-26 | 早瀬龍江 | 信仰 | 1980年 | 油彩、カンヴァスボード | 飯能市立博物館 |
| 3-27 | 早瀬龍江 | 昆虫誌 | 1988年 | 油彩、コラージュ、カン ヴァス | 飯能市立博物館 |
| 3-28 | 福沢一郎 | 女 | 1937年 | 油彩、カンヴァス | 富岡市立美術館・福沢一郎 記念美術館 |
| 3-29 | 片谷美香 (愛子) | 花のある季節 | 制作年不詳 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-30 | 真鍋 (金子) 英雄 | 水辺 | 1941年 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-31 | 堀田操 | 墓標 | 1954年 | 油彩、カンヴァス | 埼玉県立近代美術館 平成20年度 堀田浅子氏寄贈 |
| 3-32 | 白木正一 | 留人 | 1952年 | 油彩、カンヴァス | 板橋区立美術館 |
| 3-33 | 山下菊二 | 作品 | 1963年 | グアッシュ、紙 | 板橋区立美術館 |
| 3-R1 | 早瀬龍江 | 《風景》 (第9回独立美術協会展) | 1939年 | 絵葉書 | 飯能市立博物館 |
| 3-R2 | | 『第5回日本アンデパンダン展 出品目録』 | 1953年 | | 慶應義塾大学アート・センター |
| 3-R3 | 監修：国立近代美術館 編集：今泉篤男・ 本間正義 | 『抽象と幻想』 | 1955年 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 3-R4 | | 『美術手帖』第78号 | 1954年2月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 3-R5 | | 白木正一筆 瀧口修造宛 書簡 | 1953年7月12日 | | 慶應義塾大学アート・センター |
| 3-R6 | | 『アトリエ』第324号 | 1954年2月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 3-R7 | | 『第116回美術文化展 画集』 | 1956年 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R8 | | 『超現実絵画の展開』 | 1960年 | | 慶應義塾大学アート・センター |
| 3-R9 | | 『第113回美術文化展 出品目録』 | 1953年 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R10 | | 『美術文化』第1号 | 1955年 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R11 | 早瀬龍江 | 《自嘲》 (第11回美術文化展) | 1951年 | 絵葉書 | 飯能市立博物館 |
| 3-R12 | 早瀬龍江 | 《赤い船》 (美術文化協会秋季展) | 1953年 | 絵葉書 | 飯能市立博物館 |
| 3-R13 | 早瀬龍江 | 《恩寵・嘔吐》 (第14回美術文化展) | 1954年 | 絵葉書 | 飯能市立博物館 |
| 3-R14 | 早瀬龍江 | 《自己放棄》 (第14回美術文化展) | 1954年 | 絵葉書 | 飯能市立博物館 |
| 3-R15 | 早瀬龍江 | 《牽牛織女》 (第14回美術文化展) | 1954年 | 絵葉書 | 飯能市立博物館 |
| 3-R16 | 福沢一郎 | 『福澤一郎畫集：1933』 | 1933年 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R17 | 福沢一郎 | 『近代美術思潮講座04：シュールレアリズム』 | 1937年 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R18 | | 『第1回展美術文化 出品目録』 | 1940年 | | 慶應義塾大学アート・センター |
| 3-R19 | | 「美術文化秋期会員展」目録 | 1959年 | | 慶應義塾大学アート・センター |
| 3-R20 | | 『美術文化』復刊第17号 | 1996年3月 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R21 | | 『美術文化 第20回展画集』 | 1960年 | | 東京文化財研究所 |
| 3-R22 | | 白木正一筆 瀧口修造宛 葉書 | 1963年 1月1日 | | 慶應義塾大学アート・センター |
| 3-R23 | | 早瀬龍江ポर्टレート他 | | 写真 | 飯能市立博物館 |

| | | 『みづゑ』第393号 | 1937年11月 | | 埼玉県立近代美術館 |
|--------------------------------|-------------------------|---|--------------------------------|------------------------|---|
| | | 『アトリエ』第7巻1号 | 1930年1月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| | | 『みづゑ』第389号 | 1937年7月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 4. ジョナス・メカス Jonas MEKAS | | | | | |
| 出品番号 | 作家名 | 作品名 | 制作年 | 技法素材 | 所蔵先 |
| 4-1 | ジョナス・メカス | Williamsburg, Brooklyn | 撮影：1950年、 1972年 編集：2003年 | オリジナル：16ミリフィルム/12分 | 映像提供：RE:VOIR |
| 4-2 | ジョナス・メカス | Travel Songs | 撮影：1967-81年 編集：2003年 | オリジナル：16ミリフィルム/23分 | 映像提供：RE:VOIR |
| 4-3 | ジョナス・メカス | 幸せな人生からの拾遺集 | 編集：2012年 | オリジナル：16ミリフィルム、ビデオ/68分 | 映像提供：RE:VOIR |
| 4-4 | ジョナス・メカス | セルフ・ポートレート、ラコステ（サド侯爵の城）の日蔭にて 1975 | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-5 | ジョナス・メカス | モントークのピーター・ピアード 1974 | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-6 | ジョナス・メカス | 枝と葉の影を映し、雨滴に濡れた壁 | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-7 | ジョナス・メカス | ウーナ・メカス 5才 猫とホリス（母）の前で ヴァイオリンの稽古 1979 | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-8 | ジョナス・メカス | 京子7才の誕生日（ヨーコ・オノの愛娘） 1970 | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-9 | ジョナス・メカス | 夜の街を走る車 マンハッタン | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-10 | ジョナス・メカス | ひなぎくを持ったケイト・マンハイム 1972 | 1983年 | シルクスクリーン、紙 | 埼玉県立近代美術館 平成29年度 有限会社ワタスキ/ ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈 |
| 4-11 | ジョナス・メカス | ピーター・ピアードとジョン、ハリウッド式「殴り合い」を演じる。モントーク、1972年8月 | 2000年 | Type-Cプリント | ときの忘れもの |
| 4-12 | ジョナス・メカス | アンディとリー。この夏、アンディはビデオをたくさん撮った。ほとんどは家の窓越しに。モントーク、1972年8月 | 2000年 | Type-Cプリント | ときの忘れもの |
| 4-13 | ジョナス・メカス | the spring comes very slowly and then very suddenly everything is abloom! | 2005年 | ラムダプリント | ときの忘れもの |
| 4-14 | ジョナス・メカス | モナ・リザ | 2009年 | CIBAプリント | ときの忘れもの |
| 4-15 | ジョナス・メカス | 料理をする私の母、1971 （リトアニアへの旅の追憶） | 2009年 | CIBAプリント | ときの忘れもの |
| 4-16 | ジョナス・メカス | ウーナ、1歳。... | 2009年 | CIBAプリント | ときの忘れもの |
| 4-17 | ジョナス・メカス | 題不詳 | 2009年 | CIBAプリント | ときの忘れもの |
| 4-18 | ジョナス・メカス | ピクニック | 2009年 | CIBAプリント | ときの忘れもの |
| 4-R1 | | ジョナス・メカス 作品カタログ | 年代不詳 | | ときの忘れもの |
| 4-R2 | | 『ジョナス・メカス映画美術館建設費助計画 オリジナル版画入りカタログ』 | 1983年 | | ときの忘れもの、 埼玉県立近代美術館 |
| 4-R3 | | ジョナス・メカス基金応募要項 | 1983年10月20日 | | ときの忘れもの |
| 4-R4 | | 『PRINT COMMUNICATION 版画センターニュース』 No. 100 | 1984年1月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 4-R5 | | 『美術手帖』第516号 | 1983年10月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 4-R6 | | 『イメージフォーラム』第50号 | 1984年11月 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 4-R7 | | 『FILM CULTURE』No. 70-71 | 1983年 | | 木下哲夫氏 |
| 4-R8 | | Anthology Film Archives リーフレット | 1998年 | | 木下哲夫氏 |
| 4-R9 | | Anthology Film Archives リーフレット | 2004年 | | 木下哲夫氏 |
| 4-R10 | | 『メカスの映画日記 ニュー・アメリカン・シネマの起源1959-1971』（改訂版） | 1993年 | | 埼玉県立近代美術館 |
| 4-R11 | ジョナス・メカス 翻訳：アドルフ・メカス | 『セメニシュケイの牧歌』（英語版） | 2007年 | | ときの忘れもの |
| 4-R12 | ジョナス・メカス 翻訳：村田郁夫 | 『ジョナス・メカス詩集』 | 2019年 | | 個人蔵 |
| 4-R13 | ジョナス・メカス | 『DIENORAŠČIAI（日記）1970-1982』 | 1985年 | | 木下哲夫氏 |
| 4-R14 | 撮影：岡崎乾二郎 | ジョナス・メカス ポートレート | 2005年 | 写真 | ときの忘れもの |
| 4-R15 | | ジョナス・メカス筆 木下哲夫宛 書簡 | 1999年1月20日 | | 木下哲夫氏 |

■ アブソリュート・チェアーズ Absolute Chairs

- **会期**：2024年2月17日（土）～5月12日（日）
- **主催**：埼玉県立近代美術館、東京新聞
- **協力**：国立民族学博物館
- **助成**：遠山記念館 芸術・学術研究等助成金
- **広報協力**：JR 東日本大宮支社、FM NACK 5
- **観覧料**：一般1300円（1040円）、大高生1040円（830円）
- **入場者数**：11,256人
- **広報印刷物**：ポスターB2、ちらしA4変形/デザイン：大溝裕（Glanz）
- **企画原案**：建畠哲
- **担当学芸員**：佐伯綾希、吉岡知子、松江李穂



B2 ポスター

■ 開催趣旨

開館当初からデザイン椅子の名品を館内に設置してきた「椅子の美術館」が、従来のデザイン椅子展とは異なる新しい視点から「椅子」というテーマに挑みます。

椅子は多くのデザイナーや建築家の創造性を刺激する絶対的なテーマであると同時に、アーティストにとっても魅力的なモチーフとなってきました。玉座のように権威の象徴となることもあれば、車椅子のように身体の補助となることもあり、電気椅子のように死や暴力とも無縁ではない椅子。また、私たちが椅子に座って向き合えば、そこには関係が生まれます。この上なく身近でありながら、社会や身体との密接な関わりの中で幅広い意味や象徴性をまとった椅子は、まさに究極の日用品と言えるでしょう。

アーティストたちは椅子のもつ意味をとらえ、作品を通じて社会の中の不和や矛盾、個人的な記憶や他者との関係性などを浮かび上がらせてきました。アートのなかの椅子は、日常で使う椅子にはない極端

なあり方、逸脱したあり方によって、私たちの思考に揺さぶりをかけます。

本展覧会は、主に戦後から現代までの美術作品における椅子の表現に着目するものです。椅子をめぐる国内外の平面・立体・映像作品約80点を紹介し、アートのなかの椅子の機能や含意を読み解きます。

■ 図録

- ・書名：アブソリュート・チェアーズ：現代美術のなかの椅子なるもの
- ・規格：B5、172頁
- ・執筆：建畠哲、木下知威（東京工業大学）、山口恵里子（筑波大学）、佐伯綾希、松江李穂、吉岡知子、鶴尾佳奈（愛知県美術館）、石崎尚（愛知県美術館）、中村史子（愛知県美術館）
- ・編者：埼玉県立近代美術館、愛知県美術館
- ・翻訳：小川紀久子
- ・ブックデザイン：大溝裕（Glanz）
- ・編集・制作：湯原公浩（平凡社）、日下部行洋（平凡社）、渡辺弥有（平凡社）
- ・発行：平凡社
- ・価格：3,300円（消費税込）
- ・内容：建畠哲「アブソリュート・チェアーズ」/佐伯綾希「アブソリュート・チェアーズ前史—19世紀後半のフランス絵画にみる椅子の諸相」/鶴尾佳奈「なぜ椅子はアーティストをも魅了するのか?—1960年代以降の椅子表現小史」/山口恵里子「椅子—グウェン・ジョンとフランシス・ベーコンの場合」/木下知威「車椅子の再組成」/第1章 美術館の座れない椅子/第2章 身体をなぞる椅子/第3章 権力を可視化する椅子/木下知威「コラム：椅子が運びくるもの」/第4章 物語る椅子/第5章 関係をつくる椅子/作家解説/椅子の文化と美術をめぐるブックリスト/出品リスト

■ 関連事業

- ・座談会「美術のなかの椅子なるもの」

日時：2024年2月23日（金・祝）13:30～16:00/場所：講堂/登壇者：山口恵里子、建畠哲、鶴尾佳奈、佐伯綾希/無料/参加者数：32人

- ・石田尚志（本展出品作家）パフォーマンス＋トーク＋上映会

日時：2024年3月10日（日）14:30～15:50/場所：講堂/無料/参加者数：52人

- ・檜皮一彦（本展出品作家）ワークショップ「埼玉県立近代美術館の避難プロトコルをプレイする。」

日時：2024年4月21日（日）13:00～16:30/場所：館内各所、講堂/無料/参加者数：9名（事前申込制）

- ・担当学芸員によるギャラリートーク

①日時：3月23日（土）15:00～15:30/参加者数：30人

②日時：4月13日（土）15:00～15:30/参加者数：32人

■ 広報記録

<新聞>

- ・「芸術家の視点『創作椅子』」『読売新聞』（地域）2024年2月23日
- ・平林由梨「『絶対的な椅子』の深遠」『毎日新聞』2024年2月26日

- ・『椅子』の実像を読み解く『アブソリュート・チェアーズ』展『東京新聞』、2024年3月4日
- ・小出菜津子「思考揺さぶる 多彩な椅子たち」『埼玉新聞』2024年3月5日
- ・佐伯綾希「アブソリュート・チェアーズ」『東京新聞』2024年3月13日
- ・杉全美帆子「杉全美帆子の読み解きアート」『東京新聞』2024年4月9日
- ・大西若人「椅子と人の関係 得心の切り口」『朝日新聞』2024年4月9日
- ・出田阿生「あっと驚く椅子アート」『東京新聞』2024年4月27日
- ・告知：『東京新聞』2024年1月4日、1月29日、2月7日／『朝日新聞』2024年2月20日、3月5日、3月12日、3月26日、4月30日／『毎日新聞』2024年2月23日、3月15日、4月5日、4月19日、4月26日、5月10日／『埼玉新聞』2024年4月9日
- <雑誌、ミニコミ誌等>
- ・「埼玉県立近代美術館の椅子をめぐる試み」『Fortuna』2023年12月8日
- ・佐伯綾希「椅子なるものをめぐって」『新美術新聞』2024年2月15日
- ・Yoshio Suzuki「CHAIR As a Metaphor 椅子というメディアが内包するデザイン、表象、概念」『HARPER'S BAZAAR』4月号、2024年2月20日
- ・「座れない、されど愉しきアートな椅子」『芸術新潮』3月号、2024年2月25日
- ・「ART 椅子の絶対的な魅力『アブソリュート・チェアーズ』」『men's FUDGE』2024年3月25日
- ・アートテラー・とに〜「アートテラー・とに〜 知ってる人だけウフブな展覧会」『女性自身』2024年3月26日
- ・木口理恵「アブソリュート・チェアーズ 椅子が映し出す動静」『いけ花龍生』4月号、2024年4月1日
- ・「アートシーンを訪ねる」『マネジメントスクエア』4月号、2024年4月1日
- ・アートテラー・とに〜「アートテラー・とに〜の『私が観てきた展覧会』」『月刊ギャラリー』2024年4月1日
- ・Natsumi Nishiyama「今月のアート情報」『FUDGE』5月号、2024年4月12日
- ・柴原聡子「4月のエンタメの新作レビュー」『GINZA』5月号、2024年4月12日
- ・香取麻衣子「首都圏アートさんぽ」『散歩の達人』5月号、2024年4月19日
- ・赤木真弓「ART&EVENT」『リンネル』2024年4月19日
- ・告知：『美術展びあ2024』2023年12月20日／『武州路』2024年2月号、3月号、4月号、5月号／『彩の国だより』2024年2月号／『美術の窓』2023年12月号、2024年3月号／『いけ花龍生』2024年3月号／『定年時代』2024年3月号／『美術新聞』2024年2月5日、3月5日、4月5日／『ARIFT』2024年3月号／『ブレーン』2024年4月号／『埼玉往来』2024年3月15日／『地域創造レター』2024年3月25日／『MOE』5月号／『InRed』4月号
- <テレビ、ラジオ>
- ・「アフター6ジャンクション2」TBS ラジオ、2024年2月17日
- ・「日曜美術館 アートシーン」NHK 教育、2024年4月21日
- ・「温水洋一と行くラーメン完食旅 埼玉編」GAORA SPORTS、2024年4月29日
- ・「耳で観る美術」かわさきFM、2024年6月4日
- ・告知：「朝情報★埼玉」FM NACK 5、2024年2月21日／「いまドキッ！埼玉」テレビ埼玉、3月16日
- <Web>
- ・「現代美術の“椅子の表現”に着目する展覧会、埼玉県立近代美術館で一草間彌生や宮永愛子など約70点」『ファッションプレス』2024年1月15日
- ・「『椅子の美術館』が新たな視点で『椅子』というテーマに挑む、『アブソリュート・チェアーズ』が開催」『イロハニアート』2024年1月22日
- ・はろるど「【2月のおすすめ展覧会5選】円空に村上隆、マティスから『アブソリュート・チェアーズ』まで」『イロハニアート』2024年2月7日
- ・「おすすめ展覧会」『ARTiT』2024年2月8日
- ・「今週末に行きたい展覧会ベスト8」『ファッションプレス』2024年2月16日
- ・「埼玉県立近代美術館で企画展『アブソリュート・チェアーズ』始まる 「椅子」モチーフに現代アート83作品」『東京新聞 TOKYO Web』2024年2月17日
- ・「アートのなかの椅子を読み解く一埼玉県立近代美術館『アブソリュート・チェアーズ』」『インターネットミュージアム』2024年2月17日
- ・三澤麦「「アブソリュート・チェアーズ」（埼玉県立近代美術館）開幕レポート。アート作品を通じて椅子の意義や役割を再考する」『Web 美術手帖』2024年2月19日
- ・永田晶子「『アブソリュート・チェアーズ』（埼玉県立近代美術館）レポート。ウォーホルやベーコン、名和晃平らの作品を通じて『椅子の絶対的魅力』に迫る」『Tokyo Art Beat』2024年2月19日
- ・「イベントレポート」『Acore おおみや』2024年2月21日
- ・「芸術家の視点『創作椅子』」『読売新聞オンライン』2024年2月23日
- ・坂入美彩子「IM レポート」『インターネットミュージアム』2024年2月23日
- ・アートテラー・とに〜「アブソリュート・チェアーズ」『アートテラー・とに〜の【ここにしかない美術室】』2024年2月29日
- ・「オススメ展覧会」『artscape』2024年3月1日
- ・はろるど「現代アートを通して、椅子が持つ多様な意味を考察。『アブソリュート・チェアーズ』が面白い！」『Pen オンライン』2024年3月6日
- ・「チケットプレゼント」『ARTiT』2024年3月6日
- ・「展覧会レポート 芸術家たちは椅子を使って何を表現したか。『アブソリュート・チェアーズ』」『アートアジェンダ』2024年3月14日
- ・坂本裕子「『アブソリュート・チェアーズ』埼玉県立近代美術館」『Web 太陽』2024年3月25日
- ・出田阿生「あっと驚く椅子アート」『東京新聞 TOKYO Web』2024年4月27日
- ・告知：『インターネットミュージアム』2023年11月29日／『ファッションプレス』2023年12月26日／『アートアジェンダ』2023年12月27日／『Sfumart』2024年1月10日／『Padograph』2024年1月30日

日／『KAMADO』2024年2月1日／『美術館ナビ』2024年2月6日／
『ぴあニュース』2024年2月8日／『Acore おおみや』2024年2月9
日／『Web版美術手帖』2024年2月14日／『JRおでかけガイド』2024
年2月15日／『じゃらん』2024年2月15日／『Tokyo Art Beat』2024
年2月17日／『ADF』2024年2月27日／『ShareArt』2024年3月11
日／『JDN』2024年3月18日

■ 担当後記

◆本展の構想は、建島哲館長が長年にわたって温めてきたものである。デヴィッド・ボウイの楽曲から展覧会タイトルの着想を得たという建島館長のビジョンを下敷きに、巡回館である愛知県美術館の担当者とのミーティングを重ね、現代美術における椅子がテーマの一風変わった展覧会が作り上げられた。マルセル・デュシャン《自転車の車輪》を冒頭に置き、「座る」だけにとどまらない椅子の多様な機能について考察する5章構成とした。出品作家の選定や海外交渉といった面では、大規模な芸術祭の豊富な経験を有する愛知県美術館から教示をいただいた。

◆準備の過程では、当館の「椅子の美術館」としてのあり方を見つめ直すとともに、「なぜ椅子は多くの人に愛され、アーティストにとっても魅力的なモチーフとなりうるのか」という問いと向き合うこととなった。本展を通して導き出した答えは、一言にまとめると「椅子は私たちの身近な存在でありながら、社会や身体との密接な関わりのなかで幅広い意味や象徴性をまとっているから」ということになる。椅子という存在を考える上で、図録に寄稿いただいた山口恵里子氏の著書『椅子と身体』から多くの示唆を得た。

◆立体作品が多いため、空間を十分にとり、壁の立て方などで変化をつけつつも、雑駁な印象にならないようすっきりと展示することを心掛けた。椅子という切り口を設けることで、本来は接点のない作品同士に新たな関係性が生まれ、刺激的な展示空間となったように思う。とりわけ第4章の、3点の立体作品を配置した空間が好評であった。

◆カナダを拠点とするアーティストのミシェル・ドゥ・ブロワン氏に滞在制作を依頼し、センターホールに会議椅子40脚を用いた彫刻作品《樹状細網》を設置した。ブロワン氏が事前に準備した詳細な設計図をもとに、椅子にワイヤーをつけて吊り下げる作業を行い、5日ほどかけて球状の作品が完成した。当館では海外作家を招聘しての滞在制作は久しぶりであったが、ドゥ・ブロワン氏とやりとりを重ねながらの作品制作は、担当学芸員にとっても貴重な経験となった。人間社会の暗喩とも捉えられる椅子の集合体は、ちょうど1階ロビーから見える高さに設置され、来館者に強い印象を与えていた。

◆副産物産店は、アーティストの制作現場などから出る廃材で作品を制作するユニットである。本展では、美術館のバックヤードや、埼玉・愛知県内のアーティストのアトリエから廃材を収集し、実際に座れる椅子を制作していただいた。ロダンの彫刻が入っていたクレートを使った椅子をはじめ、個性的な椅子が並び、わくわくするような展示空間となった。展覧会全体では触れられない作品が多い中、座り心地を確かめたり、記念撮影をしたりと思いいいに楽しめる椅子は来館者にも好評であった。

◆車椅子ユーザーである出品作家の檜皮一彦氏は、避難訓練をテーマに二回のワークショップを行い、その記録映像を作品として展示した。2023年11月に学芸員と美術館サポーターが参加して実施した一回目のワークショップでは、車椅子ユーザーが居合わせる状況下の大地震

を想定し、荒川河川敷から当館まで車椅子を運搬しつつ徒歩で移動した。会期中に一般の参加者とともに実施した二回目のワークショップでは、美術館での火災を想定し、車椅子ユーザーの避難誘導をシミュレーションした。担当学芸員も、身近な街中が移動の障壁に満ちていることを体感し、館内の避難訓練で使用されている災害時のプロトコルから車椅子ユーザーやさまざまな障害をもつ来館者の存在が抜け落ちていることを苦い思いとともに嘯みしめることとなった。この経験を糧に、配慮が必要な来館者を排除することのないよう、認識をアップデートするとともに、館内体制の整備に取り組みたい。

◆来館者からは、椅子についての新たな視点をもつことができたという肯定的な感想を多くいただいた。本展によって見えてきた課題を踏まえ、「椅子の美術館」として、引き続き新鮮な視点から椅子の魅力を発信し続けていきたい。
(佐伯綾希)



第1章展示風景（撮影：加藤健）



第3章展示風景（撮影：加藤健）



第4章展示風景（撮影：加藤健）



センターホール展示風景（撮影：加藤健）

■出品リスト

| 出品番号 | 作家名 | 作品名 | 制作年 | 技法材質 | 所蔵 |
|-----------------------|------------------------------|-----------------------------------|----------------------|---|---|
| 第1章 美術館の座れない椅子 | | | | | |
| 1-1 | マルセル・デュシャン | 自転車の車輪 | 1913/1964 シュヴァルツ版 | 木製の台所用スツール、自転車の車輪/手を加えたレディメイド | 京都国立近代美術館 |
| 1-2 | 高松次郎 | 複合体 (椅子とレンガ) | 1972 | 椅子、レンガ | The Estate of Jiro Takamatsu |
| 1-3 | 竹岡雄二 | マルセル・デュシャン「自転車の車輪」(1913)へのオマージュ | 1986 | 水彩、鉛筆、紙 | 個人蔵 |
| 1-4 | 草間彌生 | 無題 (金色の椅子のオブジェ) | 1966 | ミクストメディア | 高松市美術館 |
| 1-5 | 岡本太郎 | 坐ることを拒否する椅子 | 1963/c. 1990 | 陶 | 甲賀市信楽伝統産業会館 |
| 1-6 | ジム・ランビー | トレイン イン ヴェイン | 2008 | 木製椅子、ハンドバッグ、鏡、油性ペンキ | 公益財団法人アルカンシエール美術財団/原美術館コレクション |
| 第2章 身体をなぞる椅子 | | | | | |
| 2-1 | 工藤哲巳 | 愛 | 1964 | 椅子、綿、合成樹脂、電子回路図、毛髪、ビニールチューブ、彩色された木箱、ベル、オーディオテープ | 倉敷市立美術館 |
| 2-2 | フランシス・ベーコン | Triptych (三連画) 1974-77. | 1983 | ポスターエッチング、紙 | 高松市美術館 |
| 2-3 | フランシス・ベーコン | 座れる人物 | 1983 | エッチング/アクアチント、紙 | 高松市美術館 |
| 2-5 | アンナ・ハルプリン | シニアズ・ロッキング | 2005/2010 | 映像 (28分) 監督: リュディ・ガーバー | Courtesy of ZAS film AG |
| 第3章 権力を可視化する椅子 | | | | | |
| 3-1 | 工藤哲巳 | イヨネスコの肖像 | 1970-71 | 椅子、造花、バケツ、木、金属、プラスチック、他 | 京都国立近代美術館 |
| 3-3 | クリストヴァオ・カニヤヴァート (ケスター) | 肘掛け椅子 | 2012 | 鉄 | 国立民族学博物館 |
| 3-4-1 | ダラ・バーンバウム | 座らされた不安: 放埒 | 1975 | シングルチャンネル・ビデオ (5分15秒) | Courtesy of Dara Birnbaum and Electronic Arts Intermix (EAI), New York. |
| 3-4-2 | ダラ・バーンバウム | 座らされた不安: 酩酊 | 1975 | シングルチャンネル・ビデオ (13分6秒) | Courtesy of Dara Birnbaum and Electronic Arts Intermix (EAI), New York. |
| 3-4-3 | ダラ・バーンバウム | 座らされた不安 補遺: 自閉症 | 1975 | シングルチャンネル・ビデオ (7分20秒) | Courtesy of Dara Birnbaum and Electronic Arts Intermix (EAI), New York. |
| 3-5 | アンディ・ウォーホル | 電気椅子 | 1971 | シルクスクリーン、紙 | 滋賀県立美術館 |
| 3-6 | ミロスワフ・パウカ | φ51x4, 85x43x49 | 1998 | 木、鉄、塩、プラスチック | 国立国際美術館 |
| 3-7-1 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968-69/2014 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-7-2 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968-69/2014 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-7-3 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968-69/2014 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-7-4 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968/2014 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-7-5 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968-69/2023 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-7-6 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968-69/2014 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-7-7 | 渡辺晔 | 東大全共闘 1968-1969 | 1968-69/2023 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 3-8-1 | シャオ・イーノン (邵逸農) & ムウ・チェン (慕辰) | 集会所一高塘 | 2003 | Cプリント | 森美術館 |
| 3-8-2 | シャオ・イーノン (邵逸農) & ムウ・チェン (慕辰) | 集会所一西安・大興善寺 | 2003 | Cプリント | 森美術館 |
| 第4章 物語る椅子 | | | | | |
| 2-4 | ハンス・オブ・デ・ビーク | 眠る少女 | 2017 | ポリエステル、アルミニウム、塗料 | タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金 |
| 4-1 | 宮永愛子 | waiting for awakening -chair- | 2017 | ナフタリン、樹脂、ミクストメディア | |
| 4-2-1 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1979/2021 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-2 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1982/2021 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-3 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1981/2021 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-4 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1982/2021 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-5 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1983/2021 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-6 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1979/1980s | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-7 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1980/2023 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-8 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1981/2023 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-9 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1984/2023 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-2-10 | 潮田登久子 | マイハズバンド | 1984/2023 | ゼラチン・シルバー・プリント | 作家蔵 |
| 4-3 | 名和晃平 | PixCell-Tarot Reading (Jan. 2023) | 2023 | ミクストメディア | |

| | | | | | |
|-------|---------|----------|------|---------|-----|
| 4-4-1 | YU SORA | my room | 2019 | 布、糸、綿 | 作家蔵 |
| 4-4-2 | YU SORA | my room | 2019 | 布、糸、綿 | 作家蔵 |
| 4-4-3 | YU SORA | my room | 2019 | 布、糸、綿 | 作家蔵 |
| 4-4-4 | YU SORA | my room | 2019 | 布、糸、綿 | 作家蔵 |
| 4-5 | 石田尚志 | 椅子とスクリーン | 2002 | 映像 (8分) | |

第5章 関係をつくる椅子

| | | | | | |
|--------|------------------------|--|-----------------|-----------------------------------|--|
| 2-6-1 | 檜皮一彦 | walkingpractice / CODE: Evacuation_drills [SPEC_MOMAS] | 2024 | 映像インスタレーション (3時間44分47秒) | 作家蔵 |
| 2-6-3 | 檜皮一彦 | walkingpractice / CODE: Evacuation_drills [SPEC_MOMAS] DAY➡ Planning | 2024 | 映像インスタレーション (52分40秒) | 作家蔵 |
| 2-6-4 | 檜皮一彦 | 埼玉県立近代美術館の避難プロトコルをブレイする。walkingpractice / CODE: Evacuation_drills [SPEC_MOMAS] | 2024 | 映像インスタレーション (1時間48秒) | 作家蔵 |
| 5-1 | オノ・ヨーコ | 白いチェス・セット/信頼して駒を進めよ | 1966/2015 | 木製チェス台、2脚の木製椅子、32ピースのチェス (すべて白塗装) | タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金 |
| 5-2 | ローザス | Re: ローザス! | 2013-2024 (継続中) | 映像施工統括: カタルシスの岸辺 | www.rosasdanstrosas.be Courtesy of Rosas / FABULEUS |
| 5-3 | ミシェル・ドゥ・フロロン | 樹状細胞 | 2024 | 会議椅子、ワイヤー、他 | |
| 5-4-1 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/黒板 | 2005 | チョーク、黒板 | 森美術館 |
| 5-4-2 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/自分を舐めろ (「学校用机」シリーズより) | 2005 | 椅子に彫刻 | 森美術館 |
| 5-4-3 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/五頭目のアジアの虎 (「学校用机」シリーズより) | 2005 | 椅子に彫刻 | 森美術館 |
| 5-4-4 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/エレガントな中指1 (「学校用机」シリーズより) | 2005 | 椅子に彫刻 | 森美術館 |
| 5-4-5 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/エレガントなファシズム (「学校用机」シリーズより) | 2005 | 椅子に彫刻 | 森美術館 |
| 5-4-6 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/ワントオーンさんが二隻のボートに足を掛けて (「学校用机」シリーズより) | 2005 | 椅子に彫刻 | 森美術館 |
| 5-4-7 | スッティー・クッナー ウィチャーヤノン | ステレオタイプなタイ/ステレオタイプなタイ (「学校用机」シリーズより) | 2005 | 椅子に彫刻 | 森美術館 |
| 5-5-1 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-5-2 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-5-3 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-5-4 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-5-5 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-5-6 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-5-7 | ダイアナ・ラヒム | インターベンションズ | 2020- | インクジェットプリント、フォトマット紙 | 作家蔵 |
| 5-6-1 | 副産物産店 | Absolute Chairs #1_rodin' s crate | 2024 | 使用済みのクレート、緩衝材、木製脚 | 作家蔵 |
| 5-6-2 | 副産物産店 | Absolute Chairs #2_roofbase Chair | 2024 | 屋根馬、木材、ゴム | 作家蔵 |
| 5-6-3 | 副産物産店 | Absolute Chairs #1-2_braque' s crate | 2024 | 使用済みのクレート、木製パレット、ラッシングベルト、クッション | 作家蔵 |
| 5-6-4 | 副産物産店 | Absolute Chairs #2-2_roofbase Chair | 2024 | 屋根馬、木材、ゴム | 作家蔵 |
| 5-6-5 | 副産物産店 | Absolute Chairs #2-3_roofbase Chair | 2024 | 屋根馬、木材、ゴム | 作家蔵 |
| 5-6-6 | 副産物産店 | Absolute Chairs #2-4_roofbase Chair | 2024 | 屋根馬、木材、ゴム | 作家蔵 |
| 5-6-7 | 副産物産店 | Absolute Chairs #2-5_roofbase Chair | 2024 | 屋根馬、木材、ゴム | 作家蔵 |
| 5-6-8 | 副産物産店 | Absolute Chairs #2-6_roofbase Chair | 2024 | 屋根馬、木材、ゴム | 作家蔵 |
| 5-6-9 | 副産物産店 | Absolute Chairs #3_stock | 2024 | プラスチックコンテナ、木材 | 作家蔵 |
| 5-6-10 | 副産物産店 | Absolute Chairs #3-2_stock | 2024 | 寸胴鍋、木材 | 作家蔵 |
| 5-6-11 | 副産物産店 | Absolute Chairs #3-3_stock | 2024 | ペール缶、木材 | 作家蔵 |
| 5-6-12 | 副産物産店 | Absolute Chairs #3-4_stock | 2024 | 集塵機、木材 | 作家蔵 |
| 5-6-13 | 副産物産店 | Absolute Chairs #4_studio furniture | 2024 | プラスチックコンテナ、木材、道具 | 作家蔵 |
| 5-6-14 | 副産物産店 | Absolute Chairs #4-2_studio furniture | 2024 | 木材 | 作家蔵 |
| 5-6-15 | 副産物産店 | Absolute Chairs #5 | 2024 | 木材、カーペット | 作家蔵 |
| 5-6-16 | 副産物産店 | Absolute Chairs #5-2 | 2024 | 木材、カーペット | 作家蔵 |
| 5-6-17 | 副産物産店 | Absolute Chairs #5-3 | 2024 | 木材、ロープ | 作家蔵 |
| 5-6-18 | 副産物産店 | Absolute Chairs #5-4 | 2024 | 木材、frisbee、高速切断機の刃 | 作家蔵 |
| 5-6-19 | 副産物産店 | Absolute Chairs #5-5 | 2024 | 木材、オール | 作家蔵 |
| 5-6-20 | 副産物産店 | Absolute Chairs original | 2020 | 折り畳み椅子のフレーム、木材 | 作家蔵 |

■ アーティスト・プロジェクト #2.07

永井天陽 遠回りの近景

■ 会期：2023年10月14日（土）～2024年1月28日（日）

■ 主催：埼玉県立近代美術館、さいたま国際芸術祭実行委員会

■ 協力：HARMAS GALLERY、株式会社渡辺プラスチック工業、株式会社アイル、トラフズク、江口孔版株式会社、株式会社コバプロ

■ 広報協力：JR東日本株式会社、FM NACK 5

■ 助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団

■ 観覧料：無料

■ 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4、DM 170×170mm 変形/デザイン：八木宏基

■ 担当学芸員：佐伯綾希



B2 ポスター

■ 開催趣旨

「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、現在活躍中のアーティストを紹介する展示プログラムです。武蔵野美術大学大学院で彫刻を専攻した永井天陽（ながい そらや）は、ものや出来事へのささやかな疑問を出発点として、人が無意識に抱く感覚や認識への問いをテーマに制作してきました。

本展覧会は、永井が10年間にわたって取り組んできた「metaraction」シリーズを中心に構成されます。「metaraction」では、招き猫や信楽焼のためきといった既製品の型を取って透明なアクリル材に置き換え、その中にぬいぐるみなど別の既製品を詰め込んでいます。カラフルな蛍光色の“器”と、ところどころずれた“中身”は、主張し合いながら一体化し、多重の認識を引き起こします。鑑賞者の視線の先で、表層と中身、輪郭の関係は揺らぎ、日常的なものが様相を変えて立ち現れてきます。

他方で、永井の制作には通底して“死”へのまなざしが存在します。「metaraction」は、骨壺を目にしたときに抱いた違和感が制作のきっかけとなりました。生きた“その人”から容器に収まった“それ”への

変化を受容しきれない感覚は、生と死の不連続性をめぐる葛藤と言い換えることができるかもしれません。

センターホールのインスタレーションは、骨壺を意味する“urn”から派生したタイトルをもつ「urberto」シリーズからなっています。量販店などで見つけた既製品を器として、中に鳥の剥製を詰め込んだ「urberto」は、まさに鳥の遺骸を収める骨壺のようです。かつて鳥であったものたちが、生前のかたちを留めないほどに解体されているが、生きていたときのように止まり木で羽を休めています。こうして生と死のあわいに引き出されたものたちは、その生々しさによって生理的な感覚を刺激しつつ、不連続な生と死を結び合わせます。

永井は芸術を「遠回りの方法を考え多様な視点から世界を見ること」と位置づけています。ユーモラスな親しみやすさと得体のしれなさが同居する彫刻作品は、対象への認識を解体して組み換え、再統合する“遠回り”のプロセスを媒介します。また、“その人”と“それ”の間に何がありえたのかという、それ自身が“遠回り”な問いへの“遠回り”な答えを提示します。

世界を“遠回り”で眺めるとき、どんな景色がひらけるのでしょうか。

■ 関連事業

・ワークショップ「かけら／かたち」

日時：2023年11月18日（土）13:30～15:00／場所：3階創作室／講師：永井天陽／無料／参加者数20人（事前予約制）

・担当学芸員と作家によるギャラリートーク

日時：2023年12月2日（土）15:00～15:30／参加者数13人

■ 広報記録

<新聞>

・出田阿生「合体で生まれる「不思議」飯能出身彫刻家の永井さん 展覧会」『東京新聞』2023年12月21日

・「認識のズレ楽しむ作品 さいたままで企画展」『読売新聞』2024年1月10日

・告知：『産経新聞』2024年1月11日

<雑誌、ミニコミ誌等>

・「飯能ゆかりの作家」『文化新聞』2023年12月6日

・飯島モトハ「飯島モトハのアート&スイーツ第31回」『アートコレクションズ』2024年1月号

・告知：『武州路』2023年10月号、11月号／『彩の国だより』2023年12月号

<Web>

・浦島茂世「水先案内人のおすすめ」『ぴあニュース』2023年11月15日

・Naomi「アート作品を見るとは？「さいたま国際芸術祭2023」がもたらす視点の変化」『タイムアウト東京』2023年11月29日

・告知：『展覧会・博物館・美術館・記念館』2023年9月29日／『ファッションプレス』2023年10月12日／『Tokyo Art Beat』2023年10月14日／『Padograph』2023年10月18日

<テレビ・ラジオ>

・告知：『朝情報★埼玉（FM NACK 5）』2023年11月23日

■ 担当後記

◆これまでギャラリーの小空間を主な発表の場としてきた作家にとって、本展示会は大型作品を発表するまたとない機会となった。

「metaraction」の新作シリーズと、センターホールを巨大な鳥かごに変貌させたかのような「urnto」の大規模なインスタレーションを中心に、異素材の組み合わせや工業的な技術を用いた過去作を交えた展示は、まさに作家の集大成といえる内容であった。SNS では作品や会場の写真が数多く投稿され、若手作家を積極的に取り上げる試みを評価する感想もみられた。またショップで販売した作品集も好評であった。

◆メイン会場の2階展示室Dは、床を薄紫色のパンチカーペットで覆い、明るい雰囲気に変えた。作品の台座は、作家が OSB 合板や有孔ボードを用いて自作したものを持ち込むなど、展示空間には作家の意識が隅々まで反映された。展示作業の直前には、作品を吊るすためのセンターホールの昇降機が故障するトラブルがあったが、幸い数日で修理が完了し、開幕に間に合わせる事ができた。

◆一見身近で親しみやすく、しかしよく見るとじわじわと違和感が湧き起こってくる、そして内面と外見の関係など様々な解釈を誘う作品の魅力により、子供から大人まで楽しめる展示会となった。1階のスロープ横に設置した《metaraction #10》は、信楽焼のためぎとテディベアを一体化させたユーモラスな姿で来館者の目を惹いた。興味を持った親子連れや小学生などが、2階の会場まで足を運んでくれることもあった。関連ワークショップでは、カラフルなアクリルの端材を自由に組み合わせてキーホルダーやアクセサリを制作し、幅広い年齢層の参加者による個性豊かな作品が仕上がった。 (佐伯綾希)



展示風景 (撮影: 加藤健)



展示風景 (撮影: 加藤健)



センターホール展示風景 (撮影: 加藤健)

■ 出品リスト

作品データは、以下の順に記した。

出品番号/作品名/技法・素材/制作年

- 1 metaraction #32 PL-1/バービー、アクリル材/2023
- 2 metaraction #25 0-1/バービー、アクリル材/2021
- 3 metaraction #31 P-1/ぬいぐるみ、アクリル材/2023
- 4 metaraction #31 G-1/ぬいぐるみ、アクリル材/2023
- 5 metaraction #31 0-1/ぬいぐるみ、アクリル材/2023
- 6 metaraction #4-2/ぬいぐるみ、アクリル材/2014-23
- 7 mixed fruit/ミクストメディア/2015-23
- 8 トリという名の鳥/FRP、有孔ボード、アクリル材にスクリーンプリント/2017
- 9 かわとかたち 海のおと/水性樹脂、石膏ボード、アクリル材にスクリーンプリント/2022
- 10 かわとかたち ファミリー/水性樹脂、石膏ボード、アクリル材にスクリーンプリント/2022
- 11 モザイクをかける/御影石、アクリル材にスクリーンプリント/2022
- 12 urnto21-1/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2021
- 13 urnto21-2/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2021
- 14 urnto23-1/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 15 urnto21-23/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2021
- 16 urnto21-20/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2021
- 17 urnto23-2/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 18 urnto21-53/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 19 urnto23-3/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 20 urnto23-4/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 21 urnto23-5/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 22 urnto21-34/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 23 urnto/鳥の毛皮、既製品、木材に塗装/2023
- 24 metaraction #10/ぬいぐるみ、アクリル材/2014
- 25 metaraction #11/ぬいぐるみ、アクリル材/2015

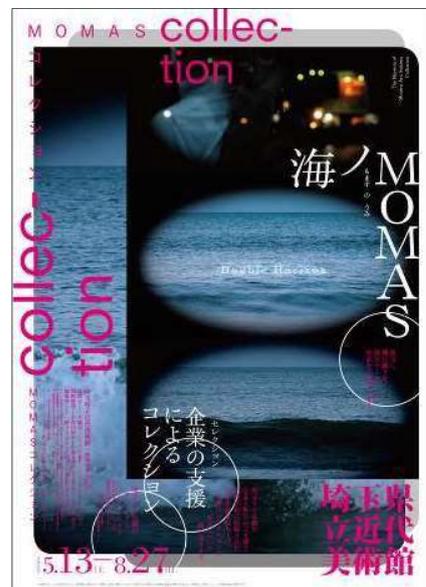
■ MOMASコレクション

MOMASコレクション(埼玉県立近代美術館常設展)では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の美術家の所蔵作品を、学芸員の調査・研究をもとにさまざまな観点から紹介している。年間を4つの会期に分け、会期ごとに名品を核にした「セレクション」のコーナーのほか、さまざまなテーマを掲げたコーナーを設けて、多角的な観点から展示を構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も併せて紹介し、展示内容の充実を図っている。このような姿勢を明確に提示するため、平成20年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMASコレクション」という名称を用いている。

令和5年度は、海が見せる多様な表情をテーマにした「MOMASノ海」(5/13-8/27)や、写実やリアルな表現の問題に焦点をあてた「魅惑のリアリズム」(12/2-2024/2/25)といったテーマ性のあるコーナー展示のほか、収集作家のまとまったコレクションを紹介する「特集:須田剋太」(9/2-11/26)などを開催した。また、「セレクション:企業の支援によるコレクション」(5/13-8/27)では、開館当初に埼玉りそな銀行(旧埼玉銀行)の支援で収集した主な作品を、埼玉りそな銀行開業20周年にちなんで紹介し、それに連動して埼玉りそな銀行の協賛、埼玉県立近代美術館フレンドの協力のもと、夏休み期間中に親子等で作品を観覧できるよう、7/15-8/27の期間、MOMASコレクションの観覧料を無料とする「埼玉りそな銀行フリーデー」を開催した。

■ MOMASコレクション [5/13 - 8/27]

- 会期: 2023年5月13日(土) ~ 8月27日(日)
- 主催: 埼玉県立近代美術館
- 協力: JR 東日本大宮支社
- 入場者数: 13,301人
- 広報印刷物: ポスター B1・B2 (3種) / デザイン: 杉山さゆり
- 担当学芸員: 平野到、五味良子



ポスター (各B1・B2)

■ 展示室A (1階)

《セレクション: 企業の支援によるコレクション》

埼玉りそな銀行開業20周年に関連し、埼玉りそな銀行(旧埼玉銀行)の支援で開館当初に収集された主な作品を取り上げ、当館のコレクションの形成について振り返った。

《MOMASノ海》

埼玉に、潮の香りを。夏の日差しがまぶしい季節にあわせ、海をテーマにした作品を集め紹介した。

■ 広報記録

<ラジオ>

・「県立近代美術館「MOMASコレクション」を開催」『朝情報★埼玉』2023年5月26日

<新聞>

・「埼玉ゆかり美術家作品並ぶ 近代美術館 埼玉りそな20周年企画」『読売新聞』2023年6月4日

・「県立近代美術館 常設展の観覧料無料」『埼玉新聞』2023年7月20日

<Web・ミニコミ誌等>

・告知：『展覧会・美術館・記念館』2023年5月13日

・告知：『Tokyo Art Beat』2023年5月13日

・告知：『Padograph』2023年5月24日



「セレクション：企業の支援によるコレクション」展示風景



「MOMASノ海」展示風景

■ 担当後記：《セレクション：企業の支援によるコレクション》

◆開館当初に収集した作品の中には、当館が購入した作品に加え、県内の企業から支援をいただき、収集がかなった作品がある。とりわけ、埼玉りそな銀行（旧埼玉銀行）から寄贈いただいた、埼玉ゆかりの画家、田中保の作品26点は、当館のコレクションの形成を考える上で重要なものである。また、開館の2年後には、旧埼玉銀行をはじめとする県内8つの金融機関から寄付金をいただき、オーギュスト・ルノワールの《三人の浴女》（1917-19年）とレオナルド・フジタの《横たわる裸婦と猫》（1931年）を購入することができた。今回のセレクションでは、令和5年が埼玉りそな銀行開業20周年にあたることにちなんで、開館当初に旧埼玉銀行の支援で収集された主要な作品を取り上げ、あわせて関連性のある収蔵作品も紹介し、当館のコレクションの形成について振り返った。企業の支援によるコレクションが、当館のコレクションにおいて果たしてきた重要性について、改めて目を向ける機会とした。

◆この「セレクション」の展示に連動し、埼玉りそな銀行の協賛、埼玉県立近代美術館フレンドの協力のもと、夏休み期間中に親子等で作品を観覧してもらえるように、7/15-8/27の期間、MOMASコレクションの観覧料を無料とする「埼玉りそな銀行フリーデー」を開催した。企業と連携して観覧料を無料とする取組は、滋賀県立美術館などの先行事例があるが、当館としては初めての試みであった。結果として「埼玉りそな銀行フリーデー」開催期間中のMOMASコレクションの観覧者数（9,228人）は、昨年度の同時期の観覧者数（4,942人）の約2倍となり、非常に効果が大きかったと言える。（平野到）

■ 担当後記：《MOMASノ海》

◆生命の源である海。古今東西、さまざまな美術作品の中で繰り返し海は登場してきた。当館の収蔵作品の中にも、海をテーマにした作品が少なくない。海のない埼玉であるが、展示室に概念としての海を再現して楽しんでいただけたらと考えて、展示にいくつかの工夫を織り交ぜながら今回のコーナーを練り上げた。

◆シルバーと白を基調に、鏡面や半透明の素材を使い、白く明るい照明で涼やかな空間を演出した。夏の海のきらめきは格別である。そのまぶしい日差しに負けないくらい、輝くような部屋に仕上げたかった。今回の作品を引き立てるテーマとして、反射や透過といったキーワードを設定した。一部の壁面をミラーパネルで覆ったところ、空間に広がりを持たせることができた。キャプションには、軽やかな印象の透過性のあるトレーシングペーパーを採用した。通常の無地の印刷と薄くグレーを載せて刷った紙を少しだけずれるように重ねて、文字がにじむような奥行きを出すよう試してみた。

◆木村直道や建島覚造らの立体作品は、半円形の台に乗せて照明をブルーに設定、ないしミラーの反射効果を計算した展示とした。打ち寄せる波をイメージしてもらえたようで、建島の作品が初めてタイトルどおり波に見えたという来場者からの声が聞かれ幸いであった。

◆ミラーやガラスケースなど、壁面の随所に、海を題材にした近代の詩をちりばめ、展示作品と共に味わえるよう工夫を試みた。アルチュール・ランボーの海の詩を想起させる柄澤齊の版画や山崎博の写真など、詩と共に紹介することでいっそう作品へのイメージネーションが深まるよう意識した。駒井哲郎や浜口陽三、日和崎尊夫らの細密な版画や増田三男の情感あふれる金工は、じっくり向き合えるよう、独立した中央空間に展示した。反対の壁面には、それらと結びつくようなジャン・コクトーの詩を掲出した。斎藤与里の海女を描いた大作や田中保の海辺の女性像、川本末雄の日本画などは、島崎藤村や中原中也の詩で彩りを添えた。

◆海が持つ多彩な表情を見せたく、このように近代から現代まで、平面・立体・映像と幅広く作品を取り上げ、写実的な傾向の作品から幻想的な色合いの作品、抽象的な作品にいたるまで、サイズも大小さまざまな作品を意図的に織り交ぜた。異なる雰囲気を持つ作品どうしの組み合わせは複雑で、当初の予想以上に完成させるのが難しい空間となった。2日間の展示替作業は、常に決断の連続で時間との勝負になるが、展示数を厳選し、作品間を広く取ることで何とか一つの空間としてまとめることができたと思う。スクリプカリウ落合安奈の映像作品から穏やかな潮騒が聞こえ、海の響きが展示室を満たしていたことも、作品同士のゆるやかなつながりを生んでいた。（五味良子）

■出品リスト

展示室A

| 作家名 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 技法・素材 | 備考 |
|--------------------------------|-------------|-----------------------------|-------------------------------|------------------------------|--|
| 1 セレクション：企業の支援によるコレクション | | | | | |
| アルフレッド・シスレー | [1839-1899] | セーヴルの坂道 | 1879 | 油彩、カンヴァス | 令和2年度丸沼芸術の森寄託 |
| クロード・モネ | [1840-1926] | ジヴェルニーの積みわら、夕日 | 1888-1889 | 油彩、カンヴァス | |
| オーギュスト・ルノワール | [1841-1919] | 三人の浴女 | 1917-1919 | 油彩、カンヴァス | 昭和59年度に以下8金融機関の寄付金で購入：旧・埼玉銀行、武蔵野銀行、埼玉県信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫、小川信用金庫、飯能信用金庫、埼玉県信用農業協同組合連合会 |
| モーリス・ドニ | [1870-1943] | シャグマユリの聖母子 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| パブロ・ピカソ | [1881-1973] | 静物 | 1944 | 油彩、カンヴァス | |
| 田中保 | [1886-1941] | キュビストA | 1915 (大正4) | 油彩、カンヴァス | 昭和57年度旧・埼玉銀行寄贈 |
| 田中保 | [1886-1941] | キュビストB | 1915 (大正4) | 油彩、カンヴァス | 昭和57年度旧・埼玉銀行寄贈 |
| 田中保 | [1886-1941] | 横たわる裸婦 | 1920 (大正9) - 1930 (昭和5) | 油彩、カンヴァス | 昭和57年度旧・埼玉銀行寄贈 |
| 田中保 | [1886-1941] | 黒いドレスの腰かけている女 | 1920 (大正9) - 1930 (昭和5) | 油彩、カンヴァス | 昭和57年度旧・埼玉銀行寄贈 |
| 田中保 | [1886-1941] | サン・ベネゼ橋 | 1928 (昭和3) 頃 | 油彩、カンヴァス | 昭和57年度旧・埼玉銀行寄贈 |
| レオナルド・フジタ | [1886-1968] | 横たわる裸婦と猫 | 1931 (昭和6) | 油彩、カンヴァス | 昭和59年度に以下8金融機関の寄付金で購入：旧・埼玉銀行、武蔵野銀行、埼玉県信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫、小川信用金庫、飯能信用金庫、埼玉県信用農業協同組合連合会 |
| マルク・シャガール | [1887-1985] | 二つの花束 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| キスリング | [1891-1953] | 赤いテーブルの上の果実 | 1944 | 油彩、カンヴァス | |
| 2 MOMASノ海 | | | | | |
| 斎藤与里 | [1885-1959] | 海女 | 1932 (昭和7) | 油彩、カンヴァス | |
| 田中保 | [1886-1941] | 背中の裸婦 | 1920 (大正9) - 1930 (昭和5) | 油彩、ボード | |
| 山路貞護 | [1900-1969] | 水の幻想 | 1947 (昭和22) | 油彩、カンヴァス | |
| 川本末雄 | [1907-1982] | 浜風 | 1964 (昭和39) | 彩色、紙 | 平成4年度川本貞子氏寄贈 |
| 増田三男 | [1909-2009] | 金彩浜辺ノ詩箱 | | 銀、金のアマルガム、臍彫 | 平成22年度斎藤晴子氏寄贈 |
| 建畠覚造 | [1919-2006] | Waving Figure 18 | 1985 (昭和60) | 合板、ウレタン | |
| 建畠覚造 | [1919-2006] | Waving Figure 25 | 1985 (昭和60) | 合板、ウレタン | 昭和63年度寄贈 |
| 木村直道 | [1923-1972] | 青函連絡船 | 制作年不詳 | 金属、プラスチック | 平成12年度加藤典子氏寄贈 |
| 小川游 | [1932-] | 千倉の海 | 1989 (平成元) | 油彩、カンヴァス | 平成3年度寄贈 |
| 五月女幸雄 | [1938-] | Vision Fugitive | 1989 (平成元) | 油彩、カンヴァス | |
| 山崎博 | [1946-2017] | 海をまねる太陽 1 | 1978 (昭和53) | ゼラチン・シルバー・プリント | |
| 山崎博 | [1946-2017] | 海をまねる太陽 2 | 1978 (昭和53) | ゼラチン・シルバー・プリント | |
| 山崎博 | [1946-2017] | 海をまねる太陽 3 | 1978 (昭和53) | ゼラチン・シルバー・プリント | |
| 山崎博 | [1946-2017] | 海をまねる太陽 4 | 1978 (昭和53) | ゼラチン・シルバー・プリント | |
| 山崎博 | [1946-2017] | 海をまねる太陽 5 | 1978 (昭和53) | ゼラチン・シルバー・プリント | |
| 柄澤齊 | [1950-] | 肖像 IV アルチュール・ランボー | 1982 (昭和57) | 木口木版、紙 | |
| スクリプカリウ落合安奈 | [1992-] | Blessing Beyond the Borders | 2019 (令和元) プリント：2022 (令和4) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度寄贈 |
| スクリプカリウ落合安奈 | [1992-] | Double Horizon | 2022 (令和4) | シングルチャンネルビデオ、サウンド (13分7秒ループ) | サウンド：BATACO/サウンドリミックス：高木創/映像編集協力：青木理紗/英語字幕：野村善文 協力：平戸市生月町博物館 島の館、松浦史料博物館、平戸オランダ商館、Art collective "Residence project" (現在 iittee) 令和4年度寄贈 |

前期展示 : 5/13-7/2

| | | | | | |
|-------|-------------|--------------|-------------|--|----------------------------------|
| 横山大観 | [1868-1958] | 海辺巖 | 1930 (昭和5) | 彩色、絹 | 平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈 |
| 斎藤豊作 | [1880-1950] | 波 I | | 鉛筆、紙 | 平成19年度アリーナ・サイトウ氏寄贈 |
| 熊谷守一 | [1880-1977] | 大島 | 1935 (昭和10) | 油彩、板 | 平成10年度鈴木い弥氏寄贈 |
| 森田恒友 | [1881-1931] | 磯 II | 1912 (大正元) | 油彩、カンヴァス | 昭和58年度森田仁介氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 波のたわむれ (おどり) | 1956 (昭和31) | アクアチント、紙 | |
| 駒井哲郎 | [1920-1976] | 海底の祭 | 1951 (昭和26) | ドライポイント、メゾチント、ソフトグラウンド・エッチング、エングレーヴィング、紙 | 平成4年度ホダカ株式会社寄贈 |
| 日和崎尊夫 | [1941-1992] | 魚のカーニバル | 1982 (昭和57) | 木口木版、紙 | 平成13年度荒井勝明氏寄贈 |

後期展示 : 7/4-8/2

| | | | | | |
|---------|-------------|-------------|-------------|----------|----------------------------------|
| 横山大観 | [1868-1958] | 漁村曙 | 1940 (昭和15) | 彩色、絹 | 平成19年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈 |
| モーリス・ドニ | [1870-1943] | トレストリニエルの岩場 | 1920 | 油彩、カンヴァス | |
| 斎藤豊作 | [1880-1950] | 波 II | | 鉛筆、紙 | 平成19年度アリーナ・サイトウ氏寄贈 |
| 浜口陽三 | [1909-1999] | 9つの貝殻 | 1979 (昭和54) | メゾチント、紙 | |
| 駒井哲郎 | [1920-1976] | 海の中の静物 | 1968 (昭和43) | エッチング、紙 | 平成4年度ホダカ株式会社寄贈 |
| 日和崎尊夫 | [1941-1992] | 海球 | 1980 (昭和55) | 木口木版、紙 | 平成13年度荒井勝明氏寄贈 |

展示室A 小部屋

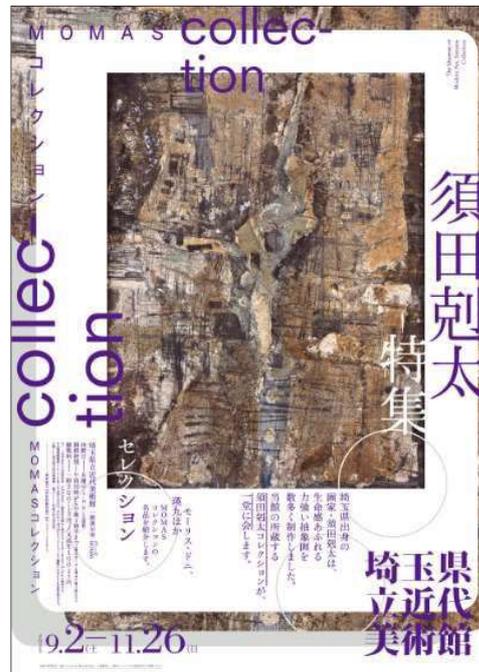
| | | | | | |
|--|--|-----|------------------------------|---------------------------------------|---------------|
| 木村直道 | [1923-1972] | 蟹 | 1965 (昭和40) - 1967 (昭和42) | 鉄、コンクリート | 平成12年度加藤典子氏寄贈 |
| ヨナタン・デ・パス ドナート・ドゥルビーノ パオロ・ロマッツィ カルラ・スコラーリ | [1932-1991] [1935-] [1936-] [1930年代-] | プロウ | デザイン : 1967 製品化 : 1968 | ザノッタ社/イタリア 高周波溶着したPVC (ポリ塩化ビニル) | |

展示室A入口

| | | | | | |
|--------------|-------------|-----------|------|------|--|
| アリスティド・マイヨール | [1861-1944] | イル・ド・フランス | 1925 | ブロンズ | |
|--------------|-------------|-----------|------|------|--|

■ MOMASコレクション [9/2 - 11/26]

- 会期：2023年9月2日(土)～11月26日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社
- 入場者数：9,008人
- 広報印刷物：ポスター B1・B2 (3種) /デザイン：杉山さゆり
- 担当学芸員：五味良子、大越久子



ポスター (各B1・B2)

■ 展示室A (1階)

《セレクション》

ドニホカ、MOMASコレクションの名品を紹介した。

《特集：須田剋太》

埼玉出身の画家・須田剋太の初期の具象画と、力強く生命感にあふれた抽象画の代表作を特集展示した。

■ 広報記録：

<Web>

・告知：『Tokyo Art Beat』2023年9月2日 / 『Padograph』2023年9月6日 /

<ミニコミ誌等>

・告知：『武州路』10月号 2023年9月20日、11月号2023年10月20日 / 『埼玉中央よみうり』2023年9月22日 / 『定年時代埼玉版』2023年11月号

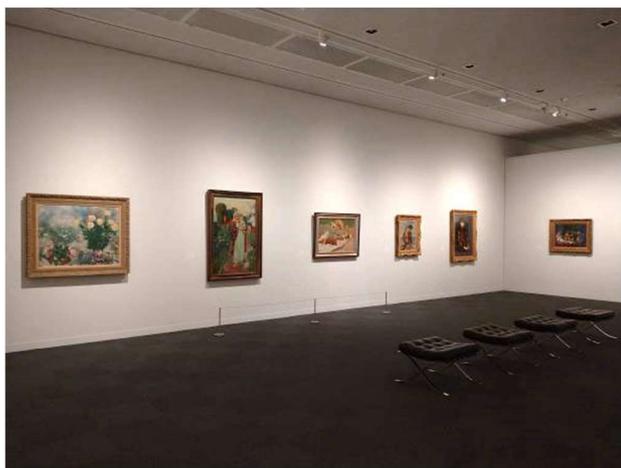
■ 担当後記：《特集：須田剋太》

◆埼玉県吹上村(現在の鴻巣市)に生まれた須田剋太(1906-1990)は、県ゆかりの画家の中でもひととき異彩を放つ存在である。当館では剋太の作品を303点所蔵しているが、今回は8年ぶりにまとまった展示となった。油彩による抽象画の代表作と繊細なドローイングの優品を中心に、若き日の剋太を支援した所蔵者のご協力を得て、戦前の具象画も併せて紹介した。形、色、線、マティエールは実にさまざまだが、そこに通底するひたむきでとらわれない、生(なま)の画境を堪能していただけたのであれば嬉しい。

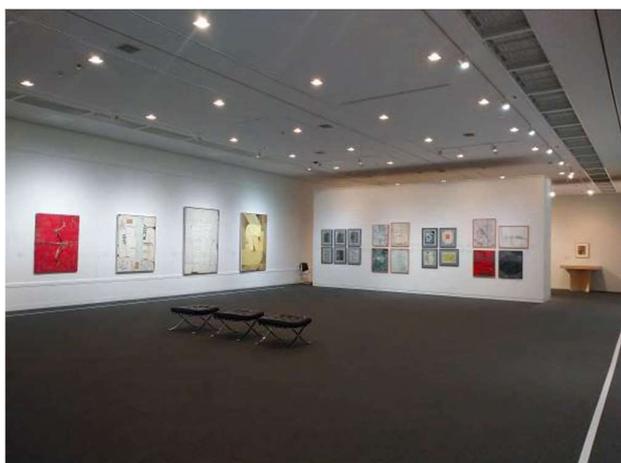
◆剋太の抽象画は、力強い縦横無尽のストロークの痕跡や、物質性にこだわった複雑で豊かなマティエールなど、多彩な手法を取り入れている。ジュラルミンの粉、石や砂のコラージュ、縫い合わせたドンゴロスなど、常識にとらわれないさまざまな技法や素材と格闘した激しい作品は、画面上の色や形の動きが豊かで、造形の面白さに充ちている。

◆展示はおおむね制作年順に構成したが、いざ並べてみると、ドンゴ

ロスを縫った「襷」のある《作品 1984 白》の制作年に違和感がある。この作品は1984年の国展に出品され、当時の美術雑誌の展評でも図版が大きく掲載されている。しかし作風や保存状態、他の襷タイプの制作年代から推して1965年頃に制作したのではないかと思うようになり、会期中に裏蓋を外してみた。すると木枠にはっきりと「1965. 4. 7」と記されているではないか。あらためて経緯をたどると、この作品には時機に応じて4つの作品名が付された形跡があった。剋太が同一の作品に対し、展示や図版掲載の折々に異なる作品名や制作年を付す例が散見されていたにもかかわらず、直に作品にあたるという基本の調査を怠っていたことが悔やまれた。今後は、制作年の修正のみならず4つの作品名のうちどれを採用するかも課題である。これまでも収蔵後に作品名や制作年を修正した作品が数点あったが、剋太の所蔵作品にはまだまだ調査の余地がある。
(大越久子)



「セレクション」展示風景



「特集：須田剋太」展示風景

■出品リスト

展示室A

| 作家名 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 技法・素材 | 備考 |
|-----------------|-------------|------------------------|-----------|--------------|----|
| 1 セレクション | | | | | |
| クロード・モネ | [1840-1926] | ジュエルニーの積みわら、夕日 | 1888-1889 | 油彩、カンヴァス | |
| モーリス・ドニ | [1870-1943] | トレストリニエルの岩場 | 1920 | 油彩、カンヴァス | |
| モーリス・ドニ | [1870-1943] | シャグマユリの聖母子 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| アンドレ・ドラク | [1880-1954] | 浴女 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| パブロ・ピカソ | [1881-1973] | 静物 | 1944 | 油彩、カンヴァス | |
| モーリス・ユトリロ | [1883-1955] | 旗で飾られたモンマルトルのサクレ=クール寺院 | 1919 | 油彩、カンヴァス | |
| ジュール・バスキン | [1885-1930] | 眠る裸女 | 1928 | 油彩、カンヴァス | |
| ジョルジョ・ルオー | [1871-1958] | 横向きのピエロ | 1925頃 | 油彩、紙（麻布で裏打ち） | |
| マルク・シャガール | [1887-1985] | 二つの花束 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| キスリング | [1891-1953] | リタ・ヴァン・リアの肖像 | 1927 | 油彩、カンヴァス | |
| キスリング | [1891-1953] | 赤いテーブルの上の果実 | 1944 | 油彩、カンヴァス | |

展示期間 | ~9月29日

| | | | | | |
|------------|-------------|-------|-----------|----------|---|
| オーギュスト・ルノー | [1841-1919] | 三人の浴女 | 1917-1919 | 油彩、カンヴァス | 昭和59年度に以下8金融機関の寄付金で購入：旧・埼玉銀行、武蔵野銀行、埼玉県信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫、小川信用金庫、飯能信用金庫、埼玉県信用農業協同組合連合会 |
|------------|-------------|-------|-----------|----------|---|

展示期間 | 9月30日~

| | | | | | |
|-----------|-------------|----------|------|----------|--|
| ポール・シニャック | [1863-1935] | アニエールの河岸 | 1885 | 油彩、カンヴァス | |
|-----------|-------------|----------|------|----------|--|

2 特集：須田尅太

| | | | | | |
|------|-------------|-----------|-------------|-------------------|---------------|
| 須田尅太 | [1906-1990] | 男の像 | 1936（昭和11） | グアッシュ、墨、鉛筆、コンテ、紙 | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 読書する男 | 1939（昭和14） | 油彩、カンヴァス | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 人物像 | 1940（昭和15） | 鉛筆、水彩、紙 | 平成2年度木俣英純氏寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 老人像 | 1941（昭和16） | 油彩、カンヴァス | 昭和52年度中野久子氏寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | あやめ | 1941（昭和16） | 油彩、カンヴァス | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 《老人像》習作 | 1941（昭和16）頃 | コンテ、鉛筆、墨、紙 | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 妙心寺法堂 | 1942（昭和17） | 鉛筆、グアッシュ、コンテ、墨、紙 | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 神将 | 1942（昭和17） | 油彩、カンヴァス | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 G-165 | 1950（昭和25） | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 G-120 | 1951（昭和26） | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 G-138 | 1951（昭和26） | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 G-139 | 1954（昭和29） | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 撮えた近代 | 1955（昭和30） | 油彩、ドンゴロス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 地獄谷線刻仏 | 1956（昭和31） | グアッシュ、紙 | 個人蔵 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 否定的絶対無 | 1959（昭和34） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 G-205 | 1959（昭和34） | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 G-215 | 1959（昭和34） | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 不在の現実 | 1960（昭和35） | 油彩、ジュラルミンの粉、ドンゴロス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1962k | 1962（昭和37） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 B | 1962（昭和37） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 A | 1963（昭和38） | 油彩、カンヴァス | 昭和58年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1963c | 1963（昭和38） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1963i | 1963（昭和38） | 油彩、ジュラルミンの粉、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1963g | 1963（昭和38） | 油彩、ジュラルミンの粉、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1964 b | 1964（昭和39） | 油彩、ドンゴロス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 私の曼陀羅 a | 1964（昭和39） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 A | 1964（昭和39） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1964 d | 1964（昭和39） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田尅太 | [1906-1990] | 作品 1967白C | 1967（昭和42） | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |

| | | | | | |
|-------------------|-------------|-----------|-------------|----------------|---------------|
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 1967白A | 1967 (昭和42) | 油彩、貼られた紙、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 1973黄金 | 1973 (昭和48) | 油彩、カンヴァス | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-99 | 1982 (昭和57) | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-24 | 1982 (昭和57) | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-70 | 1982 (昭和57) | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-54 | 1982 (昭和57) | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 1984白 | 1965 (昭和40) | 油彩、ドンゴロス | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 文楽お染 | 1987 (昭和62) | グアッシュ、コラージュ、紙 | 平成20年度本間フミ氏寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-8 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-55 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-69 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-79 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-112 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-126 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-135 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 須田剋太 | [1906-1990] | 作品 G-140 | 制作年不詳 | グアッシュ、紙 | 平成元年度寄贈 |
| 展示室A 小部屋 | | | | | |
| 瑛九 | [1911-1960] | 田園 | 1959 (昭和34) | 油彩、カンヴァス | 加藤南枝氏蔵 (当館寄託) |
| 1F 吹き抜けロビー | | | | | |
| アリスティド・マイヨール | [1861-1944] | イル・ド・フランス | 1925 | ブロンズ | |

■ MOMASコレクション [12/2 - 2/25]

- 会期：2023年12月2日（土）～2024年2月25日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社
- 入場者数：7,001人
- 広報印刷物：ポスター B1・B2（2種）／デザイン：杉山さゆり
- 担当学芸員：佐藤あゆか、菊地真央



ポスター（各B1・B2）

■ 展示室A（1階）

《魅惑のリアリズム》

倉田弟次郎、上田薫など近現代の作家による「リアル」な表現に注目し、その多彩な魅力を紹介した。

《セクション》

モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介した。

■ 広報記録

<Web>

・告知：『Padograph』2023年12月22日

<ミニコミ誌等>

・コバトンnote：『あすーる』1月号 2024年1月

・告知：『武州路』2月号 2024年1月20日

■ 担当後記：《魅惑のリアリズム》

◆上田薫の油彩画《ジェリーにスプーンC》は、当館の収蔵品のなかでも高い人気を誇る作品のひとつである。ジェリーをスプーンですくおおうとする瞬間が忠実に描かれた本作は、その強調された質感の表現も相まって多くの鑑賞者を惹きつけている。しかしながら、このような「リアル」な作品の魅力は、単にその描写力が高いことだけではないはずである。こうした視点から、このコーナーでは描写のリアルさが際立つ作品に着目し、作者の意図や時代背景などを掘り下げながらその魅力を紹介することを試みた。

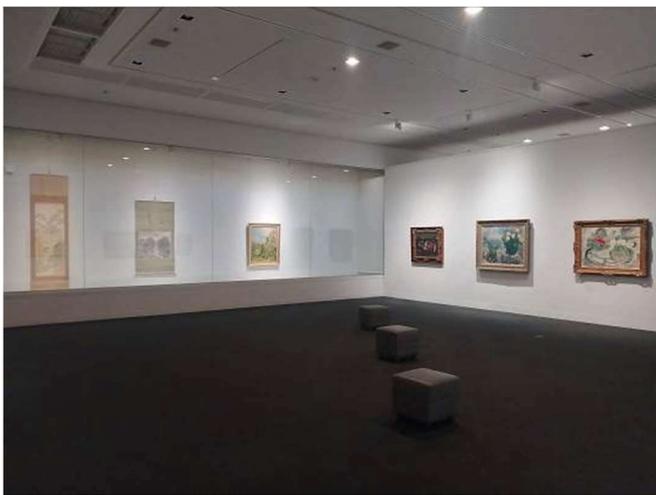
◆鳴剛の《Collection-Recollection 3》、古川勝紀の「国道」シリーズ、小島喜八郎の「草」シリーズといったサイズがかなり大きい作品が並び、今回の展示の見どころのひとつとなった。なるべく広い空間で鑑賞できるよう環境を整える必要があったため、通常使用している可動壁をひとつ取り除いた。結果として、これまでの常設展示室からガラッと雰囲気が変わり、新鮮な展示空間をつくることができた。また、コーナーの雰囲気と広い空間に合うよう、休憩用のデザイン椅子には透明なもの（プリア、ラ・マリー）を採用した。

◆出品作品を検討しているときには意識していなかったのだが、古川、小島、倉田弟次郎、五月女幸雄など、県ゆかりの作家の作品を多く含む展示となった。とりわけ倉田弟次郎の作品は想像以上の反響があり、写真と見紛うほど精巧なドローイングに多くの人が感銘を受けた様子だった。倉田白羊の兄でもある弟次郎は本県にとって重要な作家のひとつだが、23歳で夭折したため、その足跡にはいまだ疑問が残されている。今後、まとまった調査が必要であるとあらためて感じた。

◆当館が所蔵する「リアル」な作品が一堂に会する機会となったが、いざ展示室に並べてみると、クールな雰囲気や現実との距離を感じさせる表現にどこことなく共通点が見られるものもあり、興味深かった。様々な視覚情報であふれかえる現代において「リアル」とは何なのかを再考する場を提供できていたら嬉しく思う。（佐藤あゆか）



「魅惑のリアリズム」展示風景



「セレクション」展示風景

■ 出品リスト

展示室A

| 作家名 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 技法・素材 | 備考 |
|-------------------------|-------------|--|----------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| 1 魅惑のリアリズム | | | | | |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 石膏レリーフ | 1890 (明治23) | 鉛筆、紙 | 昭和57年度 倉田平吉氏寄贈 |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 農家 | 1891 (明治24) | コンテ、紙 | 昭和57年度 倉田平吉氏寄贈 |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 農家作業 | 1891 (明治24) | コンテ、紙 | 昭和57年度 倉田平吉氏寄贈 |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 農家庭先 | 1891 (明治24) | 木炭、紙 | 昭和57年度 倉田平吉氏寄贈 |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 婦人像 | 1891 (明治24) | コンテ、紙 | 昭和57年度 倉田平吉氏寄贈 |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 鞆 | 1892 (明治25) | 水彩、紙 | 平成17年度 高瀬巖氏寄贈 |
| 倉田弟次郎 | [1871-1894] | 牡丹 | 1892 (明治25) | 水彩、紙 | 平成17年度 高瀬巖氏寄贈 |
| 上田薫 | [1928-] | ジェリーにスプーン C | 1990 (平成2) | 油彩、カンヴァス | |
| 上田薫 | [1928-] | コップの水 J | 1986 (昭和61) | リトグラフ、紙 | 令和2年度 株式会社名古屋画廊 代表取締役 中山真一氏寄贈 |
| 重村三雄 | [1929-2012] | 永遠の御歳暮 | 1983 (昭和58) | F. R. P. | 平成20年度寄贈 |
| 小島喜八郎 | [1935-2008] | 風景741 | 1974 (昭和49) | 油彩、カンヴァス | 平成21年度 小島としゑ氏寄贈 |
| 五月女幸雄 | [1938-] | Between One Side and the Other One '79 | 1978-1979 (昭和53-54) | 油彩、カンヴァス | 昭和62年度寄贈 |
| 齋藤研 | [1939-2020] | ペクトル | 1989 (平成元) | 油彩、カンヴァス | 平成3年度寄贈 |
| 鳴剛 | [1943-] | Collection-Recollection 3 | 1985 (昭和60) | アクリル、鉛筆、カンヴァス | |
| 谷口茂 | [1948-] | PORTRAIT-L | 1981 (昭和56) | ネコプリント、油彩、カンヴァス | 昭和59年度寄贈 |
| 古川勝紀 | [1953-] | 微風の中へ—国道254—Ⅱ | 1998 (平成10) | アクリル、カンヴァス | |
| 古川勝紀 | [1953-] | 国道16号 —見つめ返す風景— | 1999 (平成11) | アクリル、カンヴァス | 平成20年度寄贈 |
| 古川勝紀 | [1953-] | AM 8:20 海へ | 2003 (平成15) | アクリル、カンヴァス | 平成20年度寄贈 |
| (前期展示：12/2-1/14) | | | | | |
| 小島喜八郎 | [1935-2008] | 草 夏 | 1995 (平成7年) | 油彩、カンヴァス | 平成25年度 小島としゑ氏寄贈 |
| (後期展示：1/16-2/25) | | | | | |
| 小島喜八郎 | [1935-2008] | 草 冬 | 1997 (平成9年) | 油彩、カンヴァス | 平成25年度 小島としゑ氏寄贈 |
| 2 セレクション | | | | | |
| ウジェーヌ・ドラクロワ | [1798-1863] | 聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち | 1860 | 油彩、板にカルトン貼付 | 平成17年度 丸沼芸術の森寄託 (登録美術品) |
| クロード・モネ | [1840-1926] | ジュエルニーの積みわら、夕日 | 1888-1889 | 油彩、カンヴァス | |
| ジュール・パスキン | [1885-1930] | 眠る裸女 | 1928 | 油彩、カンヴァス | |
| マルク・シャガール | [1887-1985] | 二つの花束 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| マルク・シャガール | [1887-1985] | 白い裸婦 | 1962 | 油彩、カンヴァス | 令和2年度 丸沼芸術の森寄託 |
| 牧野虎雄 | [1890-1946] | 晩き夏 | 1927 (昭和2) | 油彩、カンヴァス | |
| 佐伯祐三 | [1898-1928] | 門と広告 | 1925 (大正14) | 油彩、カンヴァス | |
| (前期展示：12/2-1/14) | | | | | |
| 下村観山 | [1873-1930] | 巖に鳥 | c. 1915-1916 (大正4-5頃) | 彩色、絹 | 平成19年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈 |
| 森田恒友 | [1881-1933] | 山麓 | 1920 (大正9) | 墨、紙 | |
| 森田恒友 | [1881-1933] | 新秋 | c. 1922-1924 (大正11-13頃) | 彩色、絹 | 昭和58年度 森田仁介氏寄贈 |
| (後期展示：1/16-2/25) | | | | | |
| 寺崎広業 | [1866-1919] | 山家の雪 | | 墨、絹 | 平成19年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈 |
| 横山大観 | [1868-1958] | 白梅 | c. 1927 (昭和2) | 彩色、絹 | 平成19年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈 |
| 橋本雅邦 | [1873-1930] | 竹梅図 | 1898 (明治31) | 彩色、紙 | |
| 森田恒友 | [1881-1933] | 平野凍晴 | c. 1925-1926 (大正14-15頃) | 墨、紙 | 昭和58年度 森田仁介氏寄贈 |
| 森田恒友 | [1881-1933] | 春水四澤満図 | c. 1929 (昭和4) | 彩色、絹 | 昭和58年度 森田仁介氏寄贈 |
| 1F 吹き抜けロビー | | | | | |
| アリスティド・マイヨール | [1861-1944] | イル・ド・フランス | 1925 | ブロンズ | |

■ MOMASコレクション [3/2 - 6/2]

■ 会期：2024年3月2日（土）～6月2日（日）

■ 主催：埼玉県立近代美術館

■ 協力：JR 東日本大宮支社

■ 入場者数：11,412人

■ 広報印刷物：ポスター B1・B2（2種）／デザイン：杉山さゆり

■ 担当学芸員：佐伯綾希、篠原優、佐藤あゆか



ポスター（各B1・B2）

■ 展示室A（1階）

《チェアーズ—椅子の美術館》

当館が所蔵するデザイン椅子を一挙公開。「椅子の美術館」としての歩みをたどりながら紹介した。

《セレクション 誰かの気配》

ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介した。

《さいきんのたまもの》

田中保や正木隆など、近年新たに収蔵した作品を紹介した。

■ 広報記録

<ミニコミ誌等>

・告知：『彩の国だより』3月号 2024年3月1日

・告知：『武州路』3月号 2024年3月1日

■ 担当後記：《チェアーズ—椅子の美術館》

◆当館は、開館当初から来館者が自由に座れるデザイナーズ・チェアを設置してきたことにより、「椅子の美術館」ともいわれる。本展示では、開館時の約30種類から70種類以上にまで拡大した椅子のコレクションを最大限見せることを意図した。教育普及担当の協力により、館内の座れる椅子と併せて60種類近くが来館者の目にふれる機会となった。一方で展示スペースの都合上、出品作品の大半を座れない椅子とせざるを得なかったことは反省点である。

◆同時開催の企画展「アブソリュート・チェアーズ」では扱われないデザインの文脈を補充する、企画展のB面としての役割を念頭に置いた。企画展と併せて観覧することで、「デザイナーズ・チェアを見たい」欲求も満たされ、椅子のもつ魅力をより多方向から知っていただけたのではないだろうか。

◆椅子はそれぞれ収蔵年を調査し、収蔵年代別に分けて展示した。収蔵時期によるデザインの傾向の違いのほか、近年はなかなか新たな椅子の収蔵が実現していない実情も可視化されることとなった。

◆椅子は当館の活動に欠かせない存在である。展覧会やワークショップ、椅子の鑑賞授業など、当館で展開してきた椅子に関する事業は多岐にわたっている。展示の中では、県内の生徒を対象とした椅子のデザイン公募「あったらいいな、こんな椅子！」の受賞作品を展示したほか、他の取り組みについても、広報物、記録写真および年表によって紹介した。また小部屋には、収蔵品の中から椅子が登場する平面作品をピックアップして展示した。

◆ところ狭しと椅子が置かれた展示空間はにぎやかな印象で、多くの来館者が写真を撮っていた。とりわけ倉俣史朗《ミス ブランチ》は、鏡面の展示台との相性も良く、巡回中の倉俣史朗展や「日曜美術館」の特集で知ったという来館者にも喜んでいただくことができた。

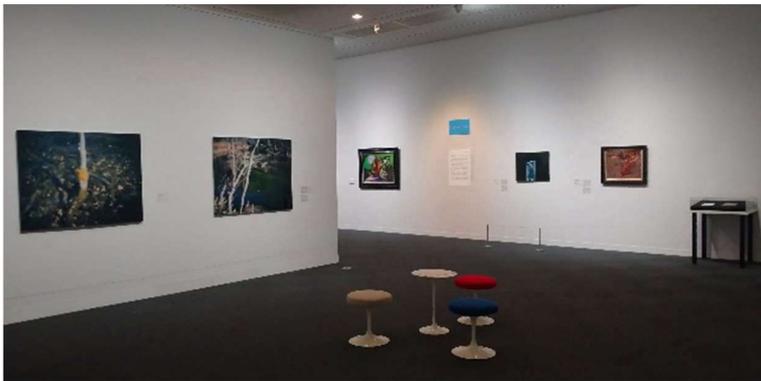
（佐伯綾希）



「チェアーズ—椅子の美術館」展示風景



「セレクション 誰かの気配」展示風景



「さいさんのたまもの」展示風景

■出品リスト

| 作家名 | 生没年 | 作品名 | 制作年 | 技法・素材 | 備考 |
|--|---|--|--|---|----------------------------------|
| 展示室A | | | | | |
| 1 チェアーズ - 椅子の美術館 | | | | | |
| チャールズ・レニー・マック キントッシュ | [1868-1928] | ヒルハウス1/ヒルハウスの ベッドルームのための ハイバック・チェア | デザイン:1903 製品化:1973 | トネリコ材にエボニー塗装、ヴェル ヴェット張りの座面 | |
| ル・コルビュジエ、ピエール ル・ジャンヌレ、シヤル ロット・ペリアン | [1887-1965] [1896-1967] [1903-1999] | LC4 シェーズロング | デザイン:1928 製品化:1929 | フレーム:スチールパイプ・クロ ムめっき仕上げ、シート:黒革、 ヘッドレスト:黒革、台座:ス チール・ブラック塗装仕上げ、脚 端:グライド | |
| ヘリット・トーマス・リー トフェルト | [1888-1964] | レッド・アンド・ブルー | デザイン・製品化:1918 (基本原色の塗装は1923 頃から) | ブナ材にブラック染色塗装およびウ レタン塗装仕上げ | |
| ヘリット・トーマス・リー トフェルト | [1888-1964] | ジグザグ | デザイン:1932-1933 製品化:1935 | サクラ材 | |
| アルヴァ・アアルト | [1898-1976] | バイミオ/アームチェア41 | デザイン:1930-1931 製品化:1932 | 樺材成型合板にラッカー塗装の背 座、樺材積層成型のフレーム | |
| アルネ・ヤコブセン | [1902-1971] | アント(蟻)/モデル3101 | デザイン・製品化:1952 | ブナ材成型合板に塗装、スチールパ イプにクロムメッキ仕上げ、座面下 に衝撃吸収ゴム | |
| マルセル・ブロイヤール | [1902-1981] | チェスカ | デザイン:1928 製品 化:1929頃 | スチール・パイプにクロムメッキ仕 上げ、ブナ材にラッカー塗装の木枠 に籐張り | |
| エーロ・サーリネン | [1910-1961] | ウームチェア | デザイン:1947 製品化:1948 | スチールパイプ、布地 | |
| エーロ・サーリネン | [1910-1961] | チューリップ・チェア | デザイン・製品化:1956 | 椅子:成形FRP、フォームラバーの クッションに布張り、アルミニウムの 鑄造にプラスチック・コーティン グ仕上げの脚 テーブル:合板にメ ラミン化粧板張りの天板、アルミニ ウムの鑄造にプラスチック・コー ティング仕上げの脚 | |
| 渡邊力 | [1911-2013] | リキベンチ | デザイン:1960 製品化:1967 | 米マツ集成材 | |
| 柳宗理 | [1915-2011] | シェル・チェア | デザイン・製品化:1999 | 布地、背:サベリ板目 脚:ステンレ ス丸パイプ・ミガキ仕上げ、ウレタ ン樹脂仕上げ | |
| ハリー・ベルトイア | [1915-1978] | ダイヤモンド・ラウンジ チェア No.421 | デザイン:1952-1953 製品化:1953頃 | 溶接したスチール・ワイヤーにビニ ル系の塗料、合成皮革のクッション | |
| アキッレ・カステリオーニ | [1918-2002] | セッラ(鞍) | デザイン:1957 製品化:1983 | 競技用自転車用のサドル、鉄パイプに ラッカー塗装、鋳鉄の基底部 | |
| ワーレン・ブラットナー | [1919-2006] | ブラットナー・ラウン ジ・コレクション/ア ーム・チェア1725 | デザイン・製品化:1966 | スチール・ワイヤーにニッケルメッ キ仕上げ、フォームラバーに布張り | |
| 倉俣史朗 | [1934-1991] | ミス ブランチ | デザイン:1988 制作:2007 | 本体:アクリル、造花 脚:アルミ ニウムパイプにアルマイト染色仕上 げ | |
| ピーター・オプスヴィック | [1939-] | ガーデン:リトル・ツ リー | デザイン・製品化:1985 | ブナ材、ポリウレタンフォームに布 張り | |
| オリヴィエ・ムルグ | [1939-] | ジン | 製品化:1964 | スチール・パイプの芯にポリウレタ ン・フォーム、布張り | |
| 梅田正徳 | [1941-] | 月苑 | デザイン:1988 製品化:1990 | スチールと木材の芯、ポリウレタン フォームとダクロン繊維の詰物、 コットン・ヴェルヴェットの外装、 プラスチックのキャスター | |
| 喜多俊之 | [1942-] | ウインク | デザイン:1976 製品化:1980 | スチールの芯にポリウレタンフォー ム、布張り、プラスチック、布製カ バー | |
| 内田繁 | [1943-2016] | セブテンバー/C-017 | デザイン・製品化:1977 | スチール・パイプにメラミン焼付塗 装、布張りの座面 | |
| 笠松栄 | [1943-] | バタバタ(子供椅子) | デザイン:1987 製品化:1988 | 合板にポリウレタン塗装 | |
| 寺原芳彦 | [1943-] | チタニウム・チェア/ア ームチェアA TS200L | デザイン:1987-1990 製品化:1990 | チタン、ビニール・レザー | |
| 田中敏博 | [1944-] | Bin. Chair/ベニヤ型抜き キットチェア | 制作:1988-91 | 表面材シナ材の合板(シナベニヤ) | |
| テルイエ・エクストレム | [1944-2013] | エクストレム | デザイン:1972-1977 製品化:1984 | スチール・パイプの芯にポリウレタ ンフォーム、布張り | |
| ジャン・ミシェル・ヴィル モット | [1948-] | リクソン・チェア | デザイン・製品化:1983 | 樺材に染色塗装、皮革張り | |
| トルステイン・ニールセン | [1951-] | トーテム | デザイン・製品化:1983 | ブナ材積層成型に塗装、布張り | |
| ロン・アラッド | [1951-] | トム・ヴァック | デザイン:1997 製品化:1998 | ポリプロピレン、スチール・パイプ にクロムメッキ仕上げ | |
| みかんぐみ | [1995-] | かみかんかぐ | デザイン・製品化:2001 | 紙管 | |
| 大熊菜美子 | | ヒラヒラチェア | 制作:2005 | FRP | 公募「あったらいいな、こんな 椅子！」埼玉県立近代美術館賞 |
| 駒井哲郎 | [1920-1976] | 室内 | 1970 | エッチング(雁皮刷)、紙 | 平成4年度ホダカ株式会社寄贈 |
| 宮内義也 | [1921-1984] | 白い椅子 | 1983 | 油彩、カンヴァス | 昭和62年度宮内植子氏寄贈 |
| アントニ・タビエス | [1923-2012] | 大きな椅子 | 1984 | リトグラフ、紙 | |

| | | | | | |
|-------------------------|-------------|---|---|-------------------------------|----------------------------------|
| 松原龍雄 | [1941-] | STILL LIFE 844 | 1984 | 水彩、紙 | |
| 河内成幸 | [1948-] | 単なる右と左 | 1975 | 木版、紙 | 平成5年度寄贈 |
| 2 セレクション 誰かの気配 | | | | | |
| ウジェーヌ・ドラクロワ | [1798-1863] | 聖ステパノの遺骸を抱え 起こす弟子たち | 1860 | 油彩、板にカルトン貼付 | 平成17年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品) |
| ウジェーヌ・ブーダン | [1824-1898] | ノルマンディーの風景 | 1854-1857 | 油彩、板 | 平成24年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品) |
| カミーユ・ピサロ | [1830-1903] | エラニーの牛を追う娘 | 1884 | 油彩、カンヴァス | |
| クロード・モネ | [1840-1926] | ルエルの眺め | 1858 | 油彩、カンヴァス | 平成17年度丸沼芸術の森寄託 (登録美術品) |
| モーリス・ドニ | [1870-1943] | トレストリニエルの岩場 | 1920 | 油彩、カンヴァス | |
| モーリス・ドニ | [1870-1943] | シャグマユリの聖母子 | 1925 | 油彩、カンヴァス | |
| 斎藤豊作 | [1880-1951] | 建て掛けの家 | | 油彩、カンヴァス | |
| パブロ・ピカソ | [1881-1973] | 静物 | 1944 | 油彩、カンヴァス | |
| モーリス・ユトリロ | [1883-1955] | 旗で飾られたモンマルトルのサクレ＝クール寺院 | 1919 | 油彩、カンヴァス | |
| 跡見泰 | [1884-1953] | 石川島 | 1930 (昭和5) | 油彩、カンヴァス | |
| 小林真二 | [1890-1965] | 庭 | 1931 (昭和6) | 油彩、カンヴァス | |
| 岸田劉生 | [1891-1929] | 路傍初夏 | 1920 (大正9) | 油彩、カンヴァス | |
| 古川弘 | [1907-1977] | 写真機のある静物 | 1943 (昭和18) | 水彩、紙 | |
| 駒井哲郎 | [1920-1976] | 閉じた扉 | | モノタイプ (カラー)、紙 | 平成4年度ホダカ株式会社、 株式会社マルキンジャパン 寄贈 |
| 駒井哲郎 | [1920-1976] | Nature Morte (静物) | 1975 (昭和50) | アクアチント、ソフトグラント・ エッチング、紙 | 平成4年度ホダカ株式会社寄贈 |
| 駒井哲郎 | [1920-1976] | 教会の横 | 1955 (昭和30) | エンブレイヴィング、ドライポイン ト (雁皮刷)、紙 | 平成4年度ホダカ株式会社寄贈 |
| (前期展示: 3/2-4/14) | | | | | |
| ポール・セザンヌ | [1839-1906] | シャトー・ノワールの近 くの高台から見たサン ト・ヴィクトワール山 | 1900-1902 | 鉛筆、水彩、紙 | 令和5年度丸沼芸術の森寄託 |
| ポール・ゴーギャン | [1848-1903] | ノアノア (かぐわしい) | 1893-1894 | 木版、紙 | |
| ポール・ゴーギャン | [1848-1903] | アウティ・テ・パペ (川 岸の女たち) | 1893-1894 | 木版、紙 | |
| ポール・ゴーギャン | [1848-1903] | 宇宙創造 | 1893-1894 | 木版、紙 | |
| 小村雪岱 | [1887-1940] | 落葉 | c. 1924 (大正13頃) | 彩色、絹 | |
| (後期展示: 4/16-6/2) | | | | | |
| ポール・ゴーギャン | [1848-1903] | ナヴェナヴェ・フェヌア (かぐわしき大地) | 1893-1894 | 木版、紙 | |
| ポール・ゴーギャン | [1848-1903] | マーナ・ノ・ヴァルア・ イノ (悪魔は語る) | 1893-1894 | 木版、紙 | |
| ポール・ゴーギャン | [1848-1903] | 『ル・スーリール (微 笑)』の扉絵 | 1899 | 木版、紙 | |
| フィンセント・ファン・ ゴッホ | [1853-1890] | 草地、背景に新教会とヤ コブ教会 | 1882 | 水彩、鉛筆、紙、チップボード | 令和2年度丸沼芸術の森寄託 |
| 小村雪岱 | [1887-1940] | 青柳 | c. 1924 (大正13頃) | 彩色、絹 | |
| 3 さいきんのたまもの | | | | | |
| 斎藤与里 | [1885-1959] | 内海遊記 | 1929 (昭和4) - 1938 (昭和13) | ペン、紙 | 令和4年度寄贈 |
| | | 『美術新論』第4巻第7号 | 1929 (昭和4) 年7月/ 発行: 美術新論社 | 雑誌 | |
| 田中保 | [1886-1941] | 膝をつく裸婦 | 1920 (大正9) | 鉛筆、紙 | 令和4年度大久保静雄氏寄贈 |
| 田中保 | [1886-1941] | 作品名不詳 | c. 1912 (明治45-大正元 頃) | 油彩、カンヴァス | 令和3年度浅子クーネル・すば る氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 芝居 | 複製: 1979 (昭和54) オリジナル: 1950 (昭 和25) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 家・窓・人 | 複製: 1979 (昭和54) オリジナル: 1950 (昭 和25) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | Visitors to a Ballet Performance | 複製: 1979 (昭和54) オリジナル: 1950 (昭 和25) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 鼻高プロフィール | 複製: 1979 (昭和54) オリジナル: 1950 (昭 和25) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 森のつどい | 複製: 1979 (昭和54) オリジナル: 1951 (昭 和26) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 庭 | 複製: 1979 (昭和54) オリジナル: 1951 (昭 和26) | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |

| | | | | | |
|-------------------|-------------|---------------|-----------------------------------|----------------|---------------------|
| 瑛九 | [1911-1960] | 村 | 複製：1979（昭和54） オリジナル：1951（昭和26） | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | 子供の部屋 | 複製：1979（昭和54） オリジナル：1952（昭和27） | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | コンポジション | 複製：1979（昭和54） オリジナル：1954（昭和29） | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 瑛九 | [1911-1960] | ビルの人 | 複製：1979（昭和54） オリジナル：1954（昭和29） | ゼラチン・シルバー・プリント | 令和4年度帯金章郎氏寄贈 |
| 森村泰昌 | [1951-] | 花と包丁 | 1990（平成2） | タイプCプリント | 令和5年度双ギャラリー 塚本豊子氏寄贈 |
| 佐野陽一 | [1970-] | reservoir（秋日） | 2015（平成27）-2022（令和4） | タイプCプリント | 令和5年度寄贈 |
| 佐野陽一 | [1970-] | flow（秋日） | 2015（平成27）-2022（令和4） | タイプCプリント | 令和5年度寄贈 |
| 佐野陽一 | [1970-] | flow（秋日） | 2015（平成27）-2022（令和4） | タイプCプリント | 令和5年度寄贈 |
| 正木隆 | [1971-2004] | 造形99-2 | 1999（平成11） | 油彩、綿布 | 令和3年度正木建治氏寄贈 |
| 1F 吹き抜けロビー | | | | | |
| アリスティド・マイヨール | [1861-1944] | イル・ド・フランス | 1925 | ブロンズ | |

■ サンデー・トーク

年間で10回程度、日曜日に展示室Aで開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMASコレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度の解説を行っている。

令和5年度は、次の通り開催した。

- ・5月21日 平野到
パプロ・ピカソ《静物》
参加者数：25人

- ・7月16日 五味良子
スクリプカリウ落合安奈《Blessing Beyond
the Borders》
参加者数：14人

- ・8月27日 吉岡知子
マルク・シャガール《二つの花束》
参加者数：32人

- ・10月8日 大越久子
須田尅太《作品1984 白》
参加者数：22人

- ・11月26日 嶋原悠
ポール・シニャック《アニエールの河岸》
参加者数：25人

- ・1月28日 菊地真央
牧野虎雄《晩き夏》
参加者数：20人

- ・2月18日 佐藤あゆか
小島喜八郎《草 冬》
参加者数：23人

- ・3月3日 篠原優
クロード・モネ《ルエルの眺め》
参加者数：30人

■ 収集事業

平成30年度に美術作品取得基金によってポール・シニャック《アニメールの河岸》を購入したが、これ以降の財政状況は一層厳しく、作品の購入が叶わない状況が続いている。そうした中で、令和5年度は34点の寄贈と5点の寄託を受けた。寄贈者と寄託者の皆様に改めて御礼申し上げたい。

瑛九、須田剋太、遠藤利克は県ゆかりの作家として、これまでも積極的に作品の収集を続けてきた。今回は、それぞれの制作活動を検証する際の参考となる作品及び資料類の寄贈を受け、体系的な収集を進めることができた。中でも、須田剋太の支援者から受贈した多数の油彩・ドローイング作品は、これまで当館に収蔵のなかった初期の写実的な作品が中心となっており、須田の作品変遷を辿るうえで重要な収蔵となった。

彫刻1点と写真2点を収蔵している遠藤利克については、〈空洞説〉シリーズの構想を示す平面作品を収蔵した。県内を拠点に活躍する重要作家として、さらなる収集の強化に努めたい。

現代作家の作品についても、寄贈によりコレクションに一層の厚みを得られた。1960年代末に活動を開始し、美術家共闘会議（美共闘）を理論的に牽引するなど重要な活動を展開した彦坂尚嘉の作品は、作家の制作の原点に位置付けることのできる作例である。当館が収集の柱のひとつとする1960年代末から1970年代の日本の美術動向について、従来とは異なる角度からの検証が可能となる点でも重要な収蔵となった。また、作家自身が名画の登場人物などに扮する写真作品で活躍する森村泰昌の1990年の作品1点も受贈した。代表的な作風とは異なるユニークなコンセプトによる、希少な作例である。

当館で開催した展覧会をきっかけに寄贈を受けた作品も多くあった。令和4年度の企画展「桃源郷通行許可証」に出品した文谷有佳里と佐野陽一から、展覧会出品作およびその関連作品を受贈した。同年の「M O M A S コレクション」で紹介した諫山元貴からは、映像作品2点を受贈した。また、令和5年度に横尾龍彦の回顧展を開催したことから、大型作品を含む横尾の油彩画5点を受贈した。展覧会事業が収集につながることは大変意義深い。本来的には、出品作を購入により収集できることが望ましい。

瑛九のフォトデッサンを写真家の細江英公が複製した作例を受贈した。瑛九没後に著作権者が携わって制作されたもので、エディションが入っていないことから、資料として登録した。

そのほか、ポール・セザンヌの貴重なドローイング、菊沢武江・武内鶴之助の作品を受託した。

■ 令和5年度収集作品数と収蔵作品総数

令和6年3月31日現在

| 区分 | 令和5年度収集点数 | | | 収蔵作品 総数 |
|--------|-----------|----|------------|------------|
| | 購入 | 寄贈 | 保管・換 ほか | |
| 日本画 | 0 | 0 | 0 | 505 |
| 油彩画ほか | 0 | 10 | 0 | 686 |
| ドローイング | 0 | 14 | 0 | 851 |
| 版画 | 0 | 0 | 0 | 1,395 |
| 写真 | 0 | 4 | 0 | 226 |
| 映像 | 0 | 2 | 0 | 6 |
| 平面その他 | 0 | 2 | 0 | 21 |
| 彫刻 | 0 | 0 | 0 | 198 |
| 立体その他 | 0 | 1 | 0 | 14 |
| 工芸 | 0 | 0 | 0 | 50 |
| 書 | 0 | 0 | 0 | 31 |
| 資料Ⅰ | 0 | 1 | 0 | 151 |
| 資料Ⅱ | 0 | 0 | 0 | 34 |
| 合計 | 0 | 34 | 0 | 4,168 |

■ 新収蔵作品一覧

* 作家名のアルファベット順に掲載した。なお「Q Ei」は「E」で取っている。

1

文谷有佳里 1985 (昭和60) -

BUNYA Yukari

drawing 2022. 6. 25

drawing 2022. 6. 25

令和4年 ペン、カーボン紙、紙

2022 Pen, carbon paper transfer on paper

73.0×110.0cm

裏面に年記、サイン「2022. 6. 25 Yukari Bunya」

令和5年度寄贈

D-0838



2

文谷有佳里 1985 (昭和60) -

BUNYA Yukari

drawing 2022. 6. 26

drawing 2022. 6. 26

令和4年 ペン、カーボン紙、紙

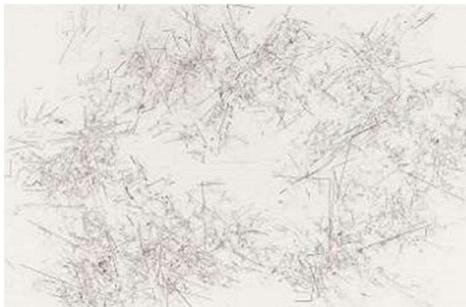
2022 Pen, carbon paper transfer on paper

73.0×110.0cm

裏面に年記、サイン「2022. 6. 26 Yukari Bunya」

令和5年度寄贈

D-0839



3

文谷有佳里 1985 (昭和60) -

BUNYA Yukari

drawing 2022. 6. 27

drawing 2022. 6. 27

令和4年 ペン、紙

2022 Pen on paper

73.0×110.0cm

裏面に年記、サイン「2022. 6. 27 Yukari Bunya」

令和5年度寄贈

D-0840



4

文谷有佳里 1985 (昭和60) -

BUNYA Yukari

なにもない風景を眺める 2010. 10. 21

Looking at the Vacant Scenery 2010. 10. 21

平成22年 ペン、紙

2010 Pen on paper

55.5×79.0cm

裏面に年記、サイン「2010 10 21 aichi Yukari Bunya」

令和5年度寄贈

D-0841



5

文谷有佳里 1985 (昭和60) -

BUNYA Yukari

なにもない風景を眺める

Looking at the Vacant Scenery

平成24年 ペン、韓紙

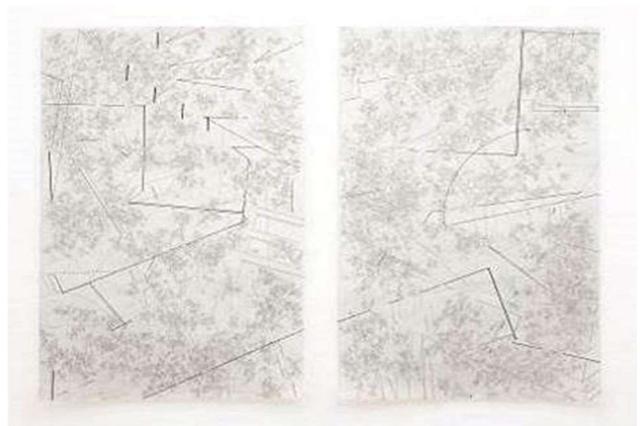
2012 Pen on Korean paper

各 215.0×149.0 cm (2点1組)

裏面に年記、サイン「2012 12 1 Yukari Bunya」(右)、「2012 12 1 Yukari Bunya」(左)

令和5年度寄贈

D-0842



6

瑛九 1911 (明治44) -1960 (昭和35)

Q Ei

手鏡を持つ女

Woman with a Hand Mirror

昭和27年 (昭和59年 細江英公スタジオ複製) ゼラチン・シル
バー・プリント

1954 (reproduction by Eikoh Hosoe studio:1984) Gelatin
silver print

イメージサイズ: 30.0×23.5cm、シートサイズ: 35.7×27.4cm

令和5年度帯金章郎氏寄贈

RI-0151

※『瑛九と仲間たち 久保貞次郎 美術の世界2』特装版 (1984年)
所収



7

遠藤利克 1950 (昭和25) -

ENDO Toshikatsu

“空洞説一壺⇔水”のためのプラン

Plan for "Void-Pot⇔Water"

令和3年 バテ、鉛筆、鉛、銅、緑青、ボード

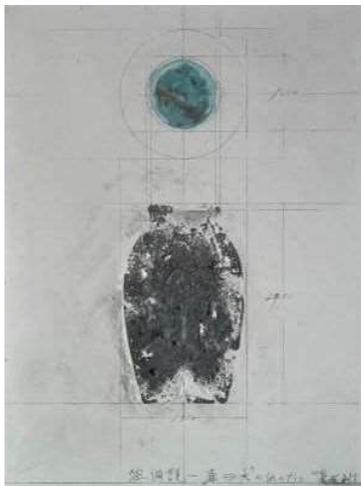
2021 Putty, pencil, lead, copper, verdigris on board

65.0×50.0×4.8 cm

右下に作品名、年記、サイン「空洞説一壺⇔水」のためのプラン. 2021. 遠藤利克

令和5年度富山美智子氏寄贈

T-0014



8

彦坂尚嘉 1946 (昭和21) -

HIKOSAKA Naoyoshi

史律におけるプラクティス 7

Practice by Shiritsu(History) 7

昭和44年/昭和51年再制作 ビニール、ニス、木

1969/1976, reproduced Plastic and varnish on wood

162.0×130.5×7.0cm

令和5年度村松画廊 小松良子氏寄贈

B-0020



9

彦坂尚嘉 1946 (昭和21) -

HIKOSAKA Naoyoshi

史律におけるプラクティス 8 P.W.P. 1

Practice by Shiritsu(History)8 (P.W.P.1)

昭和44年/昭和51年再制作 クリア・アクリル、木

1969/1976, reproduced Clear acrylic on wood

161.0×131.5×4.0cm

裏面にサイン、作品名、年記「彦坂尚嘉 史律におけるプラクティス
8(PWP1)[1969年作「板壁」の反復変奏作品] 1976年制作」

令和5年度村松画廊 小松良子氏寄贈

B-0021



10
諫山元貴 1987 (昭和62) -
ISAYAMA Genki
壺
Pot
平成21年 フルHD、デジタル・ビデオ
2009 Full HD, digital video
6分32秒 (無音)
令和5年度寄贈
V-0005



11
諫山元貴 1987 (昭和62) -
ISAYAMA Genki
Order#10
Order#10
令和4年 フルHD、デジタル・ビデオ
2022 Full HD, digital video
ループ (無音)
令和5年度寄贈
V-0006



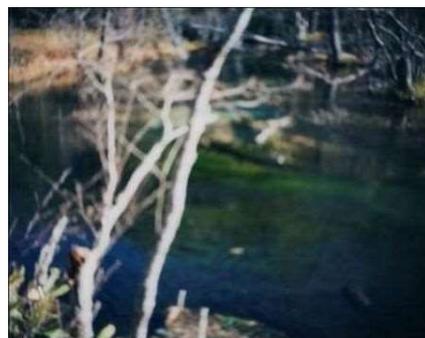
12
森村泰昌 1951 (昭和26) -
MORIMURA Yasumasa
花と包丁
Flower and Knife (HANA to DEVA)
平成2年 タイプCプリント
1990 Type C print
175.0×120.0cm
裏面にサイン、年記、エディション表記
Y Morimura 1990 1/5
令和5年度双ギャラリー 塚本豊子氏寄贈
PH-0226



13
佐野陽一 1970 (昭和45) -
SANO Yoichi
reservoir (秋日)
reservoir (autumn day)
平成27-令和4年 タイプCプリント
2015-2022 Type C print
100.0×126.0cm
裏面にエディション表記、作品名、サイン、年記「1/3 “reservoir (秋日)” Yoichi Sano 2015-22」
令和5年度寄贈
PH-0223



14
佐野陽一 1970 (昭和45) -
SANO Yoichi
flow (秋日)
flow (autumn day)
平成27-令和4年 タイプCプリント
2015-2022 Type C print
100.0×126.0cm
裏面にエディション表記、作品名、サイン、年記「1/3 “flow (秋日)” Yoichi Sano 2015-22」
令和5年度寄贈
PH-0224



15

佐野陽一 1970 (昭和45) -

SANO Yoichi

flow (秋日)

flow (autumn day)

平成27-令和4年 タイプCプリント

2015-2022 Type C print

100.0×126.0cm

裏面にエディション表記、作品名、サイン、年記「1/3 “flow (秋

日)” Yoichi Sano 2015-22」

令和5年度寄贈

PH-0225



16

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

ざくろ

Pomegranate

1930年代前半 油彩、カンヴァス

Early 1930s Oil on canvas

36.5×43.5cm

左下にサイン「cocutta.」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

0-0677



17

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

妙義山

Mount Myogi

昭和16年 油彩、カンヴァス

1941 Oil on canvas

44.0×32.1cm

右下に年記(皇紀)、サインおよび作品名「二六〇一、一 須田剋太

妙義山」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

0-0678



18

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

二月堂

Nigatsudo

昭和17-20年頃 油彩、カンヴァス

c. 1942-1945 Oil on canvas

66.0×91.0cm

右下にサイン「須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

0-0679



19

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

読書する男

Man Reading

昭和14年 油彩、カンヴァス

1939 Oil on canvas

117.0×91.0cm

右下にサイン「須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

0-0680



20

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

あやめ

Iris

昭和16年 油彩、カンヴァス

1941 Oil on canvas

61.0×73.0cm

右下に年記(皇紀) およびサイン「二六〇一、六 須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

0-0681



21

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

神将

Shinsyo

昭和17年 油彩、カンヴァス

1942 Oil on canvas

146.0×97.0cm

左下にサイン「須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

0-0682



22

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

地獄谷線刻仏

The Stone Cave Buddha of Jigokudani

昭和31年 グアッシュ、紙

1956 Gouache on paper

51.7×74.2cm

左下に年記およびサイン「1956.11.10 剋」、朱文方印「須田剋太」

令和5年度寄贈

D-0843



23

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

男の像

Portrait of a Man

昭和11年 グアッシュ、墨、鉛筆、コンテ、紙

1936 Gouache, sumi, pencil, and conté on paper

62.5×48.0cm

左下に年記およびサイン「二五九六・六 須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0844



24

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

《老人像》習作

Sketch of an Old Man

昭和16年頃 コンテ、鉛筆、墨、紙

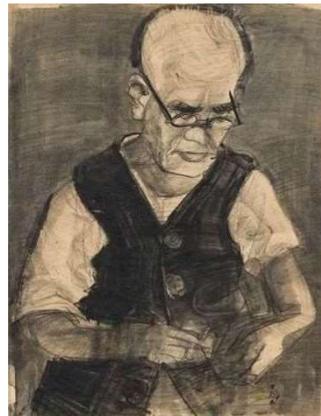
c.1941 Conté, pencil, and sumi on paper

62.5×47.5cm

右下にサイン「須田剋太」、白文方印「須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0845



25

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

妙心寺法堂

Myoshinji Temple

昭和17年 鉛筆、グアッシュ、コンテ、墨、紙

1942 Pencil, gouache, conté, and sumi on paper

62.7×47.3cm

左下に作品名、年記(皇紀)およびサイン「妙心寺法堂 二六〇二、三、一五 須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0846



26

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

神将 摩虎羅

Sketch of Shinsho Makora

昭和17年 コンテ、鉛筆、水彩、紙

1942 Conté, pencil, and water color on paper

62.5×48.0cm

左下に年記(皇紀)「2602.7.7」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0847



27

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

大磯千畳敷裏山

Landscape of Oiso

昭和13年 コンテ、鉛筆、水彩、紙

1938 Conté, pencil, and water color on paper

48.0×62.7cm

左下に年記(皇紀)、作品名およびサイン「二五九八、二、大磯千畳敷裏山 須田剋太」、白文方印「須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0848



28

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

寺

Temple

1940年代前半 コンテ、鉛筆、水彩、紙

Early 1940s Conté, pencil, and water color on paper

48.0×62.5cm

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0849



29

須田剋太 1906 (明治39) -1990 (平成2)

SUDA Kokuta

かぼちや

Squash

1940年代前半 グアッシュ、コンテ、紙

Early 1940s Gouache and conté on paper

47.5×62.2cm

右下にサイン「須田剋」、画面中に白文方印「須田剋太」

令和5年度長谷川英世氏寄贈

D-0850



30

横尾龍彦 1928 (昭和3) -2015 (平成27)

YOKOO Tatsuhiko

エゼキエルの幻視

Ezekiel's Vision

昭和41年 油彩、カンヴァス

1966 Oil on canvas

73.0×60.8cm

左下にサイン「T. YOKO」、裏面に作品名、年記、サイン「“エゼキエルの幻視” 1966 T. YOKO」

令和5年度青木画廊寄贈

0-0683



31

横尾龍彦 1928 (昭和3) -2015 (平成27)

YOKOO Tatsuhiko

引き出されたカオス

Extracted Chaos

昭和43年 油彩、カンヴァス

1968 Oil on canvas

53.1×45.7cm

左下に年記、サイン「68 T. YOKO」、裏面に作品名、年記、サイン

「引き出されたカオス」、「1967 T. YOKO」

令和5年度青木画廊寄贈

0-0684



32

横尾龍彦 1928 (昭和3) -2015 (平成27)

YOKOO Tatsuhiko

水と霊

Water and Spirits

昭和41年 油彩、カンヴァス

1966 Oil on canvas

53.0×45.6cm

左下にサイン「T. YOKO」

令和5年度宇井浩一氏寄贈

0-0685



33

横尾龍彦 1928 (昭和3) -2015 (平成27)

YOKOO Tatsuhiko

黝い玉座

Jet Throne

昭和47年 グアッシュ、紙

1972 Gouache on paper

57.5×45.5cm

右下にサイン「T. YOKO」

令和5年度宇井浩一氏寄贈

D-0851



34

横尾龍彦 1928 (昭和3) -2015 (平成27)

YOKOO Tatsuhiko

青い風

Blue Wind

平成15年 ミクストメディア、カンヴァス

2003 Mixed medium on canvas

200.0×200.0cm

右下にサイン「T. YOKO」

令和5年度横尾嘉子氏寄贈

0-0686



■ 美術資料貸出等一覧

■ 美術作品の館外貸出

館外貸出点数： 18件(展覧会) 45点(点数)

| 作家名 | 作品名 | 展覧会名 | 会場 | 会期 |
|------------|-------------------------------------|---|---|---|
| 佐伯祐三 | 門と広告 | 佐伯祐三 一自画像としての風景 | 東京ステーションギャラリー 大阪中之島美術館 | 2023/1/21-4/2 2023/4/15-6/25 |
| モーリス・ドニ | トレストリニエルの岩場 | 憧憬の地 ブルターニュ | 国立西洋美術館 | 2023/3/18-6/11 |
| 森田恒友 | イル・ブレア | 憧憬の地 ブルターニュ | 国立西洋美術館 | 2023/3/18-6/11 |
| 森田恒友 | フランス風景 | 憧憬の地 ブルターニュ | 国立西洋美術館 | 2023/3/18-6/11 |
| 斎藤豊作 | 初冬の朝 | 憧憬の地 ブルターニュ | 国立西洋美術館 | 2023/3/18-6/11 |
| 資料 | 遠矢良茂宛葉書 | 憧憬の地 ブルターニュ | 国立西洋美術館 | 2023/3/18-6/11 |
| 資料 | 遠矢良茂宛葉書 | 憧憬の地 ブルターニュ | 国立西洋美術館 | 2023/3/18-6/11 |
| ウジェーヌ・ブーダン | ノルマンディーの風景(寄託作品) | ブルターニュの光と風 | SOMPO 美術館 福島県立美術館 静岡市美術館 | 2023/3/25-6/11 2023/7/1-8/27 2023/9/5-10/22 |
| クロード・モネ | ルエルの眺め(寄託作品) | ブルターニュの光と風 | SOMPO 美術館 福島県立美術館 静岡市美術館 | 2023/3/25-6/11 2023/7/1-8/27 2023/9/5-10/22 |
| 上田薫 | ジュリーにスプーンC | トリック×イリュージョン! | 北海道立近代美術館 | 2023/4/22-6/11 |
| 福田美蘭 | 湖畔 | トリック×イリュージョン! | 北海道立近代美術館 | 2023/4/22-6/11 |
| 福田美蘭 | 黄金の雨に变身したジュピターを迎えるダナエ | トリック×イリュージョン! | 北海道立近代美術館 | 2023/4/22-6/11 |
| 草間彌生 | スーツケース | 草間彌生の自己消滅、あるいはサイケデリックな世界 | 草間彌生美術館 | 2023/4/29-9/18 |
| 斎藤豊作 | フランス風景Ⅲ | ベルギーと日本 | 日黒区美術館 高梁市成羽美術館 新潟県立近代美術館 | 2023/4/29-6/18 2023/7/8-8/27 2023/9/16-11/12 |
| ポール・シニャック | アニエールの河岸 | Van Gogh and the Avant-Garde : The Modern Landscape | シカゴ美術館 | 2023/5/14-9/4 |
| 佐藤太清 | 竹窗細雨 | 生誕110年 佐藤太清 | 八幡浜市美術館 | 2023/7/1-8/20 |
| カミーユ・ピサロ | エラニーの牛を追う娘 | 土とともに 美術にみる<農>の世界ーミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで | 茨城県近代美術館 | 2023/7/8-9/3 |
| 土田麦麿 | 甜瓜図 | 虫めづる日本の人々 | サントリー美術館 | 2023/7/22-9/18(後期展示) |
| 大浦一志 | 杉並区阿佐谷南3丁目23-13~普賢岳「再立」1994.10.09-1 | 大浦一志ー雲仙普賢岳/記憶の地層 | 武蔵野美術大学美術館 | 2023/9/4-10/1 |
| 森田恒友 | 水郷図(春) | 春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ | 東京ステーションギャラリー 栃木県立美術館 長野県立美術館 碧南市藤井達吉現代美術館 | 2023/9/16-11/12(半期展示) 2024/1/13-3/3(半期展示) 2024/3/16-5/12(半期展示) 2024/5/25-7/7(半期展示) |
| 森田恒友 | 水郷図(冬) | 春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ | 東京ステーションギャラリー 栃木県立美術館 長野県立美術館 碧南市藤井達吉現代美術館 | 2023/9/16-11/12(半期展示) 2024/1/13-3/3(半期展示) 2024/3/16-5/12(半期展示) 2024/5/25-7/7(半期展示) |
| 福田美蘭 | 湖畔 | 福田美蘭ー美術って、なに? | 名古屋市美術館 | 2023/9/23-11/19 |
| 田中保 | キュビスムの裸婦 | トランスボーダー:和歌山とアメリカをめぐる移民と美術 | 和歌山県立近代美術館 | 2023/9/30-11/30 |
| 田中保 | きものの女 | トランスボーダー:和歌山とアメリカをめぐる移民と美術 | 和歌山県立近代美術館 | 2023/9/30-11/30 |
| 斎藤与里 | 塩原錦秋 | 那須塩原風景画譚 | 那須塩原市那須野が原博物館 | 2023/10/7-2024/1/14(前期展示) |
| 森田恒友 | 湖畔の村 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 樵夫 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 島の井 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 湖畔 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 午睡する看護婦 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 磯 I | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 着船 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | リヨン郊外 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 少女(2) | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | ヴェトゥイユの春 III | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | イル・ブレア | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | フランス風景 | ー日本の風景を追求した画家ー 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |

| | | | | |
|---------|-----------------|--------------------------------|-----------------|----------------------|
| 森田恒友 | 見下ろしたる港町 | —日本の風景を追求した画家— 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 城址 | —日本の風景を追求した画家— 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 関東の山村 | —日本の風景を追求した画家— 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 森田恒友 | 山麓煙霧図 | —日本の風景を追求した画家— 森田恒友の表現 | 熊谷市立熊谷図書館 | 2023/10/28-12/3 |
| 五月女幸雄 | Vision Fugitive | 2023CAF ネビュラ展 —埼玉前衛からネビュラへ— | 埼玉県立近代美術館 一般展示室 | 2023/11/1-11/5 |
| 高木康夫 | 作品「繫」 | 2023CAF ネビュラ展 —埼玉前衛からネビュラへ— | 埼玉県立近代美術館 一般展示室 | 2023/11/1-11/5 |
| 重村三雄 | 1975年の私 | 2023CAF ネビュラ展 —埼玉前衛からネビュラへ— | 埼玉県立近代美術館 一般展示室 | 2023/11/1-11/5 |
| クロード・モネ | ジヴェルニーの積みわら、夕日 | モネ 連作の情景 | 大阪中之島美術館 | 2024/2/10-5/6 (後期展示) |

■ 特別利用 (令和6年3月31日現在)

写真原板貸出：32件 48点
 作品撮影：2件 16点
 作品熟覧：6件 25点
 作品模写：0件

■ 原板貸出

| 作家名 | 作品名 | 発行元等 | 媒体 |
|----------------|--------------------------------------|-------------------|---|
| 小林雪岱 | 深見草 | 編集室 青人社 | 『日本伝統の配色事典』 |
| 小茂田青樹 | 山兎 | 井の頭自然文化園 | 「大正時代の写実主義 北村西望の彫塑と日本画」 展示パネル |
| 斎藤豊作 | フランス風景Ⅰ | 個人 | イベント展示パネル |
| 斎藤豊作 | フランス風景Ⅱ | 個人 | イベント展示パネル |
| 斎藤豊作 | 初冬の朝 | 個人 | イベント展示パネル |
| 斎藤豊作 | ヴェヌパルの桃 | 個人 | イベント展示パネル |
| 斎藤豊作 | 雪景色 | 個人 | イベント展示パネル |
| 斎藤豊作 | 春の山 | 個人 | イベント展示パネル |
| 斎藤豊作 | にわか雨 | 個人 | イベント展示パネル |
| 小村雪岱 | 見立寒山拾得 | 株式会社小学館 | 雑誌『和楽 8・9月号』(2023年7月) |
| 今村紫紅 | 龍虎 | 株式会社アフロ | 2024年 年賀状 |
| 今村紫紅 | 龍虎 | 株式会社アフロ | 2024年 年賀状 |
| 佐伯祐三 | 門と広告 | 一枚の繪株式会社 | 雑誌『一枚の繪 8・9月号』(2023年7月) |
| | 「DECODE／出来事と記録—ポスト工業化の美術」展 記録写真 | 李禹煥カタログレゾネ企画 | 李禹煥カタログレゾネ |
| 熊谷守一 | 夏の月 | 株式会社ネクサス | テレビ番組「開運！なんでも鑑定団」 (2023年7月25日(火)放送) |
| クロード・モネ | ジヴェルニーの積みわら、夕日 | 日本文教出版株式会社 | R6年度小学校図画工作科教師用指導書 大判掲示物 |
| クロード・モネ | ジヴェルニーの積みわら、夕日 | 産経新聞社 | 企画展「モネ 連作の情景」オリジナルグッズ (ポストカード) |
| クロード・モネ | ジヴェルニーの積みわら、夕日 | 株式会社クラリス | 『モネ 連作の情景 完全ガイドブック』 (2023年9月) |
| 田中保 | 花 | 埼玉りそな銀行 | 2024年度カレンダー |
| | 「春陽会 牛久沼旅行手描き告知」 | 栃木県立美術館 | 企画展「春陽会誕生 100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」図録 |
| 瑛九 | 花 | 株式会社アーテファクトリー | 小学校図画工作教師用学習指導書内『アートカード』 |
| 渡邊武夫 | 老図書館長 Tさんの肖像 | 浦和区役所区民生活部コミュニティ課 | 「浦和区絵画作品展 特別展示企画」展示パネル |
| 今村紫紅 | 龍虎 | 株式会社エイアンドエフ | 雑誌『ひらく10』(2024年1月) |
| | 記録写真 | 個人 | 「CAF ネビュラ」展図録 |
| | 記録写真 | 個人 | 「CAF ネビュラ」展図録 |
| | 記録写真 | 個人 | 「CAF ネビュラ」展図録 |
| | 記録写真 | 個人 | 「CAF ネビュラ」展図録 |
| | 記録写真 | 個人 | 「CAF ネビュラ」展図録 |
| | 記録写真 | 個人 | 「CAF ネビュラ」展図録 |
| 小村雪岱 | お傳地獄挿絵原画(刺青) | 編集室 青人社 | 『日本の図像 刺青』(2023年12月) |
| フィンセント・ファン・ゴッホ | 草地、背景に新しい教会とヤコブ教会 | 株式会社堀場製作所 | WEBサイト「HORIBA」内の「HORIBA Tark」掲載インタビュー記事(中国語版) |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 序幕第一場 取手の宿・我孫子屋の前 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 序幕第二場 利根の渡し | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 大詰第一場 布施の川べり | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 大詰第二場 お蔦の家 | 個人 | 調査研究 |
| 倉田白羊 | 先生と生徒 | 宮崎市安井息軒記念館 | 企画展「息軒の娘：安井息軒の教育論」展示パネル |
| 橋本雅邦 | 乳狼吼月 | スミソニアン協会国立アジア | 調査研究 |

| | | | |
|-------|----------------|------------|--|
| | | 美術館 | |
| 北沢楽天 | ぼんおどり | さいたま市立漫画会館 | 収蔵品展「楽天の世界漫遊 3 世界を感じて～わが道を拓く、三光漫画スタジオ開設編」展示パネル |
| 倉田白羊 | 先生と生徒 | 個人 | 「第3回飯肥安井息軒展」(小村寿太郎記念館展示場) 展示パネル |
| | 『処女の友』12巻10号表紙 | 川越市立美術館 | 『川越市立美術館紀要』(2024年3月) |
| | 『処女の友』14巻6号表紙 | 川越市立美術館 | 『川越市立美術館紀要』(2024年3月) |
| 倉俣史朗 | ミス ブランチ | 株式会社ブックエンド | 『服の、先へ。ファッションヒストリー編 下巻』(2024年4月) |
| | 美術館外観写真 | 街CHECK | 分譲地広告 |
| | 美術館遠景写真 | 街CHECK | 分譲地広告 |
| | 音楽噴水写真 | 街CHECK | 分譲地広告 |
| 奥瀬英三 | 室内 | 浦和郷土文化会 | 雑誌「うらわ文化 第149号」(2024年4月) |
| 奥瀬英三 | 浅春 | 浦和郷土文化会 | 雑誌「うらわ文化 第149号」(2024年4月) |
| 倉田弟次郎 | 農家作業 | 個人 | 自費出版誌 |

その他2件2点の原板貸出あり

■ 作品撮影

| 作家名 | 作品名 | 発行元等 | 媒体 |
|------|----------------------------|------|------|
| 内間安理 | FOREST BYOBU (FRAGRANCE) | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 青柳 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 美人立姿 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 見立寒山拾得 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 菊 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 雪の朝 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | おせん | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 湯島夜景 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 刺青のお伝 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | お傳地獄挿絵原画(刺青) | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 夜雨 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 雪兎 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 河岸 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 紅梅図着物 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 忠臣蔵(挿絵原画)十二月十五日第52回(1129回) | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 忠臣蔵(挿絵原画)十二月十五日第48回(1125回) | 個人 | 調査研究 |

■ 作品熟覧

| 作家名 | 作品名 | 発行元等 | 媒体 |
|------|------------------------------------|-------------------------|------|
| 高田誠 | 雪の武甲山 | 個人 | 調査研究 |
| 高田誠 | 松原湖辺 | 個人 | 調査研究 |
| 高田誠 | 野尻湖と妙高 | 個人 | 調査研究 |
| 黒川紀章 | 中銀カプセルタワービル住居カプセル | 中銀カプセルタワービル A606 プロジェクト | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 序幕 第一場 取手の宿・我孫子屋の前 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 序幕第二場 利根の渡し | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 大詰第一場 布施の川べり | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 一本刀土俵入り(舞台装置原画) 大詰第二場 お葛の家 | 個人 | 調査研究 |
| 内間安理 | FOREST BYOBU (FRAGRANCE) | 個人 | 調査研究 |
| 北沢楽天 | ぼんおどり | さいたま市立漫画会館 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 青柳 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 美人立姿 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 見立寒山拾得 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 菊 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 雪の朝 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | おせん | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 湯島夜景 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 刺青のお伝 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | お傳地獄挿絵原画(刺青) | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 夜雨 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 雪兎 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 河岸 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 紅梅図着物 | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 忠臣蔵(挿絵原画)十二月十五日第52回(1129回) | 個人 | 調査研究 |
| 小村雪岱 | 忠臣蔵(挿絵原画)十二月十五日第48回(1125回) | 個人 | 調査研究 |

■ 教育・普及事業

教育・普及事業では、入館者に当館のコレクションをさらに楽しみ、新たな考え方や価値を見出していただくために、また、次代を担う子供たちの感性と創造力を育むために、主として「一般向け事業」、「世代間交流を取り入れた事業（子供のためのプログラム）」、「学校との連携」、「広報活動」を展開している。

新型コロナウイルス感染症対策が続いていた令和4年度と比べると、令和5年度は段階的に人数制限も解除され、以前のようにイベントの参加者も増えてきている。

「一般向け事業」のミュージアム・レクチャーやスライド・トークは、参加者の方々にはとても満足していただけた。ミュージアム・シアターも令和4年度から引き続き開催できた。

「世代間交流を取り入れた事業」である子供向けワークショップ「MOMASのとびら」でも定員の制限は不可避であったが、12名の定員を18名に増やすことができた。申し込みは事前予約制とし、また同時に複数の場所でプログラムを行うなど実施方法を工夫しながら運営し、できる限り多くの方が参加できるようにした。

「学校との連携」では、多くの学校から授業協力の依頼をいただき、概ね対応することができた。

「広報活動」としては、広報物配布やメディアでの発信等の取り組みに努めた。

以上のように、感染症対策による制限は段階的に緩和され、可能な範囲で出来る限りの教育・普及事業を実施することができた。ボランティアによるガイド活動も、実施方法を工夫しながら再開することができた。



「ミュージアム・レクチャー」の様子

■ ミュージアム・レクチャー

令和3年度より、年度中に1回、展覧会鑑賞とは別の視点で美術に触れる場として専門的なレクチャーを開催している。平成30年度まで行われていた「美術館講座」を、より間口を広げた形で引き継ぎ、聴講費不要としたものである。

■ 日本の表装文化 古美術から現代絵画まで

2024年3月16日（土）14:00～15:30／講師：稲崎昌仁（「経新堂 稲崎」表具師）／講堂／参加者数：70人（予約不要）

■ 担当後記

◆今回は、日本絵画の表装をテーマにした。当館で屏風や掛軸の作品を展示する際、しばしば表装の方法や細部の名称、表装の意味などについて質問を受ける。そこで、普段の展示では紹介できない、表装の歴史や意義、現代における表装の様々な実例をテーマに、講師を検討した。

◆稲崎氏は、東京日本橋で150年続く表具屋「経新堂 稲崎」の次男に生まれ、約40年間表装や作品の修復等に携わる。表装を手掛ける作品は、絵画に限っても葛飾北斎や長崎派の絵師など近世絵師による作品から、川合玉堂など近代画家の作品、そして松井冬子など現代作家の作品と幅広い。また、稲崎氏は、美術大学の学生の作品を表装するプロジェクトにも参画し、表装文化の普及活動にも尽力されている。加えて、表装に用いる糊や膠、和紙についても、伝統的な素材と製法を研究し、製造の復活、継承に貢献するなど、幅広く精力的な活動をされている。そこで今回は、表装の歴史と実例について、稲崎氏が表装を手掛けられた作品や、表装に使用する材料をご紹介しながらレクチャーいただくことになった。

◆稲崎氏は、表装の歴史的な成り立ちを示す資料や実際に表装を行う様子などについて、これまでの仕事で蓄積された豊富な写真画像を見せながら明快に説明された。また、近世、近代、現代それぞれの軸装作品3点をお持ちいただき、参加者はそれぞれの作品に併せて仕立てられた表装の雰囲気を実感することが出来た。加えて、膠や和紙、裂地なども多数実物をお見せいただき、参加者は実際に素材に手を触れることで、素材の繊細さや、同じ裂地でも生産する国によりまったく質が異なることなどを体感することができた。

◆レクチャーでは、表装を変える前と後の変化、現代の居住空間にある表装など、分かり易い事例を多々挙げられた。表装に関する一般的な入門書では知りえない様々な情報を、職人ならではの経験談、意見や思いを述べながら披露くださり、レクチャー終了後、参加者からは多数感激の声をいただいた。

◆当日は、作家や表具師、日本美術に関心のある方など様々な方が聴講された。参加者から多くの質問があり、レクチャー終了後もしばらく質疑応答が続くなど、白熱した様子であった。充実したレクチャーを行ってくださった稲崎氏に改めて御礼を申し上げたい。

（菊地真央）

■ ミュージアム・シアター

展覧会の枠組みでは紹介が難しい表現（映像・映画、音楽、ダンス、演劇、パフォーマンス）について取り上げ、より幅広いジャンルの表現に触れる機会を提供することを目的として開催しているイベントである。元々は開館当初から1997年まで開催されていたもので、令和4年度から新規事業として復活した。

■ 女性たちの映像表現

[第1回] 2024年3月17日（日）13:00～16:30 / 講堂 / 無料

[第2回] 2024年3月24日（日）12:30～15:50（上映終了後、トークイベント実施） / 講堂 / 無料

・上映作品 / マヤ・デレン「午後の網目」（1943）「陸地にて」（1944）「変形された時間での儀礼」（1946）

出光真子 [第1回] 「おんなのさくひん」（1973）「加恵、女の子でしょ！」（1996）[第2回] 「Something Within Me」（1975）「主婦の一日」（1977）「At Any Place 4: ヨネヤマ ママコ作「主婦のタンゴ」より」（1978）「父の情景」（1981）「ざわめきの下で」（1985）

清原惟 [第1回] 「ひとつのバガテル」（2015）[第2回] 「わたしたちの家」（2017）

・第2回上映後トークイベント / 登壇者：清原惟（映画監督・映像作家）、中西香南子（国立映画アーカイブ特定研究員）

・参加者数 / 第1回：50人、第2回：98人

■ 担当後記

◆イベント復活後、2度目の開催となったミュージアム・シアター。今回は、「女性たちの映像表現」をテーマとし、マヤ・デレン、出光真子、清原惟の映像作品を上映した。世代の異なる3名の女性作家を取り上げ、その表現に通底するものや異なるものをすくい上げることで、現在の視点から「女性の映像表現」について再考する機会となることをめざした。なお、清原惟氏の作品上映は、企画展「イン・ビトウィーン」の関連イベントで登壇いただいたことがきっかけとなり実現した。

◆アメリカ前衛映画の先駆者のひとりであり、現在も多くの作家たちに影響を与え続けているマヤ・デレン。家父長制の強い家庭環境で育った経験や、妻であり母親である自身の立場をベースに、フェミニズム的傾向の作品を制作し続ける出光真子。そして、女性同士の関係性やコミュニティ、生き方に焦点を当てた映像作品を制作する若手映画監督の清原惟。3名の作家の表現方法やアプローチは全く異なり、一見それぞれの関連性は希薄であるように思えるかもしれない。しかし、彼女たちは作品において、女性としての自身の感覚を明確に映し出している。他にも、「身体」に対する意識や「家」のモチーフなど、共通する要素をいくつか挙げるができる。企画にあたっては、上記のことに着目し、各作家の特徴がより理解しやすくなるよう上映作品を選定・構成した。

◆開催当日は予想以上に多くの方が参加してくださいました。1日の上映時間が長時間に渡るため、合間に休憩を設け、途中退出も可能としたが、意外にも初めから最後まで通して参加された方が多かったです。とりわけ第2回は、清原監督のファンが多く集まったこともあり、最終的にはほぼ満席の状態となった。

◆第2回の上映終了後には、清原惟氏と中西香南子氏によるトークイベントを実施した。マヤ・デレン、出光真子の作品と清原氏の作品との関連性を中心に、「女性」の視点から3作家の表現についてお話しした

だった。映画監督と映画研究者というそれぞれの立場を活かした非常に興味深いトークが展開され、参加者が集中して聞き入っている様子が印象的だった。

◆終了後のアンケートでは、「企画内容が新鮮だった」といった好意的な意見が多く寄せられた。また、マヤ・デレンの上映を喜ぶ声も聞かれ、前衛映画・実験映画に高い関心を持つ方が多数いることを実感した。一方で、上映中の音声など機材面での指摘もあったため、来年度以降の課題としたい。ミュージアム・シアターの開催は、継続と情報の蓄積が重要だと思われる。今後も、多くの人の関心と期待に応えられるような企画を実施していきたい。（佐藤あゆか）



「ミュージアム・シアター」第2回上映後トークイベントの様子

■ 一般団体対応

■ スライド・トーク

平成27年度より、希望する一般団体（成人を中心とする2名以上の団体、学校団体や子供中心の団体と区別）に対して、スライドや資料を用いて展覧会や美術館の案内を行っている。事前予約制で、企画展またはMOMASコレクション展を観覧するグループを対象とし、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応している。展覧会観覧前にテーマや構成、見どころ等を聞くことで、「より関心をもった」「展覧会観覧がますます楽しみになった」という声が聞かれ、一定の成果があるものと考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に変更となったことを受け、令和5年度より基本的に出張講座をとりやめた。美術館に来館し、美術館の概要や展覧会の見どころを聞いた上で実際に展覧会を観覧していただくことで、美術館や美術への親しみをもってもらい、理解を深めてもらいたいと考える。

■ 対応実績

対応数：7団体、計104名

団体種：大学、公民館など

■ 担当後記

◆スライドを使用した団体案内事業の開始から9年が経過した。新型コロナウイルス感染症による影響で申し込みが減少し、令和3年度に若干の回復を見せたが、出張講座を控えた関係で、令和5年度は総参加者数は減少した。

◆しかしながら、団体の目的や要望に応じて、スライドの内容を変更することで、参加者から好評の声をいただいた。11月に案内した公民館の団体は、すでに次年度の申し込みに関しての問い合わせがあった。

◆昨年度までは感染症拡大の影響によって、団体の規模を問わず講堂での実施であったが、今年度より館内の規制が緩和したことで、35名以下の団体は講座室での案内に戻した。今後は、団体の規模や館内の状況を鑑みて、講座室と講堂を使い分けていきたい。

◆次年度に向けてチラシを一新した。1枚で予約から当日の流れまで知ることができるものであり、次年度に県内の図書館、公民館などに発送予定である。また、美術館のホームページに一般団体案内専用ページを作成することを予定している。今年度は申し込み数が少なかったため、次年度は広報に力を入れ、一般団体案内の周知に努めたい。

◆また、令和5年度より出張講座をとりやめた。そのため、案内後の鑑賞に繋がられるように、スライドの内容をより充実させ、参加者が美術館に来てよかったと思えるような案内を目指していきたい。

(高橋南々花)



スライド・トークの様子

■ 視覚障害者向け作品案内サービス

美術館のアクセシビリティ向上の取組の一環として、令和元年度より、視覚に障害のある方を対象とした作品鑑賞のガイドプログラムを実施している。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、令和2年度から令和4年度までは展示室内での案内を中止していたが、美術館サポーターによるMOMASコレクションの作品ガイドが再開したことに伴い、今年度よりMOMASコレクション展示室内における所蔵作品の案内を再開した。

今年度はMOMASコレクションの案内およびデザイナーズ・チェアに座って鑑賞いただくプログラムを実施したほか、屋外彫刻に触れて鑑賞するプログラムの検討も行った。プログラムは予約制で、実施にあたっては、当館の美術館サポーターにガイドやプログラムの補助を依頼している。過去に参加していただいた個人や団体には、定期的にメール等での案内を行っているが、幅広い情報発信については課題となっている。県内外の関係団体とのネットワーク構築や連携をはかりながら、内容の充実や情報の周知に努めたい。

■ 対応実績

対応数：1団体、計2名



ガイドプログラムの様子

■ ファミリー鑑賞会

美術が好きな方でも、小さなお子さんを育児している期間中に美術館を訪れる機会をつくることは難しい。また、北浦和公園には乳幼児を連れてお母さんやお父さんが大勢来園される。

このような方々がゆっくり気兼ねなく美術館を楽しむきっかけとなるよう、お子様連れの家族優先の時間帯を設けてスタッフがMOMASコレクションを案内するファミリー鑑賞会を平成25年度から実施している。また、お子様がスタッフと一緒に遊ぶことができるコーナーも展示室内に設置した。

■ 令和5年度

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年11月7日以降、ファミリー鑑賞会の開催を見合わせていたが、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に変更となったことにより開催時期を検討し、令和6年2月20日に4年3カ月ぶりに開催することができた。

開催当日は天候に恵まれたこともあり、9組19人が参加した。

■ 担当後記

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類になったとはいえ、引き続き感染症対策が必要であり、開催に当たっては十分に注意を払う必要がある。

新型コロナウイルス感染症拡大前には5月と10月又は11月に実施していたが、展覧会など主催事業等の状況を考慮し、柔軟に時季を選び実施していきたいと考える。

参加者からは「子供を預かってもらってゆっくり楽しめた」

「久しぶりに美術品に触れることができ、よい時間になった」などの声があり、小さなお子様連れの方に気兼ねなく来ていただくための一定の場を提供することができた。

ファミリー鑑賞会の実施に当たっては、より実効性のある広報を行い、多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。

(栗林雅志)



作品解説の様子



ベビーカーで入室し、子供が遊べるスペースを設置

■ 参考 ちらしと開催時の様子



ちらし(令和6年2月20日/表面・裏面)

■ 子供のためのプログラム

■ アート体感ワークショップ「MOMASのとびら」

「MOMASのとびら」とは

平成22年4月からスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て(参加者、美術館スタッフ、ボランティア)が美術館での体験を共有することにより、一人ひとりの新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は主に土曜日で、美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営している。参加対象は幼児(4才)から大人まで幅広く設定している。作品鑑賞と制作が一体となったプログラムでは、展示や収蔵作品を多角的に楽しめるよう用意している。

令和5年度は、内容や定員を制限した実施計画を立て、プログラムを実施することが出来た。多くの参加者に活動してもらえるよう新しいプログラムの開発にも努めた。

1. みる+つくる

MOMASコレクションや美術館内外の作品、または開催中の企画展の作品を鑑賞した後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラム。対象：小・中学生。

- ・「作品を見つめて…縁をつくらう！」5月20日/参加者数：13名
- ・「世界にひとつ！喜びの自分旗をつくらう！」10月28日、11月4日/参加者数：12名、16名
- ・「みえる？みえない？ 感じて！『間の世界』」12月9日、12月16日/参加者数：17名、17名

2. 親子クルーズ

MOMASコレクションや美術館内外の作品、または開催中の企画展の作品を鑑賞した後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラム。対象：小・中学生+親。

- ・「不思議な果実！君の中身はなんだろう？」7月15日、7月22日/参加者数：18名、18名
- ・「身近なものでつくらう 魅惑のウェア！」2月3日、2月10日/参加者数：15名、14名

3. みつけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施する。対象：幼児(4才~6才)+親。

- ・「MO “MAほうつかい” がMOMASをそめる！」6月3日、6月10日/参加者数：13名、12名
- ・「MOMASの紙の上の運動会！」11月25日、12月2日/参加者数：14名、14名

4. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。子供から大人まで、互いに刺激されながら楽しく制作する。対象：小学生~一般。

- ・「まるまるあなただけのランプシェードを作ろう！」6月24日、7月1日/参加者数：15名、13名

・「絵画の中から飛び出して！」1月20日、1月27日/参加者数：14名、14名

・「自分だけのNo.1チェアー」3月2日、3月9日/参加者数：15名、16名



工房「自分だけのNo.1チェアー」制作の様子

5. 彫刻あらいぐま

屋外にある彫刻作品を洗浄するプログラム。参加者は洗浄のプロ(学芸員)やボランティア・スタッフに教えてもらいながら、彫刻作品を一生懸命洗浄する。また、洗浄前と後の彫刻の気持ちを考えるなど、スタッフと会話をしながら鑑賞も楽しむ。対象：小・中学生+親。

- ・4月29日、9月16日/参加者数：11名、7名
- ※5月13日、9月9日/雨天のため中止

6. フリープログラム

誰でも参加できるプログラム。洗濯ばさみを使った造形遊びをしたり、青空の下で風を感じて描いたり、グッドデザインの椅子に座ってお気に入りの椅子を見つけたり、ストローをカクカクつなげたりして楽しむ。対象：どなたでも。

- ・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「わくわく鑑賞ツアー」4月8日/参加者数：39名、18名 計57人
- ・「キラキラカチカチ★スプーンワールド！」「わくわく鑑賞ツアー」4月22日/参加者数：38人、9人 計47人
- ・「風を描こう！」「カクカクつなげて遊ぼう！」5月6日/参加者数：122人、69人 計191人
- ・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「お顔をトレース★肖像画」10月7日/参加者数：81人、51人 計132人
- ・「アート★ピンゴ」1月13日/参加者数：61人

7. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。普段なかなか足を運ばない遠方の方にも参加しやすく、美術に触れ、美術の価値を見出す機会を提供するスペシャル・プログラム。

- ・「ガムテープのズック屋さん！」8月5日/講師：佐藤いちろう(クツ創家)/対象：小・中学生/参加者数：29名
- ・「フリープログラムDAY」8月12日/参加者：212人
- ・「王冠をつくらう！」8月19日/講師：平島鉄也(造形作家)/対象：小・中学生/参加者数：16名
- ・「横尾龍彦さんになりきろう！—無意識から生まれる色とかたち—」8月26日/対象：小・中学生/参加者数：15名



サマー・アドベンチャー「ガムテープのブック屋さん！」
講師・佐藤 ちろう氏



サマー・アドベンチャー「王冠をつくらう！」
講師・平島鉄也氏

8. もますまつり

県民の日（11月14日）に行う、フリープログラムの拡大版。対象：どなたでも。

・「わくわく鑑賞ツアー」「風を描こう！」「キラキラカチカチ★スプーンワールド！」11月14日／参加者数：330人

■ 担当後記

◆新型コロナウイルスの感染対策が緩和され、事前申込制プログラムの定員を増やした。悪天候による中止を除き、全てのプログラムを実施することができた。

◆参加人数を重視していた頃もあったが、コロナ禍を経て、現状できることを話し合い、材料、道具などを取りそろえ、充実した環境に参加者に提供できないか、学校や家ではできない美術館ならではの内容をより深く考える年度となった。

◆MOMASのとびら拡大版「サマー・アドベンチャー」では、2名の講師をお招きした。クツ創家として、普段はアーティスト以外にも靴職人として活動する佐藤ちろう氏のワークショップでは、参加者の靴型を用意し、自分で価値をつけるクツ作りを行った。造形作家である平島鉄也氏のワークショップでは、自分にご褒美あげよう、という言葉とともに、自由にできないことが多かったここ数年の自分に向けて、王冠作りを行った。サマー・アドベンチャーは以前から人気があったが、令和5年度は特に応募が多かったように感じる。ここから継続

して、MOMASのとびらへの参加者も増えた。今後もまた参加したくなるような内容を考えたい。
(飯田淳乃)

■ 夏休みの特別プログラム

1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子供たちをサポートするコーナー。研修を受けた教育普及サポート・スタッフが相談員となり、館内の案内や「彫刻や作品を楽しむためのワークシート」、「展覧会を楽しむためのワークシート」などの資料を配布したり、美術館見学の宿題の相談に応じたりする。

令和5年度は7月15日（土）～8月29日（火）の休館日以外の毎日、エントランス・ロビーにて対応した。

2. 夏休み鑑賞ガイドツアー

夏休み期間中に3日間限定で行う30分のミニ・ツアー。美術館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたる。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することが可能である。

例年、小・中学生や親子連れの入館者が参加し、気軽にアートに親しめるツアーとして好評を博していたが、令和2、3、4年度と感染症対策のため中止していた。令和5年度は感染症対策が緩和されたため1回実施した。

・8月11日／参加者数：55人

■ ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が協働して子供のための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASのとびら」のスタッフとしてプログラムの企画・運営に携わっている。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生にとっては、子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけるにとどまらず、美術館という社会教育施設での学びの在り方、学校での図工・美術の学び、社会や子供と図工美術のつながりなどを広く学ぶ場になっている。

■ 担当後記

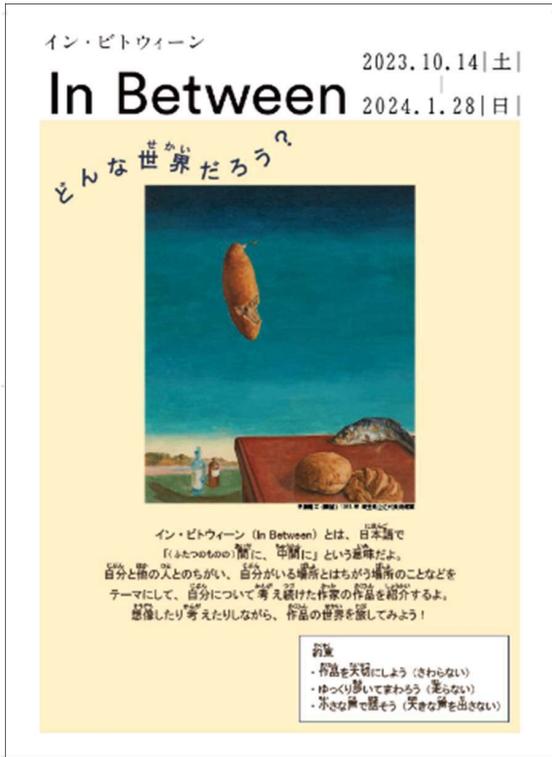
◆令和5年度の履修者は0名であった。新型コロナウイルスの感染対策が緩和されてから、様々な場所で実践できる環境が戻ってきた。当館では、渦中も工夫を凝らし事業を継続してきたが、ここで新たにプログラムを見直す時がきたのかもかもしれない。他施設ではできないような活動を増やし、魅力的な事業になるよう努めていく。(飯田淳乃)

■ 企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場で無償配布するほか、学校団体や子供のためのプログラムなどでも幅広く活用している。必要に応じて小・中学校、高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立っている。

令和5年度は次の2種を作成した。

① 「イン・ビトウィーン」 / 作成：高橋南々花



表面

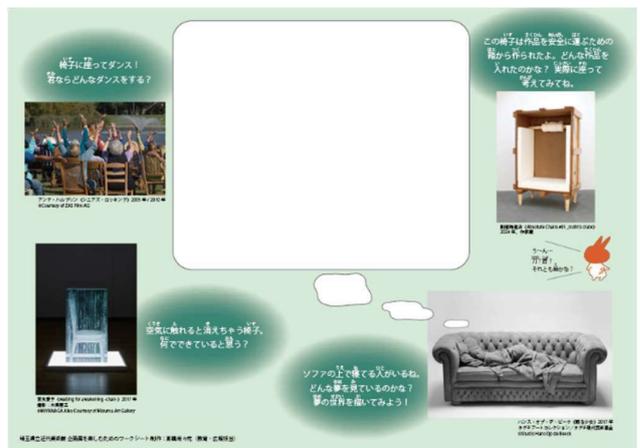


裏面

② 「アブソリュート・チェアーズ」 / 作成：高橋南々花



表面



裏面

■ 学校との連携

■ 教員美術講座

教育現場に生かせる講座を提供し、図工・美術教育の発展と充実を図るとともに、博学連携を深めることを目的としている。令和5年度は講座2回を開催した。

■ 第1回教員美術講座

「造形遊びをととして図工の時間をアップデートさせよう！」

8月3日(木) / 講師: 石上 城行 (埼玉大学教育学部芸術講座 教授) / 参加者数: 24名

今年の第1回教員美術講座では「造形遊び」にスポットを当てた活動を行った。新聞紙や紙コップなどの身近な素材を使い、部屋の空間を十分に利用しながら、テーマに沿った制作を行った。活動の最後に、造形遊びの進め方や児童への声掛けの仕方、評価のポイントについて講師よりお話をいただいた。

参加者の感想(抜粋): 造形遊びの声がけでつい「すごいね」「おもしろいね」と言っていました、言葉をかえていきたいです(小学校教諭) / 実際に体験してみると、楽しさ、難しさ…子どもの立場で考えることができました(小学校教諭) / 特別支援学校(知的)低学年でもできるあそび(どちらかというと、素材あそび)をいろいろ取り組んでいきたいと感じました(特別支援学校教諭)



「第1回教員美術講座」の様子

■ 第2回教員美術講座

「色、いろ、イロで、空を舞う！」

8月10日(木) / 講師: 代 淳子 (行田市立太田中学校 教諭) / 参加者数: 23名

人間の左脳は言語的、理論的な働きをしているのに対して右脳は非言語的、直感的な働きをしているといわれる。右脳を使うことで自分らしく生き生きとした表現ができることが考えられる。講座では、右脳を働かせて絵の具やパスなどの描画材を使用して、色をテーマに制作し、三原色を中心としたより自然に近く美しい色調を生み出す工夫にチャレンジした。

参加者の感想(抜粋): たくさんのことをためしながら体験することができてよかったです(小学校教諭) / 三原色を使うことの奥深さを今回の講座で体感しました。生徒たちへ還元したいと思います(中学校教諭) / 学生の時にこのような美術をやった経験はなかった。苦

手ながらも自分なりにやるととても楽しい三原色での作品作りでした(特別支援学校教諭)。



「第2回教員美術講座」の様子

■ 担当後記

◆令和4年度の講座は1回のみの実施であったが、令和5年度は2回実施することができた。2回の実施になっても申し込みが多く、両講座とも抽選となった。

◆教員の働き方が見直されている中、造形遊びを実際にやってみる時間を確保するのは難しい。今回の講座では、実際に教員がやってみるという活動を通して、活動の面白さ、や難しさなど、新たな発見があったという意見が多かった。

◆前年度に実施した講座を応用した内容となっており、右脳を働かせて諸感覚から認識する描き方から、立体的な作品づくりまで発展させることができた。成果物から辿ると、制作において難しい箇所があるのではないかと参加者の表情も少し硬くなっていたが、講師である代先生より丁寧な説明があり、何よりも児童・生徒の立場から制作を考えるというプログラムに対してのお気持ちが聞けたことで、参加した先生方もリラックスして取り組むことができた。

◆令和3、4年度と、右脳を働かせて創作する講座を実施いただいた講師の代先生の集大成となる講座を実施した。

◆色について難しく考えていたが、児童・生徒への伝え方や道具の使い方で表現の幅が広がるなど、今までの教材の中でも新しい発見をしている先生が多かった。

◆右脳で描くシリーズとして、コロナ禍から3年講師を務めていただいた代先生には多大なる感謝を申し上げたい。また、このような講座を実施できるように努めていきたい。(飯田淳乃)

■ ミュージアム・キャラバン事業

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、授業の枠を広げて鑑賞や創作体験をすることを通じて、児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えることを目的に本事業を実施している。

■ 「影のワークショップ」

2月8日(木) / 講師：青木聖吾(美術家) / 実施校：三郷市立前谷小学校 / 参加生徒数：5年生 52名

講師の指導のもと、「影」をテーマにしたワークショップを行った。プロジェクターの光で映し出された影の形を友達同士で写し取り、その形に合わせて赤・青・緑のパスで色を重ね、「もう一人の自分」を作り出した。生徒一人一人が自分だけの色の重ね方をするので、成果物は様々な表情となった。また、講師の作品や制作過程を紹介し、美術への姿勢や考え方、作品制作に込める思いなどについて生徒が知る、貴重な機会となった。



ミュージアム・キャラバン「影のワークショップ」の様子

■ 「丸シールでいろいろな世界を描こう！」

2月21日(水) / 講師：大村雪乃(現代美術家) / 実施校：戸田市立美谷本小学校 / 参加生徒数：5、6年生 95名

一度は見たことのある「丸シール」を使って絵を描くワークショップを行った。アートは誰もが楽しめるもの、アートをより身近に感じてほしいという講師の思いから手軽に貼ることができるシールを素材として絵を描いている。ワークショップでは、大小30種類以上の丸シールを使って、学年でテーマをわけ、その世界に合うものを丸シールで表現した。素材となる丸シールは目にしたことがあっても、どのように配置したら理想の形ができるのか試行錯誤している児童の姿は美術への姿勢や考え方、作品制作について改めて考える機会となった。



ミュージアム・キャラバン「丸シールでいろいろな世界を描こう！」制作の様子

■ 担当後記

◆今年度は、天候が危ぶまれたものの、無事2校でのワークショップを実施することができた。

◆「影のワークショップ」では、真っ暗な体育館の壁全体を使っての影遊びをする活動からスタートする。子供たちは影の存在は知っているものの、全身を使ってじっくり遊んだことがなかったらしく、夢中になって動いていたり、ポーズをとったりしていた。影をうつしとる活動は、壁の凹凸もあり、少し難しい児童もいたが、友達と協力しながら行っていた。自分の身長以上ある紙にみんなで描くという初めての経験に面白さを感じていたようだった。最後の成果物の鑑賞では、講師の青木聖吾氏に工夫したところや見てほしいところをたくさん話していた。

◆「丸シールでいろいろな世界を描こう！」では、講師である現代美術家の大村雪乃氏が自身の制作に使用している丸シールを使って活動を行った。

◆大きな画用紙の背景にテーマに合うような動植物や建物、その他自身がその空間に似合うと思うものを丸シールで表現した。最初は丸シールという素材がどのような形になるか想像するのが難しい児童もいたが、だんだんと扱いに慣れ、コツをつかみ1人1作品以上の丸シール作品が誕生した。最後には、大村氏と作品を鑑賞していく。近くで制作していた時と、全体を俯瞰して見た時の丸シールの見え方の違いに驚いた。

◆通常の授業協力や美術館職員が担当するワークショップとは異なり、子供たちがアーティストと一緒に活動したり、アーティストの考え方や視点に直接ふれることができたりする貴重な機会を提供する事業として、今後も進めていき、学校への広報も強化していきたい。

(飯田淳乃)

■ 公募展 第1回「みつめて、かんじて、たべてみて！」
—作品のみかた・味わいかた—

学校との連携強化と、図工・美術教育の発展を目的に、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校（級）の児童・生徒を対象に本事業の開催を計画した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、「食（食べ物/料理）」になぞらえ、描いたものを募集した。第1回の令和5年度は、129点の作品が集まった。

10月19日（木）に当館創作室において、建島哲館長、藤倉陽子副館長、アーティスト・ユニットL PACK. の小田桐奨氏、中嶋哲矢氏、平野到主席学芸主幹、平井良子教育・広報担当課長が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

受賞作品、応募作品を11月14日（火）から1月28日（日）まで、1階吹き抜けまわりの無料スペースに展示した。

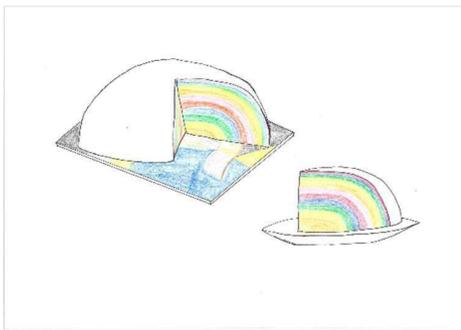
令和5年度は、埼玉りそな銀行の協賛および埼玉県立近代美術館フレンドの協力のもと、総合グランプリに選ばれた作品を、公募展審査員のL PACK. が実際に食べ物として創作する試食イベントも実施した。

■ 入賞作品

※受賞者氏名/作品名/鑑賞作品の順に記載。

① 総合グランプリ

柳平悠斗/色とりどりミルクレープ/田中保《キュビストA》



② 総合準グランプリ

岩尾唯美/真赤なソファで食べたいリンゴのケーキ/ 剣持勇《丸椅子（二人掛）》



③ 小学校グランプリ

菅原美莉/新感覚パフェアイス/剣持勇《丸椅子（二人掛）》



④ 中学校グランプリ

大串光桜/甘いカラフル風車/田中保《キュビストA》



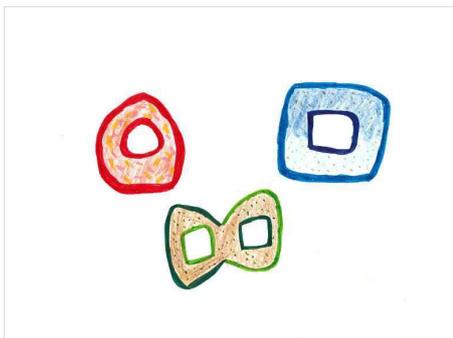
⑤ 中学校準グランプリ

大月香波/チョコレートケーキの疑問/建島覚造《Waving Figure 18》



⑥ 特別支援学校グランプリ

北川心結／カラフル！？ドーナツ〜モネの希望をそえて〜／
クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》



⑥ 特別支援学校準グランプリ

小島綾音、原子悠誠、国谷結希／海鮮ふりかけ丼／
田中保《キュビストA》



■ 表彰式・試食イベント



公募展表彰式の様子



総合グランプリの絵（アイデア）が、アーティスト・ユニットL.PACKによって実際に食べ物として創作されました。

■ 担当後記

◆約5年ごとにテーマを変えて実施してきた公募展であるが、令和5年度は「みつめて、かんじて、たべてみて！ー作品のみかた・味わいかた」として、アートと食をテーマに第1回を迎えた。美術作品を鑑賞し感じたことや考えたことを絵（食べ物やレシピ）として表現する新しい試みである。しかし口頭説明が大変難しかったため、鑑賞の仕方や応募の流れも含めて3本の動画作品を作成し、応募を考えている児童・生徒、また指導を行う先生向けに一定の内容を伝えることができた。

◆第1回の開催にも関わらず129点の作品が集まった。職員の不安をよそに児童・生徒の多様なアイデアに圧倒され、審査員たちは作品の選定に頭を悩ませた。

◆令和5年度は埼玉りそな銀行に協賛いただき、表彰式の他に美術館のレストランテラスを会場として試食イベントも実施することができた。審査員であるL.PACKが、受賞作品が決まってから約1か月試行錯誤を重ねて受賞者が感じたことや考えたことをかみ砕き、再構築して見事に創作した。1枚ずつ異なる色のクレープ生地の上に風味の異なるクリームをはさみ、全体をバタークリームで包み込んだ。美術作品から絵（アイデアやレシピ）への表現でも驚かされたが、実際に食べ物となった時にも試食した人によって感じ方がさまざまであり、今一度、鑑賞した美術作品を観たくなるようなイベントとなった。

◆次年度も同様の公募展を予定している。収集作品を活用し、未来を担う児童・生徒に、美術館という場所に興味関心を持ってもらうことを考え、次年度も実施していきたい。（飯田淳乃）

■ その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

■ 学校団体の受け入れ

美術作品の鑑賞を目的として来館した園児・児童・生徒・学生を対象に、例年であれば対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じつつ、可能な範囲で案内を行った。実施した内容は、展示室に入る際の鑑賞ポイントの紹介、少人数グループに分けた屋外彫刻案内、別室での複製画や鑑賞パネルでの対話による鑑賞、同じく別室でのグッドデザインの椅子鑑賞体験などである。活動に制限があったとしても、美術館では展示の迫力を体感したり、館内の雰囲気味わったりと、魅力を存分に感じ取ることができた。

学校団体対応数：28団体、計1,461名



団体案内の様子

■ 授業協力

学校等を訪問し、当館収蔵作品の複製画やグッドデザインの椅子、鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。美術館利用研究会が考案したプログラムを軸に、事前に先生方と打ち合わせを行い、園児・児童・生徒・学生の実態やねらいに合わせて授業を計画・実施した。特に、グッドデザインの椅子の授業では、「実際に触ったり座ったりして身近にアートが感じられ、椅子の鑑賞を通して、子供たちが美術館や作品、作家へ興味をもつことができた」という感想をいただいている。図工・美術の授業を苦手と感じる先生自身が楽しみながら指導の幅を広げることに役立つようである。実施をきっかけに学校全体で年間指導計画に組み込むなど、繰り返し依頼のある学校も多い。また、各市町村の教員別研修会などで紹介していただくこともあり、経験のある先生方だけでなく若手の先生による活用も増加してきている。

授業協力数：42校、118学級、計3,550名



中学校での鑑賞授業の様子（椅子のプログラム）

■ 複製画等の貸し出し

学校の授業で活用できるよう、当館収蔵作品の複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。複製画や鑑賞キットは、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、カミーユ・ピサロ《エラニーの牛を追う娘》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》、瑛九《青の中の黄色い丸》などから選ぶことができる。教員向けの研修や公開授業で見たり、利用している先生から実践内容を聞いたりして活用を検討する先生も多く、問い合わせが増えている。初めて利用する先生には、授業の流れを実際に見せたり、美術館利用研究会が考案した授業例などを紹介したりしている。

貸出数：33件

■ 職場体験の受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策が緩和したため、多くの学校を受け入れた。臨時休館時の希望が多く断りを入れた学校もあった。

対応数：4校、12名（中学校4校）

■ 博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、下記の15大学20名の実習生を受け入れて実施した（青山学院大学、跡見学園女子大学、金沢美術工芸大学、群馬県立女子大学、埼玉大学、十文字学園女子大学、女子美術大学、多摩美術大学、筑波大学、帝京大学、東京家政大学、東京学芸大学、東京造形大学、日本大学、武蔵野美術大学）。

日程は全7日間で、学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行されたことを受け、マスクや手洗いなどの感染対策は学生の判断に委ねつつ、合同実習はコロナ禍以前と同様に講座室で行った。

■ 合同実習

講義と実務を中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・7月18日（火）／館内外施設見学、学芸部の仕事について、管理の仕事について、企画展の概要について、企画展の実務について、企画展見学
- ・7月19日（水）／図書とその取り扱いについて、美術資料の収集と保存について、MOMASコレクションについて、油彩画とその取り扱いについて
- ・7月20日（木）／彫刻とその取り扱いについて、彫刻のメンテナンス、版画・写真とその取り扱いについて、これからの美術館について
- ・7月21日（金）／日本画とその取り扱いについて、広報と刊行物について、視覚障害者のガイドについて、教育普及活動について、ワークショップ・学校連携について

■ 個別実習

各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1～2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は、個別実習担当者と実習生が相談して決めた（原則として8月中旬に3日間）。当日は、展示、収蔵品の点検、資料整理、資料発送、ワークショップ運営といった作業の体験や意見交換を行った。

■ 美術館ボランティア

■ 美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、MOMASコレクション各会期中はほぼ毎日、14時から30分程度、展示室内で解説ガイドを行っていたが、令和3年度に引き続き展示室内での解説ガイドの実施を見送った。ただし、年度途中で新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたため、一定の距離が保てる館内の無料ゾーンまたは屋外彫刻でのガイド活動を試みた。令和5年度は以前と同じように展示室内でガイドができるようになった。

令和5年度の登録人数は31名。

■ 研修日程

令和5年度は状況に応じて研修会の実施、もしくは関連資料の郵送とした。なお、参加の判断については各美術館サポーターに委ね、参加が難しい際は資料を郵送した。

- ・4月22日(土) 担当職員顔合わせ、年間予定のお知らせ/ガイド活動実施方法について
- ・5月27日(土) 館長トーク/埼玉県立近代美術館建昌哲館長
- ・6月24日(土) MOMASコレクション5月-8月/
平野学芸員
- ・7月22日(土) 企画展「横尾 龍彦」/菊地学芸員
- ・8月26日(土) ガイド活動について資料郵送
- ・9月16日(土) MOMASコレクション9月-11月/
五味学芸員
- ・10月28日(土) 企画展「イン・ビトウィーン」/
嶋原学芸員
- ・11月25日(土) ガイドについての資料郵送
- ・12月16日(土) MOMASコレクション12月-2月/佐藤学芸員
- ・1月27日(土) ガイドの実施状況確認、意見交換
- ・2月24日(土) 企画展「アブソリュート・チェアーズ」
/佐伯学芸員
- ・3月16日(土) MOMASコレクション3月-6月/篠原学芸員

■ 担当後記

◆令和3、4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、美術館サポーターが展示室内での活動を行うことは困難を極めた。しかし、一定の距離を保ちやすいフリースペースの作品や屋外彫刻でのガイドから始まり、令和5年度から展示室でのガイド活動が再開された。以前のように毎日開催とまではいかなかったが、美術館サポーターの希望日のみ開催し、徐々に2年間ブランクがあったガイドを少しずつ思い出すよい機会になった。また、展示室でのガイドの経験がなかった8期生も、今までの流れを知ることができた。

◆展示室内での活動が再開された直後は2年間できなかったブランクを不安に感じているサポーターの方も多かったが、他の方のガイドを聞いたり、資料閲覧室で資料を集めたり、自己研鑽に努め、徐々にサポーターガイドの活動日が増えていった。

◆来館者から「展示室内でガイド活動が再開されるのを待っていた」「また聞きにきたい」などのお言葉があり、美術館サポーターは当館にとって、とても大切な存在であると再認識した。

◆活動が停止していた2年間で美術館サポーターをやめた方や転居、健康上の理由などで人数が減少している。8期生がガイドを始めたばかりではあるが、以前のように毎日活動を行うのであれば、新規募集も視野にいれなければならない。(平井良子)

■ 教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置付けとなっている。1年更新で、令和5年度の登録人数は74名。

■ 研修日程

・新規スタッフ研修：美術館でのサポート・スタッフの役割と子供の鑑賞活動について理解してもらい、美術館と子供たちのつなぎ役となるよう研修を実施した。その中で、美術館の目的や収蔵作品、令和5年度の活動内容と運営計画などについて講義した。/6月18日(日)、6月25日(日)、7月15日(土)-21日(金)のうち1日

・ガイドスタッフ特別研修：夏休み期間に展示中の作品を 実際に見て、対話型の鑑賞の練習を行うものだが、今年度は1回実施した。/8月11日(金・祝)

■ 担当後記

◆令和5年度も美術や教育に関する学科のある大学を中心に連携を図り、ガイドランスを実施することができた。また、募集の際にボランティア参加への動機の記入を必須にした。新規登録者は、20名以上となった。

◆令和5年度より応募用紙の様式を一新することができた。応募用紙に記入することが増えると、希望者が躊躇してしまい人数が少なくなってしまうかと思っただが、そんな心配とは裏腹に、活動に積極的なスタッフが集まり、ワークショップを安心安全に行うことができ、活動の充実度が上がったように感じた。誰でも気軽にボランティアができるのもよいが、一定のラインを設け、同じ気持ちの者が集まると、人数が多くなっても、充実した活動につながることを肌で感じることもできた。(飯田淳乃)

■ MOMAS彫刻ボランティア

MOMAS彫刻ボランティアは、2004(平成16)年に発足した。現在は、土曜日開催の教育普及事業「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムのボランティア講師を務めることを活動内容にしている。「MOMASのとびら」における洗浄プログラムの名称は、ボランティアの愛称である「彫刻あらいぐま」を引き継ぎ、彫刻の洗浄方法と屋外彫刻の大切さなどを教えている。登録者数8名。

■ 活動概要

令和5年度は、4~5月と9月に計4回、「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま：あらって見よう！彫刻作品」を計画したが、そのうち2回は雨天のため中止となった。彫刻ボランティアが各回数ずつ講師として活動し、屋外彫刻の鑑賞のポイントなどに触れながら、参加者といっしょに彫刻洗浄を行った。

- ・4月29日(土) 参加者・4組11名、ボランティア講師・4名
- ・5月13日(土) 雨天のため中止
- ・9月9日(土) 雨天のため中止
- ・9月16日(土) 参加者・4組7名、ボランティア講師・3名

■ 広聴・広報・刊行物

■ 広聴

1. アンケート調査

企画展、MOMASコレクションともに、毎回アンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。

・企画展調査：「横尾龍彦 瞑想の彼方」7月15日～9月24日の65日間。回答数：259／「イン・ビトウィーン」10月14日～1月28日の85日間。回答数：237／「アブソリュート・チェアーズ」2月17日～5月12日の76日間。回答数：288／いずれも展示室出口でアンケート用紙による回答。

・MOMASコレクション調査：5月13日～8月27日の102日間。回答数：142／9月2日～11月26日の77日間。回答数：82／12月2日～2月25日の68日間。回答数510／3月2日～6月2日の57日間。回答数677／いずれも展示室出口でアンケート用紙による回答。

2. その他

当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答している。

■ 担当後記

◆MOMASコレクションのアンケート回答数を増やすため、アンケートに記入するとくじを引くことができる取組を12月2日から試行的に開始した。企画展の観覧券が当たるお楽しみを目当てに参加する方が多く、およそ6～8倍増の効果があつた。

■ 広報

1. 印刷物の作成・配布

・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMASコレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社の協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内にも設置している。その他、学校向けの利用案内などは手づくりのちらしを作成した。

・以上の印刷物や広報紙ソカロ、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、近隣自治会や商店会、カフェ、県内の情報拠点や小・中・高・特別支援学校、全国美術館等に配布した。

2. パブリシティ

・新聞、テレビ、雑誌、Web等の各種メディアで取り上げられるよう、展覧会等の事業について、記者発表（5回）やプレスリリース配信（3回）などを行った。

・企画展の会期初日に報道関係者等を招いたプレスカンファレンスを開催した（3回開催：計50名参加）。企画展「アブソリュート・チェアーズ」では関係者内覧会もあわせて開催した。

3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページ

を運用し、各種情報を発信した。

URL：<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

・情報項目：お知らせ（ニュース、広報紙ソカロ、プレスリリース、スタッフ募集）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、資料閲覧室、一般展示室／講堂、北浦和公園）、展覧会（企画展、MOMASコレクション、アーティスト・プロジェクト#2.0、年間スケジュール）、イベント（企画展関連イベント、MOMASコレクション関連イベント、MOMASのとびらカレンダー、イベント・カレンダーその他のイベント）、教育普及事業（MOMASのとびら、学校と美術館、ミュージアム・レクチャー、ミュージアム・シアター、作品ガイド、サポート・スタッフ）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、ファミス、ミュージアムショップ、レストラン・ペペロネ）、利用案内／交通案内、リンク、サイトマップ、Other Languages、収蔵品検索、図録の販売など。

・年間ページビュー数：912,242

4. SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

・Twitter公式アカウント（2011年7月～）では、美術館や北浦和公園の情報を定期的にツイートしている。

URL：https://twitter.com/momas_kouhou/

ツイート数：9,548、フォロワー数：27,588（3月末現在）

・YouTube公式アカウント（2014年1月～）では、展覧会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを配信している。

URL：<https://www.youtube.com/user/momas.jp>

・Facebook公式ページ（2014年7月～）では、展覧会や各種イベント、収蔵作品解説などの情報発信を行っている。

URL：<https://www.facebook.com/momaspr>

フォロワー数：3,354（3月末現在）

いいね！数：2,834（3月末現在）

5. その他

・年間スケジュールを英語翻訳し、ホームページ上で提供した。

・県の県民広聴課が11月にWEB公開した「バーチャル埼玉」に近代美術館も参加しており、館の概要や展覧会情報及び教育普及事業について掲載している。

・当館の概要を中国語（繁体字、簡体字）、スペイン語、韓国語に翻訳し、総合受付にて配布している。

・グーグル社が提供する「Google Arts & Culture」に参加しており、2024年3月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像99点（日英の解説付き）及び館内・北浦和公園のストリートビューをWEB上で閲覧することができる。

・2024年1月1日から1月28日までの間、JR大宮駅東口「アイ大宮東ビジョン」にて、企画展「イン・ビトウィーン」のPR動画を配信した（15秒／時間）。

■ 広報記録（他の事業で掲載していない記録を掲載）

<新聞>

- ・「何でもランキング 迫力の水しぶき、真夏の噴水」『日本経済新聞（NIKKEI プラス1）』2023年7月29日
- ・「てくてくジモトピア タウン記者が巡る地域の宝」『埼玉新聞』2023年8月2日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・西部晋二「一度は訪れてみたい日本の美しき近代建築 感動建築100選！」『ブックコム』2023年9月1日
- ・後藤さおり「日本のミュージアムを旅する」『天夢人』2024年2月21日

<テレビ、ラジオ>

- ・「朝情報★埼玉」『FM NACK5』2023年7月28日、11月7日、2024年3月13日
- ・「アート音痴で悪いか」『フジテレビ』2023年9月16日

<Web>

- ・「フリーデー活用で無料でアート鑑賞しよう！埼玉県立近代美術館の見どころ・スポットを紹介」『咲いたま、みつけ！』2023年7月10日
- ・「秋の行楽シーズン 家族で楽しめるスポット&イベント」『埼玉ママ情報』2023年10月16日
- ・「浦和ワシントンホテル 浦和の過ごし方（周辺情報）」『楽天トラベル』2024年3月22日

■ 刊行物

令和4年度版年報、令和5年度版要覧、令和6年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙ソカロを刊行した。年報、要覧、広報紙ソカロはホームページでも閲覧できる。

■ 広紙ソカロ

広報紙ソカロ（A3版2面・カラー印刷）を、2か月毎（年6回、各10,000部）に編集・発行・配布した。

■ 2023年6-7月号（#120 5月31日発行）

- ・無意識の世界を描く 一横尾龍彦の絵画制作（菊地真史）
- ・MOMASノ海（五味良子）
- ・MUSEUM NEWS 2023.6 ▶ 2023.7
- ・地域の企業との連携 浦和PARCOとのコラボレーション（平野剣）
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「スプリングポット」



■ 2023年8-9月号（#121 7月31日発行）

- ・収蔵品、海を渡る シカゴ美術館への作品貸出クーリエ報告（佐藤あゆか）
- ・特集：須田剋太（大越久子）
- ・MUSEUM NEWS 2023.8 ▶ 2023.9
- ・公募展のこれまでと、令和5年度（2023年度）からの取り組み（飯田淳乃）
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ハンカチ（ひびのこづえ）」



■ 2023年10-11月号 (#122 9月30日発行)

- ・イン・ビトウィーン (嶋原悠)
- ・永井天陽 遠回りの近景 (聞き手: 佐伯綾希)
- ・MUSEUM NEWS 2023.10 ▶ 2023.11
- ・展覧会図録の探し方 (河崎洋)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品
「2024年ダイアリー (葛西薫)」



■ 2023年12-2024年1月号 (#123 11月30日発行)

- ・魅惑のリアリズム (佐藤あゆか)
- ・サマー・アドベンチャー「ガムテープのズック屋さん！」(平井良子)
- ・MUSEUM NEWS 2023.12 ▶ 2024.1
- ・コレクションノート 早瀬龍江《妖火》1954年 (篠原優)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品
「椅子のペーパークラフト・カード」



■ 2024年2-3月号 (#124 1月31日発行)

- ・現代美術のなかの椅子なるもの (建島 哲/聞き手: 佐伯綾希)
- ・MUSEUM NEWS 2024.2 ▶ 2024.3
- ・公募展「みつめて」、かんにて、たべてみて！ —作品のみかた・味わいかた」食とアート 想像が現実になる！ (飯田淳乃)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「コースター、箸置き、髪留め (ヘアゴム)」



■ 2024年4-6月号 (#125 3月31日発行)

- ・美術館で椅子に座るといこと (佐伯綾希)
- ・さいきんのたまもの 令和4・5年度 新収蔵品紹介 (佐藤あゆか)
- ・MUSEUM NEWS 2024.4 ▶ 2024.6
- ・さいたま国際芸術祭をみて (松江李穂)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「16:1 (ペーパークラフト)」



■ 担当後記

◆2024年度に向けた広報紙ソカロのリニューアルについて調整を行った。年4回の季刊誌として発行回数を減らす代わりに、紙面を大きくすることで引き続き読者に当館の情報を発信していくこととなった。

昨年度に引き続き、週に1回X (旧 Twitter) において収蔵作品紹介を実施した。そのほか、教育普及事業の告知や収蔵作品の他館への貸出情報についてもX及びFacebookにて発信するなど幅広い情報が提供できるよう計画的にSNSを活用した。
(佐藤美絵)

■ 図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で必要な、基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

現在は、開室日を週3日とし、資料閲覧室の図書資料を公開している。

また今年度は、坂戸市にお住まいだった故・岩城邦男氏が蒐集した小村雪岱の装幀本や挿絵が掲載された雑誌等、1000点余の資料をご遺族が寄贈して下さった。それを記念して、小規模ではあったが「寄贈資料紹介〈岩城邦男コレクション〉」としてその一部を資料閲覧室で公開した(10月14日～2024年1月27日)。



■ 椅子の美術館

約70種類所蔵しているグッド・デザインの椅子やアートな椅子を館内に配置して、入館者に鑑賞を楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、ホームページで紹介している。

なお、以前は常時30～40脚程度を館内各所に配置し、入館者は自由に座ることができたが、新型コロナウイルス感染症対策のため令和5年の4月までは、座れる椅子を限定していた。しかし、5月以降に対策が緩和、感染症の分類も5類に移行したため、約3年ぶりに座れる椅子の配置を再開し、「椅子」をテーマにした企画展・常設展の開催期間には数多くの椅子を展示することで、様々な椅子を楽しめるようにした。

■ 蔵書冊数一覧

・一般書

| | 分類 | 令和4年度まで | 令和5年度 | 計 |
|----|-------------------|---------|-------|--------|
| 購入 | A 美術総記 | 2,473 | 3 | 2,476 |
| | B 日本美術 | 2,720 | 4 | 2,724 |
| | C 西洋美術 | 3,149 | 1 | 3,150 |
| | D 東洋 | 186 | 0 | 186 |
| | その他の美術 | | | |
| | E 図録 | 898 | 0 | 898 |
| | F 埼玉資料 | 269 | 1 | 270 |
| | G 関係諸学 | 793 | 0 | 793 |
| | 小計 | 10,488 | 9 | 10,497 |
| | 受贈 (一般図書・他館図録) | 37,329 | 806 | 38,135 |
| | 合計 | 47,817 | 815 | 48,632 |

・美術雑誌(継続受入中のみ)

購入 20タイトル(うち洋雑誌4タイトル)

受贈 445タイトル

計 465タイトル

・開室日数 149日

・利用者数 1,719人

・レファレンス受付件数 103件

■トピックス [1]

さいたま国際芸術祭との連携

さいたま国際芸術祭は、さいたま市を舞台に3年に一度開催される芸術の祭典である。令和5年度には、3回目となる「さいたま国際芸術祭2023」(会期:2023年10月7日~12月10日)が実施された。特に現代アートチーム 目[mé]がディレクターを務めたことは注目を集め、「わたしたち」をテーマに、旧市民会場おおみやをメイン会場として、国内外の多様なアーティストが紹介された。

当館では、企画展「イン・ビトウィーン」およびアーティスト・プロジェクト#2.07「永井天陽 遠回りの近景」を連携プロジェクトとして実施したほか、以下のとおり連携事業を行った。

■ 連携プロジェクト

企画展「イン・ビトウィーン」では、さいたま国際芸術祭実行委員会の負担金により、ジョナス・メカスの以下の映像作品3点を出品、上映した。

- ・「Williamsburg, Brooklyn」撮影:1950年/1972年 編集:2003年/12分
- ・「Travel Songs」撮影:1967-81年 編集:2003年/23分
- ・「幸せな人生からの拾遺集 (Out-takes from the Life of a Happy Man)」編集:2012年/68分

アーティスト・プロジェクト#2.07「永井天陽 遠回りの近景」では、負担金により、B2ポスター400枚、DM500枚を制作した。

■ 施設割引クーポン

「さいたま国際芸術祭2023」のメイン会場入場時に、当館を含む、さいたま市内5施設の観覧料が割引または無料になるクーポン券が配付された。当館ではクーポンにより、企画展およびMOMASコレクションが団体料金で観覧できるようにした。

- ・実施期間:2023年10月7日(土)~12月10日(日)
- ・対象施設:当館、大宮盆栽美術館、岩槻人形博物館、青少年宇宙科学館、宇宙劇場
- ・当館の利用実績:401人

■ スタンプラリー

「さいたま国際芸術祭2023」が連携施設等で行ったデジタルスタンプラリーに当館も参加した。各施設に設置された二次元コードを読み取り、スタンプを集めた来場者には、メイン会場(旧市民会館おおみや)等で景品が配付された。

- ・当館の実施期間:2023年11月22日(金)~12月10日(日)
- ・二次元コード設置場所:2階展示室入口付近
- ・当館の参加者数:57人(全体の参加者数:360人)

■トピックス [2]

埼玉りそな銀行との協賛連携事業

埼玉りそな銀行開業20周年にちなんで、当館と埼玉りそな銀行が連携し、下記の二つの事業を実施した。

① 埼玉りそな銀行フリーデー

実施期間:2023年7月15日(土)~8月27日(日)

開館当初に埼玉りそな銀行(旧埼玉銀行)の支援で収集した主な作品を、MOMASコレクションの「セクション:企業の支援によるコレクション」(5/13-8/27)において紹介した。それに連動して、埼玉りそな銀行の協賛、埼玉県立近代美術館フレンドの協力のもと、夏休み期間中に親子等で作品を観覧できるよう、MOMASコレクションの観覧料を無料とする「埼玉りそな銀行フリーデー」を開催した。開催前日の7月14日には、埼玉りそな銀行・代表取締役社長・福岡聡氏をはじめ、同銀行の関係者をお招きして、内覧会を開催した。(25頁も要参照)

※埼玉りそな銀行フリーデー開催期間中のMOMASコレクションの観覧者数:9,228人(令和4年度の同時期の観覧者数 4,942人)

② 公募展「みつめて、かんじて、たべてみて!一作品のみかた・味わいかた」試食イベント

実施日:2023年11月19日(日)、場所:当館レストランテラス

当館では継続的に児童生徒を対象とした公募展を実施してきた。令和5年度はその内容を改めて、「みつめて、かんじて、たべてみて!一作品のみかた・味わいかた」を開催し、児童生徒が課題に挙げられた4点の収集作品のうち1点を選んで鑑賞し、感じ取ったことや想像したことを、食べ物や料理になぞらえて絵で表現するというコンクールを行った。さらに、埼玉りそな銀行の協賛、埼玉県立近代美術館フレンドの協力のもと、総合グランプリ(審査員特別賞)の受賞作品を、公募展のアドバイザーであり審査員でもあるL.PACK.(小田桐奨氏、中嶋哲矢氏によるアーティスト・ユニット)が、実際に食べ物(ミルクレープ)として創作し、それを受賞者等に提供する試食イベントを開催した。(62頁も要参照)

■ 担当後記

◆埼玉りそな銀行との連携は、前年度の令和4年度に同銀行から当館に打診があり、当時の中村幸太郎副館長を中心に連携内容が検討された。開館当初に埼玉りそな銀行(旧埼玉銀行)から寄贈された田中保の作品群などを、企業の美術館支援という観点から、MOMASコレクションで紹介する一方、同銀行から協賛をいただき、夏休み期間中のMOMASコレクションの観覧料を無料にするという連携案が浮上した。さらに、埼玉県立近代美術館フレンドにもこの事業にご協力をいただくことになり、「埼玉りそな銀行フリーデー」が開催可能となった。◆「埼玉りそな銀行フリーデー」開催期間中のMOMASコレクションの観覧者数は、昨年度の同時期の観覧者数の約2倍となった。これまで有料の展示室に入ることに躊躇していた来館者が、気軽にMOMASコレクションを観覧できる仕掛けとして、フリーデーが大いに機能したと推測できる。また、親子や家族での来館者が増える夏休み期間に実施できたことも、効果につながった。

◆埼玉りそな銀行からは、公募展「みつめて、かんじて、たべてみて！
—作品のみかた・味わいかた」試食イベントに対して、「埼玉りそな銀行
フリーデー」と併せて協賛をいただくことになった。もともと公募
展自体はコンクールを行い、受賞作品の表彰式を実施することは確定
していた。しかし、受賞作品を実際に食べ物として創り、試食するイベ
ントについては経費の捻出が必要であった。この経費に関して、埼玉
りそな銀行と埼玉県立近代美術館フレンドに協賛、協力をいただいた。
◆試食イベントでは、総合グランプリ（審査員特別賞）の受賞作品がL
PACK、の手によって素晴らしいミルクレープとして創作され、受賞者
やそのご家族等にふるまわれた。決して派手な試食イベントではなか
ったが、天気にも恵まれて祝祭感に包まれ、参加された受賞者の方々
もたいへん満足されていた様子が印象的であった。また、現代美術に
おいては、リクリット・ティラヴァーニヤのように、食を通じて集うこ
と自体にアートの新たな意味を見出そうとしている美術家がいるが、
公募展の試食イベントはこういったテーマにも通じていくように思わ
れた。（平野到）

■トピックス [3]

第13回ミュージアムフォーラム

学芸員の日々の研究活動を理解してもらうとともに、研究成果を廣
く公開するため、平成23年度より毎年「学芸員合同研究発表会—ミュー
ジウムフォーラム—」を県立博物館8館合同で開催している。令和
5年度は、例年会場になっていた埼玉県立歴史と民俗の博物館が改修中
のため、埼玉県立近代美術館を会場に、5館の県立博物館・美術館の学
芸員が近年取り組んできた研究の成果について発表した。

■主催

埼玉県教育委員会、埼玉県立歴史と民俗の博物館、埼玉県立さきた
ま史跡の博物館、埼玉県立嵐山史跡の博物館、埼玉県立自然の博物館、
埼玉県立近代美術館、埼玉県立文書館、さいたま文学館、埼玉県立川の
博物館

■開催日、会場

2023年12月17日（日）、当館2階講堂

■参加者数

参加者合計49名：事前申込22名、当日参加27名

■発表プログラム

発表①（自然）

「貝化石から古環境をひも解く」

山岡 勇太（埼玉県立自然の博物館 学芸員）

発表②（考古）

「寄居町末野窯跡群における武蔵国分寺瓦の生産について」

宮原 正樹（埼玉県立さきたま史跡の博物館 学芸員）

発表③（歴史）

「埼玉のお伊勢参り—文書館収蔵史料の事例から—」

木暮 咲樹（埼玉県立文書館 学芸員）

発表④（日本美術史）

「諸井家旧蔵絵画類について—江戸後期の文人画を中心に」

井上 海（埼玉県立歴史と民俗の博物館 学芸員）

発表⑤（近現代美術）

「戦時下の美術—埼玉県の美術家の動向を中心に」

鳴原 悠（埼玉県立近代美術館 学芸員）

■担当後記

◆自然、考古、歴史、日本美術史、近現代美術の5分野の学芸員が、午
前、午後に分かれて、研究発表を行った。いずれの発表も、各学芸員が
現在まさに取り組んでいる調査研究がテーマになっており、たいへん
実感のこもった内容であったといえる。全体のテーマを据えてミュー
ジウムフォーラムを開催したこともあったが、今回は全体のテーマは
掲げず、学芸員自身が発表テーマを個別に設定する方針をとった。こ
ういった進め方によって、学芸員の自主性が最大限に発揮されたよう
に思われる。会場からの質問も活発に寄せられていたのが、印象的で
あった。（平野到）

■トピックス [4] SMFとの連携

平成20年から平成24年にかけて、文化庁のモデル事業・補助事業
として、地域と共働したアートプログラムやアウトリーチ活動を展開
する事業を実施したが、その成果を継承し平成25年にサイタマミュー
ズフォーラム（SMF / Saitama Muse Forum）が発足した。現在は、
人間市博物館、うらわ美術館、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館と
いった県内各地の公立ミュージアムがSMFとゆるやかに連携し、情
報交換や連携事業などを行っている。連携館との関係の見直しが今後
の課題となっている。なお、令和5年度はSMFは一般展示室で以下
の事業を開催している。

・「TAKARABUNE2024 漕ぎだしたアートのまつり」

2024年3月27日～3月31日 / 一般展示室1 / 共催：埼玉県立近代美
術館 / 来場者：818人

※SMFの趣旨・これまでの活動等については、SMFホームページ
<http://www.artplatform.jp> を参照のこと。

■ 埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることによって美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス (fam.s=friends of art museum, saitama)。

■ 会員数

412 件 (令和 6 年 3 月 31 日現在)

内訳：一般会員 282 人、ペア会員 46 人、学生会員 5 人、家族会員 38 家族 (132 人)、賛助会員 (個人) 15 人、賛助会員 (法人) 9 団体、特別賛助会員 17 団体

■ 活動内容

1. 企画委員会

①ギャラリー・トークの開催 (会員限定)

・8 月 21 日 (月) /2 階展示室/企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」の担当学芸員による解説/参加者：12 人

・12 月 18 日 (月) /2 階展示室/企画展「イン・ビトウィーン」の担当学芸員による解説/参加者：14 人

②ファミス会員作品展

「ファミスフェスティバル 2024」の開催

・令和 6 年 1 月 23 日 (火)～1 月 28 日 (日) /一般展示室/出品者 48 名 (出品点数 90 点) 観覧者 1,012 人

・会期中イベント 1 月 28 日 (日) ワークショップ「みんなであつくるう」

2. 広報委員会

①『ファミス通信』第 49 号の発行 (5 月)

②『ファミス通信』第 50 号の発行 (11 月)

3. ミュージアム・ショップ運営委員会

①日本橋高島屋とのコラボレーション企画「椅子とめぐる 20 世紀のデザイン展」

開催日：令和 6 年 2 月 29 日 (木)～3 月 18 日 (月)

実施場所：日本橋高島屋 S.C.

実施内容：当館の企画展「アブソリュート・チェアーズ」と日本橋高島屋「椅子とめぐる 20 世紀のデザイン展」のコラボレーション企画。双方の展示会場で広報をするとともに当館ミュージアムショップで販売している椅子の図録を高島屋で出張販売。

②サマーセールの実施/8 月 1 日 (火)～8 月 31 日 (木)

4. 事務局

①『令和 4 年度フレンド年報』の発行 (7 月)

②会員限定ギャラリー・トークの開催 (8 月 21 日、12 月 18 日)

③ファミス会員作品展の開催 (1 月 23 日～1 月 28 日)

■ 担当後記

◆今年度はギャラリー・トークの開催に加え、新企画で会員の作品展を開催して多くの観覧者を得た。次年度は、探訪会を再開するなど、会員に喜ばれる企画・情報をお届けして美術館活動に貢献したい。

(事務局・野口/飯田)

■ 埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

令和 6 年 3 月 31 日現在

| 氏名 | 現職等 | 備考 |
|-------|----------------------------------|----------------------|
| 清水 武司 | 秩父地域利用者 写真家 | 会長 |
| 武島 裕 | 秩父地域利用者 | 副会長 |
| 丸山 晃 | 県西地域利用者 (株) 埼玉新聞社 相談役 | |
| 小林 真 | 秩父地域利用者 デザイナー (株) コア 取締役顧問 | |
| 滝沢 布沙 | 県北地域利用者 染色家 | |
| 水野 晶子 | 県南地域利用者 | ミュージアム・ショップ 運営委員長 |
| 依田 衣恵 | 県南地域利用者 | 企画委員 |
| 島村 克己 | 県南地域利用者 (株) テレビ埼玉常務取締役 | |
| 野口 恵子 | 県南地域利用者 | 広報委員 |
| 根岸 和美 | 秩父地域利用者 | |
| 遠藤 俊明 | 東部地域利用者 | 監事 |

■ 貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室1～4が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申し込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。

また、集会などの会場として講堂を貸し出している。令和5年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

令和6年1月受付分から、メールでの申請受付も開始した。

一般展示室

- ・利用単位：1週間（月曜日の午後1時～翌週月曜日正午）。連続の場合は最長3週間。
- ・使用料（1週間当たり）：
一般展示室 1—238,700円、2—92,400円、
3—53,900円、4—30,800円

講堂

- ・利用単位：1時間
- ・使用料：1時間当たり2,200円

■ 一般展示室利用状況

| No. | 展覧会名 | 開催期間 令和5年度 | | 開催日数 (日) | 利用室 | 分野 | 展示 | 観覧 | 一日平均 |
|-----|------------------------------------|------------|-------|-------------|-----|--------------------------------|-------|--------|------|
| | | 自 | 至 | | | | 点数 | 者数 | 観覧者数 |
| | | | | | | | (点) | (人) | (人) |
| 1 | 第二回「扇面書画の世界」 | 4月4日 | 4月9日 | 6 | 2 | 書、水墨画 | 114 | 600 | 100 |
| 2 | 2023阿佐見昭彦写真展<記憶の迷宮> | 4月4日 | 4月9日 | 6 | 3 | 写真 | 38 | 732 | 122 |
| 3 | 第37回漢水会展 | 4月4日 | 4月9日 | 6 | 4 | 日本画、水彩、油彩、書、水墨画 | 49 | 587 | 97 |
| 4 | 第38回さいたま開秀展 | 4月11日 | 4月16日 | 6 | 1 | 書 | 54 | 604 | 100 |
| 5 | 第51回主体美術武蔵野作家展 | 4月11日 | 4月16日 | 6 | 2・3 | 油彩、アクリル | 75 | 596 | 99 |
| 6 | 第9回彩友会ボタニカルアート展 | 4月11日 | 4月16日 | 6 | 4 | 水彩 | 56 | 742 | 123 |
| 7 | 群炎埼玉支部展 | 4月18日 | 4月23日 | 6 | 2 | 水彩、油彩、工芸、写真、創作人形 | 65 | 477 | 79 |
| 8 | 細田喜代美展 | 4月18日 | 4月23日 | 6 | 3 | 油彩 | 31 | 464 | 77 |
| 9 | 第67回ありあるクリエイションズ藝術企画 ヨシズミ トシオ個展 | 4月18日 | 4月30日 | 12 | 4 | 油彩、版画、水墨画 | 44 | 1,037 | 86 |
| 10 | 第46回埼玉女流工芸展 | 4月27日 | 4月30日 | 4 | 1 | 工芸 | 123 | 880 | 220 |
| 11 | 第17回フォト・トルトゥーガ写真展 | 4月25日 | 4月30日 | 6 | 2 | 写真 | 54 | 790 | 131 |
| 12 | 矢部彰日本画展 一晩年を生きた私の心の色- | 4月25日 | 4月30日 | 6 | 3 | 日本画 | 50 | 309 | 51 |
| 13 | 第26回埼玉二科展 | 5月2日 | 5月7日 | 6 | 1～4 | 水彩、油彩、彫刻、デザイン | 109 | 1,460 | 243 |
| 14 | 第71回埼玉県美術展覧会 | 5月31日 | 6月22日 | 20 | 1～4 | 日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真 | 1,839 | 18,011 | 900 |
| 15 | 第42回埼玉県高等学校写真連盟写真展 | 7月4日 | 7月9日 | 6 | 1 | 写真 | 500 | 1,081 | 180 |
| 16 | 第28回基の会展 | 7月4日 | 7月9日 | 6 | 2 | 油彩 | 17 | 394 | 65 |
| 17 | 第33回白の会展 | 7月4日 | 7月9日 | 6 | 3 | 油彩 | 26 | 458 | 76 |
| 18 | 第21回埼玉独立展 | 7月11日 | 7月16日 | 6 | 1 | 油彩、その他、アクリル | 59 | 595 | 99 |
| 19 | 2023埼玉モダンアート展 | 7月11日 | 7月16日 | 6 | 2・3 | 水彩、油彩、版画、その他、スペースアート | 34 | 586 | 97 |
| 20 | 明鏡止水展 付随展 | 7月11日 | 7月16日 | 6 | 4 | その他、アクリル | 42 | 529 | 88 |
| 21 | 第49回埼玉二科展 | 7月18日 | 7月23日 | 6 | 1～4 | 油彩、彫刻 | 89 | 1,006 | 167 |
| 22 | 工藤信芳展 | 7月25日 | 7月30日 | 6 | 2 | 水彩、油彩、コラージュ | 54 | 386 | 64 |
| 23 | Sakura Tsuno 原島辰男二人展 | 7月25日 | 7月30日 | 6 | 4 | 写真、その他、アクリル | 46 | 559 | 93 |
| 24 | 高桑昌作画業50周年記念「自己分析展」 | 8月1日 | 8月6日 | 6 | 1 | その他、ミクストメディア | 66 | 685 | 114 |
| 25 | 第32回旺文会埼玉支部展 | 8月1日 | 8月6日 | 6 | 2～4 | 日本画、水彩、油彩、版画、アクリル、 ミクストメディア | 79 | 680 | 113 |
| 26 | 第57回埼玉平和美術展 | 8月8日 | 8月13日 | 6 | 1～4 | 油彩、写真、工芸、その他、インスタレーション | 353 | 1,358 | 226 |
| 27 | 第7回公募2IN展 | 8月15日 | 8月20日 | 6 | 1 | 日本画、水彩、油彩、版画、彫刻、工芸、写真 | 185 | 1,455 | 242 |
| 28 | 武蔵野写真（内野知樹） | 8月15日 | 8月20日 | 6 | 4 | 写真 | 1,466 | 608 | 101 |
| 29 | 第35回墨芳展併催第9回墨芳学生書道展 | 8月23日 | 8月27日 | 5 | 1・3 | 書 | 448 | 922 | 153 |
| 30 | 第2回グループエスポワール絵画展 | 8月22日 | 8月27日 | 6 | 4 | 水彩、油彩 | 31 | 696 | 116 |
| 31 | 第61回公募新構想埼玉展 | 8月29日 | 9月3日 | 6 | 1 | 油彩、水彩、ドローイング、版画 | 69 | 682 | 113 |
| 32 | ヨシズミ トシオ展 | 8月29日 | 9月10日 | 12 | 4 | 油彩、版画、その他、水墨画 | 42 | 808 | 67 |
| 33 | 第36回埼玉創作展（公募） | 9月5日 | 9月10日 | 6 | 1 | 日本画、水彩、油彩 | 62 | 624 | 104 |
| 34 | 現代中国芸術国際交流第5回目 | 9月5日 | 9月10日 | 6 | 2・3 | 水彩、油彩、ドローイング、版画、彫刻、水墨画 | 50 | 410 | 68 |
| 35 | 第66回埼玉書道展併催高等学校臨書の部 | 9月15日 | 9月17日 | 3 | 1～4 | 書 | 712 | 950 | 316 |
| 36 | 第40回埼玉写真サロン | 9月19日 | 9月24日 | 6 | 1 | 写真 | 410 | 1,123 | 187 |
| 37 | 第15回フォトサークル・オプト写真展 | 9月19日 | 9月24日 | 6 | 2 | 写真 | 229 | 956 | 159 |
| 38 | フォトグループWAVE第37回写真展 | 9月19日 | 9月24日 | 6 | 3 | 写真 | 89 | 874 | 145 |

| No. | 展覧会名 | 開催期間 R5年度 | | 開催 日数 (日) | 利用室 | 分野 | 展示 点数 | 観覧 者数 | 一日平均 観覧者数 |
|-----|---|----------------|-----------------|-----------------|------------|---|----------|----------|--------------|
| | | 自 | 至 | | | | (点) | (人) | (人) |
| 39 | 第13回ニコールクラブさいたま支部写真作品展 | 9月19日 | 9月24日 | 6 | 4 | 写真 | 41 | 758 | 126 |
| 40 | ムサ美埼玉2023展 | 9月26日 | 10月1日 | 6 | 1 | 日本画、水彩、油彩 | 124 | 774 | 129 |
| 41 | 悠友展 | 9月26日 | 10月1日 | 6 | 2・3 | 水彩、油彩 | 58 | 541 | 90 |
| 42 | 東条西味「中日絵画の融合」 王淑芝（在日三十年回顧展） | 9月26日 | 10月1日 | 6 | 4 | 日本画、墨彩画 | 76 | 473 | 78 |
| 43 | 公募第55回第一美術協会埼玉支部展 | 10月3日 | 10月8日 | 6 | 1 | 水彩、油彩、彫刻、工芸、水墨画 | 142 | 951 | 158 |
| 44 | 第56回埼玉三軌展 | 10月3日 | 10月8日 | 6 | 2・3 | 日本画、水彩、油彩 | 54 | 548 | 90 |
| 45 | 第38回溪水会展 | 10月3日 | 10月8日 | 6 | 4 | 日本画、水彩、油彩 | 46 | 599 | 99 |
| 46 | 第19回水彩画連盟埼玉支部展 | 10月10日 | 10月15日 | 6 | 1 | 水彩 | 49 | 817 | 136 |
| 47 | 第22回純展埼玉支部展 | 10月10日 | 10月15日 | 6 | 2 | 水彩、油彩、その他、ペン画 | 79 | 652 | 108 |
| 48 | 黄綏裳受章記念 和紙ファイバーアートの世界 山口幸子展 | 10月10日 | 10月15日 | 6 | 3 | その他、和紙 | 25 | 985 | 164 |
| 49 | 権会 創作人形展（たのしい仲間達） | 10月10日 | 10月15日 | 6 | 4 | 工芸 創作人形 | 230 | 795 | 132 |
| 50 | 第8回福寿舎書展 | 10月17日 | 10月22日 | 6 | 1 | 書 | 89 | 346 | 57 |
| 51 | 第24回地平展 | 10月17日 | 10月22日 | 6 | 2 | 油彩、その他、インスタレーション | 45 | 471 | 78 |
| 52 | 第38回アート現守展 | 10月17日 | 10月22日 | 6 | 3 | 油彩、その他、アクリル、コラージュ | 30 | 329 | 54 |
| 53 | 全日写連浦和支部写真展 | 10月17日 | 10月22日 | 6 | 4 | 写真 | 33 | 473 | 78 |
| 54 | 第44回太平洋埼玉展 | 10月24日 | 10月29日 | 6 | 1 | 水彩、油彩、版画、その他、染織 | 99 | 699 | 116 |
| 55 | 現代アート「実験02」展 | 10月24日 | 10月29日 | 6 | 2 | 油彩、工芸、その他、ミクストメディア | 87 | 537 | 89 |
| 56 | 第41回キヤノンフォトクラブ浦和写真展 | 10月24日 | 10月29日 | 6 | 3 | 写真 | 46 | 493 | 82 |
| 57 | 2023CAF ネビュラ展 | 11月1日 11月7日 | 11月5日 11月12日 | 11 | 1~4 1~3 | 日本画、水彩、油彩、版画、彫刻、その他、 インスタレーション | 90 | 3,105 | 282 |
| 58 | 加藤繪多絵画展 | 11月7日 | 11月12日 | 6 | 4 | 水彩、油彩 | 41 | 389 | 64 |
| 59 | 第66回埼玉県高校美術展 | 11月15日 | 11月19日 | 5 | 1~4 | 日本画、水彩、油彩 | 866 | 3,361 | 672 |
| 60 | 第62回高校書道展 | 11月22日 | 11月26日 | 5 | 1~4 | 書 | 645 | 682 | 136 |
| 61 | 第14回障害者アート企画展 アートミーティングさいたま国際芸術祭一 | 11月29日 | 12月3日 | 5 | 1~4 | 日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画、彫刻、 工芸、写真 | 600 | 1,700 | 340 |
| 62 | 第57回全日本書道芸術展 | 12月5日 | 12月10日 | 6 | 1・2 | 書 | 289 | 499 | 83 |
| 63 | 写真展 何気ない日々の一瞬一会 | 12月5日 | 12月10日 | 6 | 4 | 写真 | 48 | 345 | 57 |
| 64 | 永山佐和子水彩画展 | 12月12日 | 12月17日 | 6 | 4 | 水彩 | 40 | 786 | 131 |
| 65 | 第58回「郷土を描く児童生徒美術展」 | 12月23日 | 12月24日 | 2 | 1~4 | 水彩 | 120 | 606 | 303 |
| 66 | 第26回囃の会展 | 1月9日 | 1月14日 | 6 | 1~4 | 日本画、水彩、油彩、彫刻、工芸 | 162 | 632 | 105 |
| 67 | 第45回埼玉県書道人連盟役員新春展 伊権「大作展」 | 1月16日 | 1月21日 | 6 | 1~4 | 書 | 217 | 681 | 113 |
| 68 | 文教大学教育学部学校教育課程美術専修 卒業制作展 | 1月23日 | 1月28日 | 6 | 1 | 油彩、工芸、その他、アクリル | 13 | 704 | 117 |
| 69 | 第三回文教大学OB・OG展 | 1月23日 | 1月28日 | 6 | 3 | 日本画、水彩、油彩、彫刻 | 24 | 563 | 93 |
| 70 | アートでつながる作品展 第1回ファミラスフェスティバル | 1月23日 | 1月28日 | 6 | 4 | 日本画、水彩、油彩、工芸、写真 | 87 | 1,012 | 168 |
| 71 | 第47回埼玉国展 | 1月30日 | 2月4日 | 6 | 1 | 油彩、写真 | 58 | 611 | 101 |
| 72 | ラルゲット30周年記念展 | 1月30日 | 2月4日 | 6 | 2 | 日本画、水彩、ドローイング、その他、染色 | 40 | 697 | 116 |
| 73 | 令和5年度埼玉県立美術系高等学校 作品展・卒業制作展（5校合同展） | 2月7日 | 2月11日 | 5 | 1~4 | 水彩、油彩、その他、映像、ミクストメディア | 800 | 2,185 | 437 |
| 74 | 第43回野美展 | 2月13日 | 2月18日 | 6 | 2 | 日本画、水彩、油彩、ドローイング、彫刻、工芸 | 55 | 614 | 102 |
| 75 | 埼玉大学教育学部美術・図画工作分野卒業制作展 有志展「彩展」 | 2月20日 | 2月25日 | 6 | 2~4 | 水彩、油彩、ドローイング、版画、彫刻、工芸、写真、 書、その他、漫画、アニメーション | 67 | 672 | 112 |
| 76 | 全日写連ネーチャーフォト支部 写真展 | 2月27日 | 3月3日 | 6 | 4 | 写真 | 69 | 508 | 84 |
| 77 | 第49回埼玉書道三十人展 | 3月5日 | 3月10日 | 6 | 1 | 書 | 44 | 1,661 | 276 |
| 78 | 第13回関口健司展 | 3月5日 | 3月10日 | 6 | 2 | 水彩 | 32 | 407 | 67 |
| 79 | 埼玉現展 | 3月5日 | 3月10日 | 6 | 3・4 | 日本画、水彩、油彩、写真、デザイン | 91 | 1,060 | 176 |
| 80 | 第11回埼玉植物画の会作品展 | 3月12日 | 3月17日 | 6 | 2 | 水彩 | 136 | 1,164 | 194 |
| 81 | 鈴木千賀子の世界展 | 3月12日 | 3月17日 | 6 | 4 | 彫刻、工芸 | 100 | 801 | 133 |
| 82 | 第8回公募2D展 | 3月19日 | 3月24日 | 6 | 1 | 日本画、水彩、油彩、版画、ドローイング、彫刻 | 205 | 1,232 | 205 |
| 83 | 第29回彩の国さいたまきりえ展 | 3月19日 | 3月24日 | 6 | 2 | その他、きりえ | 91 | 1,201 | 200 |
| 84 | 彩の国写真倶楽部・写真展 | 3月19日 | 3月24日 | 6 | 4 | 写真 | 43 | 906 | 151 |
| 85 | TAKARABINE 2024 アートのまつり 漕ぎ出したアートのまつり | 3月27日 | 3月31日 | 5 | 1 | その他、インスタレーション | 22 | 818 | 136 |
| 86 | 第2回白田知恵子アートキルト個展 | 3月26日 | 3月31日 | 6 | 3 | その他、パッチワークキルト | 72 | 844 | 140 |
| 87 | 手織り工房マノ・デ・アール美術館展 （第14回作品展） | 3月26日 | 3月31日 | 6 | 4 | 工芸 | 75 | 766 | 127 |

■ 令和5年度入館者数一覧

| | 入館者数 | 展 示 事 業 | | | | | | |
|------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|--------|--------|
| | | MOMAS コレクション | 企 画 展 示 | | | | | |
| | | | 戸谷成雄 彫刻 | 横尾龍彦 颯想の彼方 | イン・ビトウィーン | アブソリュート・ チェアーズ | 企画展計 | |
| 開催期間 | 4/1(土) ～ 3/31(日) | 4/1(土) ～ 3/31(日) | 4/1(土) ～ 5/14(日) | 7/15(土) ～ 9/24(日) | 10/14(土) ～ 1/28(日) | 2/17(土) ～ 3/31(日) | | |
| 日 数 (日) | 305 | 289 | 39 | 65 | 85 | 38 | 227 | |
| 観覧者数・利用者数 (人) | 167,976 | 37,724 | 5,417 | 7,868 | 8,500 | 5,066 | 26,851 | |
| 1日当たり平均 (人) | 550 | 130 | 138 | 121 | 100 | 133 | 118 | |
| 有 料 | 一般個人 | 入 館 料 無 料 | 8,062 | 2,733 | 3,641 | 3,574 | 2,554 | 12,502 |
| | 一般団体 | | 1,252 | 144 | 284 | 654 | 310 | 1,392 |
| | 大高個人 | | 647 | 307 | 341 | 370 | 286 | 1,304 |
| | 大高団体 | | 64 | 5 | 16 | 61 | 7 | 89 |
| | 合計(人) | | 10,025 | 3,189 | 4,282 | 4,659 | 3,157 | 15,287 |
| 無 料 (人) | — | 27,699 | 2,228 | 3,586 | 3,841 | 1,909 | 11,564 | |

| | 普 及 事 業 | | | | 貸館事業 | |
|------------------|---------|----------------|----------|-------|------------------------|-------------------------|
| | 企画展関連 | MOMASコレクション 関連 | 教育・普及 関連 | 資料閲覧室 | 一 般 展示室 | 埼玉県美術展覧会 |
| 開催期間 | | | | | 4/4(火) ～ 3/31(日) | 5/31(水) ～ 6/22(木) |
| 日 数 (日) | 15 | 8 | 45 | 149 | 241 | 20 |
| 観覧者数・利用者数 (人) | 593 | 191 | 1,837 | 1,719 | 70,156 | 18,011 |
| 1日当たり平均 (人) | 39 | 23 | 40 | 11 | 291 | 900 |
| 有 料 | 一般個人 | — | — | — | — | — |
| | 一般団体 | | | | | |
| | 大高個人 | | | | | |
| | 大高団体 | | | | | |
| | 合計(人) | | | | | |
| 無 料 (人) | — | — | — | — | — | — |

月別入館者数

| 月 別 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|-------------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 入館者数 (人) | 13,314 | 13,105 | 21,028 | 9,171 | 14,874 | 13,763 | 13,195 | 17,611 | 10,203 | 11,385 | 12,309 | 18,018 | 167,976 |

■ 名簿

■ 埼玉県立近代美術館協議会委員

令和6年3月31日現在

| 選出区分 | 氏名 | 現職 |
|---------|--------|---------------------------------|
| 学校教育関係者 | 秋本 文子 | 埼玉県市町村教育委員会連合会理事 羽生市教育委員会教育長 |
| | 森田 豊 | 埼玉県美術教育連盟連盟長 深谷市立上柴中学校長 |
| 社会教育関係者 | 寺久保 文宣 | 埼玉県美術家協会洋画部招待作家 |
| | 山田 明子 | 川越市立美術館長 |
| 家庭教育関係者 | 岡野 啓子 | 埼玉県家庭教育振興協議会理事 |
| 学識経験者 | 青木 聖吾 | 美術家 |
| | 井口 壽乃 | 埼玉大学大学院教授 |
| | 代田 一貴 | NHKさいたま放送局副局長 |
| | 關谷 宏之 | 武蔵野銀行地域サポート部長 |
| | 野中 味恵子 | さいたま市民生委員児童委員協議会理事 |
| | 山田 志麻子 | うらわ美術館学芸員 |
| | 吉野 律 | 国立新美術館学芸課 国際連携室プロジェクト・マネージャー |

■ 埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

令和6年3月31日現在

| 氏名 | 現職 | 任期 |
|--------|--|-------------------|
| 滝沢 恭司 | 町田市立国際版画美術館 学芸担当係長 | R5. 6. 7～R7. 6. 6 |
| 野地 耕一郎 | 泉屋博古館東京 館長 | R5. 6. 7～R7. 6. 6 |
| 樋田 豊次郎 | 美術史家 | R5. 6. 7～R7. 6. 6 |
| 山梨 俊夫 | 地方独立行政法人大阪市博物館 機構理事 | R5. 6. 7～R7. 6. 6 |
| 光田 由里 | 多摩美術大学アートアーカイヴ センター所長兼同大学院美術研 究科教授 | R5. 6. 7～R7. 6. 6 |

■ 埼玉県立近代美術館利用審査会委員

令和6年3月31日現在

| 氏名 | 現職 | 任期 |
|--------|------------------------|---------------------|
| 飯野 一朗 | 彫金作家 東京藝術大学名誉教授 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |
| 栗崎 浩一路 | 書家 熊谷市美術家協会顧問 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |
| 小澤 基弘 | 洋画家 埼玉大学教育学部教授 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |
| 吉武 研司 | 洋画家 独立美術協会会員 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |
| 内藤 五瑠 | 日本画家 日本美術院特待 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |
| 林 喜一 | 写真家 全日本写真連盟監事 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |
| 松本 光司 | 埼玉県教育局市町村支援部 文化資源課長 | R5. 1. 15～R7. 1. 14 |

■ 埼玉県立近代美術館職員

令和6年3月31日現在

| 担当 | 職名 | 氏名 |
|---------------------|-----------|--------|
| | 館長 | 建畠 哲 |
| | 副館長 | 藤倉 陽子 |
| 総務、管理担当 | 担当部長 | 栗林 雅志 |
| | 担当課長 | 宮田 美香 |
| 総務担当 | 主任 | 佐藤 耕史 |
| | 主任 | 壽原 駿太郎 |
| 管理担当 | 会計年度任用職員 | 福田 絃顯 |
| | 担当課長 | 本田 亮二 |
| | 主任 | 角田 守 |
| 企画展、教育・広報、常設展・収蔵品担当 | 主任 | 福島 良 |
| | 主席学芸主幹 | 平野 到 |
| | 主任学芸員 | 吉岡 知子 |
| | 学芸員 | 鳴原 悠 |
| | 学芸員 | 菊地 真央 |
| | 学芸員 | 佐伯 綾希 |
| | 学芸員 | 平井 良子 |
| 教育・広報担当 | 担当課長 | 佐藤 美絵 |
| | 主任 | 飯田 淳乃 |
| | 主任専門員兼学芸員 | 大越 久子 |
| 企画展担当 | 学芸員 | 篠原 優 |
| | 会計年度任用職員 | 高橋 南々花 |
| | 学芸員 | 五味 良子 |
| | 学芸員 | 佐藤 あゆか |
| | 学芸員 | 松江 李穂 |
| | 学芸員 | 河崎 洋 |
| | 会計年度任用職員 | |
| 常設展・収蔵品担当 | 学芸員 | |
| | 学芸員 | |

埼玉県立近代美術館年報[令和5年度]

発行：埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話：048-824-0111(代)／ファクス：048-824-0119(代)

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

発行日：令和6年8月30日